

八 中国政情関係

800

昭和6年1月2日

在天津田尻總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

南京引揚げ後の張學良の対日および對中央政府態度について

天津 1月2日後発
本省 1月3日後着

第一號

(一)満洲ニ於ケル排日ノ噂ニ付テハ學良側近者ニ於テモ憂慮シ居ルカ如ク來津當時學良ヲシテ日本側記者團ヲ進ンテ引見シ夫レトナク釋明セシメタル程ニテ當地邦字新聞記事ニ對シテモ注意ヲ拂ヒツツアル處學良ノ腹ハ容易往電第五三三號ノ通特ニ對日態度硬化シタル模様ナク從テ將來ハ兎ニ

ノ通御參考迄
南京引揚以來ノ張學良ノ態度ニ付テハ絶ヘス注意ヲ怠ラサルモ容易ニ懇談ノ機會ヲ得難キ實情ナル處各方面ノ情報及客年末來津セル江藤ト餘事ノ會見談等ヲ綜合スルニ概略左ノ通御参考迄

ハ之ヲ承諾セル由ナリ

四、因二十日漢字紙ハ聯合事件ニ關シ古野ヨリ外交部ニ陳謝シ外交部ハ聯合ノ發電ヲ許可スヘキ旨回答セル趣ヲ報道シ居レリ
北平、奉天、哈爾賓、吉林、問島、濟南、青島、天津、漢口、福州、廣東、南京ニ轉電シ哈爾賓ヨリ齊々哈爾ヘ轉電セシム

上海へ轉報セリ

角學良ノ歸奉後直ニ排日運動ノ勃發ヲ見ルヘシトナスカ如キハ餘リニ穿チ過キタル觀察ナルヘシ右ニ關シ學良力江藤ヘノ談ニ依レハ「蔣介石トハ對内問題ニ付協議シタルモ排日態度ヲ執ルコト（ニ付）話セシコトナシ又日本新聞ニ現ハレタル排日ニ關スル諸事項ニ付テハ何故ニ日本ノ空氣ノ悪化セシヤ其ノ原因ト理由ヲ知ルニ苦シム右ハ自分ニ反感ヲ持ツ者ノ捏造宣傳ト見ルノ外ナシ固ヨリ自分力第一ニ中國ノ福利増進ヲ計ルハ當然ニシテ之ヲ阻害スル日本ノ要求ニハ應シ得サル立場ハ諒解アリ度ク何レ近ク相當ノ代表者ヲ派シ日本トノ諒解ニ努ムル筈ナリ」トノコトニテ其ノ言語態度顏色ニ於テ特ニ反日的意圖ヲ含ミ居ルモノトハ見受ケラレサル由ナリ但シ之ヲ以テ學良ノ對日好意ノ表明ト見ルヲ得サルハ明カナルカ尙一方排日ノ噂力單ニ日本新聞記者ノ想像ニ止マルヤ將又中央政府部内ニ於ケル一部蔣介石ニ慊ラサル分子（例へハ胡漢民一派）及奉天舊派安福系等カ絲ヲ引キ我方記者ヲ操リ出先陸軍ニ色目ヲ使ヒ居ルモノ

ナリヤハ一段ノ考究ヲ要スヘシ

(二)學良ノ中央服從ニ付テハ東北ノ利害ニ反セサル限りニ於テ表面上之ヲ推戴シ乍ラ出來得ル限り之ヲ利用セントスル腹アルコトハ當地一般ノ觀察ニシテ蔣介石ニ對スル感情モ目下惡化ノ徵ナキコトモ疑ノ余地ナカルヘキ處中央ノ東四省ニ對スル干涉ヲ排除スルハ勿論河北一帶ニ亘リテモ實力ノ扶植ニ努メツツアルハ事實ニシテ山西及西北軍等ノ善後問題ノ如キモ一應商震宋哲元等ノ將領ヲ利用シ縮小改編ヲ實行シタル上成ルヘク早目ニ奉天系分子ヲ以テ之ニ代ヘントスル腹アリ(此ノ點江藤ヘノ談極秘扱セラレ度シ)而モ所要經費ハ中央ヲシテ負擔セシムル計畫ニシテ之ニ關シ今少シク見込立タサル限り學良ハ當地滯在ヲ餘儀ナクセラルヘク歸奉日取ノ尙未定ナルカ如シ尙學良ノ中央利用ハ外交方面ニ於テ最モ著シカルヘク滿蒙鐵道問題交渉ノ如キハ之力爲第一ニ崇リヲ受クルモノト覺悟スルノ要アルヘク第一ニ中國ノ福利增進ヲ計ルヲ要ストノ學良ノ言ハ意味極メテ深長ナルヲ覺ユ

(三)裁釐後ニ於ケル地方財政ニ付テハ中央收入ヲモ轉帳式ニ依リ收支報告ニ止メ現金ノ輸送ヲ爲サス直ニ地方經費ニ振

801 昭和6年1月10日 中谷関東府警務局長より
編注『日本外交文書』昭和期I第一部第四卷541文書参照。

關機高支第一八三號ノ二
中国側當局による教育権回収方針について
(1月16日接受)

841 昭和6年1月15日 永井外務次官他宛
關機高支第一八三號ノ二
中国側當局による教育権回収方針について
(1月16日接受)

昭和六年一月十日

關東廳警務局長

拓務次官殿
内閣書記官長殿
外務次官殿
内務省警保局長殿
關東軍參謀長殿
關東憲兵隊長殿
關東州駐在海軍武官殿
滿鐵資料課長殿
州外各警察署長殿(除奉天兩署長)
支那側ノ教育権回収計畫
支那側教育界ニ於テハ從來教育権回収ニ力カラ注キツツアリシカ新年早々吳家象教育廳長ハ幹部ヲ集メ日本側ノ教育權回収方針ヲ協議シ其結果大体左ノ方針ニ依ル事トナリタリト云フ

一、教育権回収交渉ヲ直接日本側ニ提起スル時ハ種々ナル問題ヲ惹起スル恐アルヲ以テ國民外交協會ヲシテ宣傳セシムルト共ニ當局ニ對シ請願セシメ一大輿論ヲ喚起シ然ル後徐ロニ日本側ニ交渉シ日本人ノ藉口ヲ免ルヘシ
尙最近奉天南滿中學堂學生間ニ「支那側外交協會ニ於テハ教育権回収ノ實ヲ擧クヘク支那學生等ノ日本經營學校入學ヲ妨害スルト共ニ在學中ノ者ニ對シテモ退學ヲ勸告スヘク決議セリ」トノ宣傳アリ且下ノ處學生間ニハ格別動搖ノ模様ナキモ奉天南滿中學堂ノ如キハ本年新學期ヨリ從來ノ五學級ヲ六學級ニ改正シ漸次擴張^(二字分アキ)刷新ヲ爲スノ計畫サヘアル折柄如斯宣傳ヲ爲ササルハ不尠支障ヲ來スモノト認メ學校當局ニ於テハ慎重之力對策講究中ナリ

802 昭和6年1月15日 幣原外務大臣より
在南京上村領事宛(電報)

東北の新旧両派による内訌具体化しつつあり
との報道の出所など調査方訓令

八 中国政情關係
一、卒業生ノ就職ニ對シテハ官署團體ト連絡シ極力運動ス
程度ノ向上ヲ計ル

本省 1月15日後7時20分發

向ヶ差支ナキコトニ中央政府ト打合済ナル由ニテ鹽稅煙草稅及今後實施セラルヘキ特稅收入等凡て右様措置セラルヘク尙不足アル場合ハ關稅剩餘ヲ以テ補給セラルモノト諒解シ居ル模様ナルカ將來或ハ關餘ノ抑留問題(強チ東北ニハ限ラサルヘキモ)ヲ惹起スルコトナキヲ保シ難シトモ認メラレ内外債整理問題ニ關聯シ豫メ相當考慮ヲ要スルニアラスヤト思考セラル

四露支問題ノ最近ノ經緯殊ニ莫德惠ノ引揚ニ付テハ莫ヨリ未タ詳細ナル報告ヲ受ケサル由ニテ大シテ意ニ介シ居ラサルモノノ如シ

公使、上海、北平、奉天、青島、濟南、南京、漢口、廣東ニ轉電セリ

第六號（暗）

十四日南京発聯合及朝日特電ハ張作相ノ東北辺防司令長官任命報道ニ関聯シ南京ニ於テ傳ヘラレ居ル情報ニ依ルニ東北新旧両派ノ暗闘漸ク具体化シ東北ノ実權ハ作相ニ移リツアル處右形勢ハ中央政府及某国某方面ニ依リ誘導セラレタルモノト信セラレツツアリトノ趣旨ヲ報シ居ル處右情報ノ出所等取調回電相成度

代理公使 北平 奉天 天津へ轉電セリ

803 昭和6年1月16日 在南京上村領事より
幣原外務大臣（電報）

東北の新旧両派内訌具具体化しつつありとの情報は確証なしとの回答

南 京 1月16日後發
本 省 1月17日前着

第二七號

貴電第六號ニ關シ

當地聯合及朝日ニ付取調ヘタルニ右情報ハ何レモ當地路透通信員ヨリ聞キタル處ヲ其ノ儘電報シタル迄ニテ何等必

シ居ル次第ニ非ス（十三日附北平路透電報ハ學良力東北邊防司令ノ職ヲ張作相ニ譲リ自ラハ專ラ中央ノ副司令トシテ北平ニ止マルコトヲ決意シ右南京ニ電請セル旨報シ居ルヨリ見ルニ刃ハ右北平電報ニ「ヒント」ヲ得自己ノ觀測ヲモ加ヘ話シタルモノト思ハル）尙聯合及朝日ハ當地陸軍武官ヨリモ略同様ノ話ヲ聞キタル由ナリ（陸軍側ノ情報モ單ニ中國人諜報者ノ齋セルモノナル由）尤モ貴電未段中央政府及某國某方面ニ依リ誘導セラレツツアリトノ點ハ刃ハ東北兩派ノ爭ハ結局共倒レトナルニ依リ中央ノ望ム處ナルヘク他方日本ノ參謀本部及滿鐵邊リモ策動シ居ルニ非スヤトモ思ハルル旨述ヘタルニ過キサル由ナリ

尙右情報ノ如キ噂ハ本官ノ耳ニモ入りタルニ依リ其ノ出所ヲ確メ見タルモ何等確實ナル根據ナク又齊世英モ館員ニ對シ東北内訌ノコトハ全然知ラス唯學良力北平ニ乗出シ副司令部ヲ設置スヘシトノ話ハ聞キタルカ未タ學良ヨリハ中央ニ對シ何等申出來ラサル旨内話セル趣ナリ

尙又齊ハ右會談ノ際日本ノ新聞力學良ト蔣介石トノ間ニ對日強硬政策ヲ決定セリト盛ニ書立テ反學良熱ヲ煽り更ニ之ニ引續キ日本ハ滿洲鐵道問題ニ付東北側ニ對シ強硬ナル交ニ對シ何等申出來ラサル旨内話セル趣ナリ

涉ヲ開始スヘキ旨特筆シ居ルニ依リ學良トシテハ暫ク歸奉ヲ延ハシ形勢ヲ觀望シ居ルニ非スヤトモ思ハルル旨述ヘ居タル趣ナリ御参考迄

（極秘トセラレタシ）

支、北平、奉天、天津へ轉電セリ

編注 「居ル」の箇所は「根拠アル」との訂正通知あり。

804 昭和6年1月19日 在中國矢野公使館參事官より
幣原外務大臣宛

河北省および北平市黨部の状況につき報告

（1月29日接受）

昭和6年1月十九日

在中華民國日本公使館

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿
河北省及北平市黨部ノ状況報告ノ件

河北省黨部及北平市黨部ノ活動ハ客年春蔵、閏對時以來全然停頓シ次テ同年十月奉天側ノ進出後モ奉天側ニ於テ黨部

新任整理委員李東園ハ客年十二月下旬着任同三十日第

河北省黨部整理委員
周學昌 陳石泉 宋振策 董霖
天津市黨部整理委員
鄭國材 李嗣聰 陳訪先 李東園
臧啓芳 劉不^同 魯蕩平 苗培成

次テ同月中旬中央黨部ハ別紙^{（著者）}譯文ノ如キ冀察綏、平、津各省市黨務整理辦法十二ヶ條ヲ制定シ各該黨部ニ送附越シタル處右ハ各省市黨部ニ於テ工作開始ト同時ニ所屬黨部及黨員ノ活動ヲ停止セシメテ黨員ノ審査ヲ行ヒ各級黨部ヲ正式ニ成立セシメムトスルモノナルカ黨部委員更迭後ニ於ケル河北省及北平市ノ兩黨部活動狀況左ノ如シ

一、河北省黨部

一次正式會議ヲ開催シ事務ノ分擔及裁釐擁護ノ通電發出方ヲ議決シ（三十一日發出濟）次テ一月十日ノ會議ニ於テ左記常務委員及各課主任ヲ決定シ且黨務整理辦法ノ規定ニ依リ各級黨部及黨員ノ活動停止方通令ノ件ヲ議決セリ（即日通令濟）

顧慮セス（二）民衆ノ幸福ノ爲實際的建設ヲ行ヒ（四）革命建設ノ障礙ヲ除去スヘシトノ四箇ノ原則ニ基キ努力ス云云ノ趣旨ノ宣言ヲ發表セリ

尙前記十二月二十九日ノ會議及一月五日ノ會議ニ於テ

常務委員

宋振渠

同

陳石泉

組織部長

董霖

秘書兼總務科總幹事

程宗棣

指導科總幹事

楊德馨

登記科總幹事

徐孟梅

宣傳部長

董霖

秘書兼總務科總幹事

翟宗濤

指導科總幹事

沈一平

編審科總幹事

薛品源

訓練部長

周學昌

秘書兼總務科總幹事

耿輪升

訓練科總幹事

汪汝幹

二、北平市黨部

北平市黨部ニ於テモ客年十二月下旬新委員全部着任セルヲ以テ同月二十九日第一次正式會議ヲ開催シ事務ノ分擔ヲ決定シ事務開始ノ旨各方面ニ通告方ヲ議決シ同三十日中央及各省市黨部ニ對シ夫々右ノ旨通電スルト共ニ將來吾人ハ（一）同志ハ和親互信ノ基礎ヲ固ムヘク（二）革命勢力ヲ集中シテ黨務ノ整理ニ當リ個人ノ利益ヲ

民訓科總幹事

田誼民

右報告ス

本信寫送附先

代理公使

天津

南京

昭和6年1月20日

在中国矢野公使館參事官より
幣原外務大臣宛（電報）

山西善後措置解決は表面的なものにすぎない
旨耿堅白内話について

北平 1月20日前發
本省 1月20日後着

⁽¹⁾ 第二三號
十九日天津ヨリ歸來セル耿堅白力原田ニ爲セル内話

一、山西善後措置ハ學良力山西將領ニ八十萬元ヲ交付シ李

服膺、張會詔ヲ罷免シ十ヶ師ヲ爲シ商震等各將領ハ

ヲ軍長及師長ニ任命セル機會ニ學（良）ハ歸奉シ各將領ハ

山西ニ歸還セルニ依リ表面解決ヲ告ケタルカ如ク見ユルモ

事實ハ然ラス曩ニ學良ハ南京ヨリ歸來ノ際非常ノ意氣込ヲ

以テ山西將領ヲ召致シ善後措置ニ當リ居タル處一向蔣ヨリ編遣費ノ送金無ク且ツ宋子文ヨリハ山西省ノ財源ヲ擔保ト

805

シテ天津銀行團ヨリ

五百萬元ヲ借入レ右編遣費ニ充當方申入レアリタルモ商震等之ヲ拒絶シ張ハ南京、山西間ノ板挾ミトナリ困窮ノ末僅ニ宋ノ携行セル八十萬元ヲ交附シ御茶ヲ濁シ急遽歸奉セル

次第ニテ從テ本件ハ依然未解決ノ儘ニ置カレアル譯ナリ

二、元來山西將領ハ徐永昌ヲ一致推戴セムトスルニ對シ學良力商震ヲ支持セル爲多大ノ不滿ヲ有スル外學良力在津中同將領等ト殆ト會談セス娛樂ニ沒頭シ國事ニ對シ閻馮ノ如キ熱心無キ爲到底北方ノ首領タル器ニ非ストノ感ヲ抱キ居レリ從テ目下南方ニテ傳ヘラルル北方反將團結說ノ如キハ到底實現ノ可能性ニ乏シク當分平和ノ持續ヲ見ルヘン

代理公使ヨリ上海へ轉電アリ度シ

⁽²⁾ 在鐵嶺石塚領事代理より
806 昭和6年1月26日 在鐵嶺石塚領事代理宛

開原における日本側銀行營業不振の原因について
(2月2日接受)

昭和六年一月二十六日

在鐵嶺

領事代理 石塚 邦器〔印〕
外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

開原ニ於ケル日本側銀行營業不振ニ關スル件

店ニシテ満銀ノ外ハ開原ニ出張所又ハ支店ヲ設置シテヨリ既ニ十七八年ノ歴史ヲ有シ特產資金融通ヲ主眼トシ活躍シテ良成績ヲ收メツアリシカ近年著シク金融硬塞シ營業意ノ如カラス兩年前正金本店ハ開原文支店ヲ閉鎖スル様ノ意アルコトヲ洩シタルヤノ報導モアリタル程ナル力客年來ノ營業ハ愈不振ノ狀態ニ在リ右ニ關シ鮮銀支店員ノ洩ス處ニ據レハ一昨年日本側銀行ノ特產資金トシテ貸出シタル額ハ鮮銀金二百五十万圓、正隆金百九十万圓、正金七十萬圓内外ナリシカ客臘ニ於ケル同資金貸出帳尻ハ鮮銀金五十万圓、正隆金八万圓、正金鈔五万圓ト云フニ過キス之力原因ハ一昨年秋以來日本側銀行ヨリ金ヲ借り入レ大豆ヲ買付ケ居タルモノカ銀價ノ暴落ト大豆相場ノ下落ニテ二重ノ損失ヲ蒙リタル爲メ特產物商ハ金資ヲ受クルヲ危険視シ大洋ノ融資ヲ歡迎スルニ至レルコト瀋海線ノ開通ニ依リ出廻リ特產ノ減少セシコト遼寧官憲筋糧棧ハ大豆買

銀金二百五十万圓、正隆金百九十万圓、正金七十萬圓内外ナリシカ客臘ニ於ケル同資金貸出帳尻ハ鮮銀金五十万圓、正隆金八万圓、正金鈔五万圓ト云フニ過キス之力原因ハ一昨年秋以來日本側銀行ヨリ金ヲ借り入レ大豆ヲ買付ケ居タルモノカ銀價ノ暴落ト大豆相場ノ下落ニテ二重ノ損失ヲ蒙リタル爲メ特產物商ハ金資ヲ受クルヲ危険視シ大洋ノ融資ヲ歡迎スルニ至レルコト瀋海線ノ開通ニ依リ出廻リ特產ノ減少セシコト遼寧官憲筋糧棧ハ大豆買

(欄外記入)

現金トハ奉天票現大洋票ナラム 現大洋ヲ使用スルコトハ因難ナルヘシ

編注 欄外記入は「現金・取引シ」迄に対応したもの。

808 昭和6年2月9日 在ソ連邦広田(弘毅)大使より
幣原外務大臣宛(電報)
中東鉄道交渉に關し張學良は表面上南京をして交渉に當らしむる意向との力アハンの談話について

モスクワ 2月9日後発
本省 2月10日後着
在支公使ニ轉電セリ

合第一〇〇號(暗、極秘)

本省 2月9日後7時45分発

日本人浪人が張學良暗殺計画のため瀋陽方面に乗込みとの情報について

当地ニ於ケル関係方面ヨリノ聞込ニ依ルニ來ル紀元節ヲ期シ張學良暗殺ノ計劃ノ為メ三本邦浪人奉天方面ニ乗込ミ居レルヤノ趣ナルニ就テハ右御含ノ上可然御取計相成度本電宛先 奉天總領事 関東長官

付二當リ現金ヲ以テ糧棧ト取引シ故ニ糧棧ハ銀行ヨリ融資スルノ必要減少セシコト又春秋來ノ大豆相場ハ一昨年秋ノ相場ニ比シ半値ナルヲ以テ糧棧ハ一昨年ト同額ノ取引ヲ爲ストシテモ本年ハ一昨年ノ半額ノ資金ヲ以テ充分ナルコト等ニ基クモノニテ日本側銀行ハ將來開原ニ於テ活躍スルコト困難ノ狀態ニ在リ鮮銀支店ハ客年七月ヨリ十二月末迄ノ半期間ニ金五千圓ノ缺損ヲ生シタル有様ニテ經費節減縮少スルノ止ムナキニ立至レルカ正金、正隆等モヨリ以上ノ缺損ヲ生シ居ルモノト見ラル

右何等御参考迄報告ス

本信寫送附先 奉天總領事

807 昭和6年2月9日 在奉天林總領事
在旅順坂本閑東長官宛(電報)

蔣介石による北平の副司令部設置認可および東北主要地に党部設置指導員派遣など時局に關する劉光の内話について

モスクワ 2月9日後発
本省 2月9日後着
在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

甚タ苦シキ様子ナリシニ付多分再來セサルヘキカトノ印象ヲ得タルモ同全權力歸國後ノ模様ニ付各地ヨリ受ケタル報告ヲ綜合スルニ奉天南京融合ノ結果今後ハ的確ナル訓令ヲ受ケ得ル立場ニアルモノノ如ク從テ多分歸來スヘキカト見受ケラル思フニ張學良トシテハ東支鐵道ニ關スル交渉ハ自身ニ於テ行ヒタキ意向ナルモ斯クスレハ自然日本トノ交渉ヲモ自ラ引受ケサルヘカラサルコトナルヘキヲ恐レ露國トノ交渉ハ表面南京ヲシテ當ラシムヘキカト思ハルト述べタリ御参考迄

滯在中ハ本國政府ヨリ的確ナル訓令ニ接セサル爲其ノ立場

時局ニ關シ劉光ノ内話左ノ通

第四五號

七日夜「カラハ」ニ出遇ヒタル際「カ」ハ莫徳惠ハ當地

モスクワ 2月9日後発
本省 2月9日後着
在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

中東鉄道交渉に關し張學良は表面上南京をして交渉に當らしむる意向との力アハンの談話について

モスクワ 2月9日後発

第八八號

滯在中ハ本國政府ヨリ的確ナル訓令ニ接セサル爲其ノ立場

時局ニ關シ劉光ノ内話左ノ通

一、蔣介石ハ七日附電報ヲ以テ學良ニ對シ北平ニ副司令部行營組織ノ件ヲ認可シタル力學良ハ舊正早々北平ニ赴ク候員トシテ吳鐵城奉天ニ張繼平津ニ出張スル筈ナリ

ナリ

二、舊正早々東北主要地ニ黨部ヲ設置スヘク黨員ハ首腦官吏全部ヲ網羅スル所謂官僚黨部ナルカ右ニ關シ近ク指導委

員トシテ吳鐵城奉天ニ張繼平津ニ出張スル筈ナリ

三、南方ニ於テハ國民黨入党ニハ二ヶ年ノ豫備期間ヲ要スル處東北地方ニハ中央黨部ノ諒解ニ依リ張學良ノ推薦者ハ

即時黨員タリ得ルコトトナレリ

四、湖南江西省境ニ於ケル共匪跋扈甚タシク先般討伐ニ向ヘル中央軍約二個師全滅セル處共匪討伐ノ困難ハ共匪ノ武力優越ニ非スシテ討伐軍カ思想的ニ共匪ニ同化スル點ニアルヲ以テ蔣介石ハ言語風俗習慣等ノ關係上共匪ニ同化困難ナル北方軍隊ヲ差向ケ討伐スルノ外ナシト認メ在山東孫連仲ノ軍隊ヲ不敢派遣スルコトニ内定セリ

五、學良ハ胡若愚ヲ北平市長ニ擬シ奉天ニ呼寄セタルカ本溪湖煤鐵公司總辦周大文モ學良ノ推薦ニ依リ近ク新設セラルヘキ中央實業部林礦處長ニ任命セラル筈ナリ（林礦處ハ東北森林及開墾ノ爲ニ特設セラル機關ナリ）

機密公第一〇四號
(2月25日接受)
昭和六年二月十五日

在吉林

總領事 石射 猪太郎〔印〕

外務大臣男爵

幣原 喜重郎殿

吉林省府ノ陶磁器ニ對スル國產獎勵方ノ訓令ト本邦

製品ノ現狀ニ關スル件

當館謀者ノ報告ニ依レハ最近吉林省府ニ於ケル本邦製品ノ賣行ハ例年ニ比シ約四分ノ一二減少スルニ至レリ本邦側ハ今回ノ關稅率引上ニ依リ從價四割ノ高稅ヲ課セラルコトトナリタルヲ以テ今後銀塊相場ニ多少ノ反撥ヲ見ルモ競爭相當困難トナリタルニ加ヘ前記牒者報告ノ如ク官憲側ニ於テ援助ヲ與フルモノトセハ本邦品ハ支那内地ニ於テ製造シ得サル精巧品ヲ除キテハ當地方市場ニ其影ヲ沒スルニ至ルヘシ

右ノ如キ状勢ハ獨リ陶磁器ノミニ止ラス本邦ヨリ當地方ニ輸入セラル雜貨ノ全般ニ亘リ銀塊安及關稅率引上ノ影響ヲ蒙リ支那側ノ模倣製品ノ爲メニ其ノ販路ヲ奪ハレツツアル實況ナリ

タル趣ナリ

然ル處從來吉林及其ノ背後地ニ於ケル陶磁器ノ需要ハ年額約七万圓ニ過キサルモ其ノ内天津上海方面ヨリ移入セラル品品質粗劣ニシテ價格低廉ナルモノヲ除キテハ悉ク本邦製品ヲ以テ市場ヲ獨占シ居リタル狀態ナリシカ昭和五年春以來前記支那人經營奉天肇新窯業公司力品質比較的良好ナル製品ヲ以テ當地方市場ニ進出シ來リ本邦品力銀安ノ爲メ割高トナリ賣行不振ニ陥リタルニ乘シ漸次其ノ販路ヲ覇食シ

代理公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

代理公使、北平、南京、漢口、廣東、天津、青島、濟南、吉林、哈爾賓へ轉電セリ

810 昭和6年2月10日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

瀋陽滯在中の日本人浪人を嚴重警戒中の旨回答

奉天 本省 2月10日後着

第八九號（極秘）

貴電合第一〇〇號ニ關シ先日來本邦浪人二名入り込み居ル爲尾行ヲ附シ嚴重警戒中ナリ尙河本大佐舊臘來匿名ニテ滯奉中ナルモ著奉直後盲腸炎ニ罹リ引續キ入院中ナリ

支へ轉電セリ

811 昭和6年2月15日 在吉林石射總領事より
幣原外務大臣宛

銀安および關稅率引上げの吉林省地方における

812 昭和6年2月18日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛

本信寫送附先 代理公使 北平 奉天 上海 天津 哈爾賓 間島 長春 海龍
上海商務參事官

東三省政府筋の特產大規模買上げ計画について

昭和六年二月十八日

在奉天

總領事 林 久治郎〔印〕

外務大臣男爵

幣原 喜重郎殿

東三省政府筋ノ特產買上計劃ニ關スル件

東三省政府筋ニ於テハ客年來ノ農產物暴落ハ世界的農產物增收及一般經濟界ノ不況ニ原因スルモ亦東三省ノ特產殊ニ大豆產額約五百萬頓力大部分外人ノ操縱ヲ受ケ銀價ノ下落ト相俟チ現時ノ如キ不況ヲ來シタルモノナリト做シ其不利ヲ免レ農民ヲ救濟シ且稅捐ノ收入ヲ順調ナラシムルカ爲ニハ大規模ニ特產ヲ買收シ其市價騰貴スルヲ待チ之ヲ直接歐米ニ賣渡スヲ得策ナリトスル主旨ヨリ東三省購運特產事務所ヲ設ケ本月十一日其所長ニ遼寧邊業銀行總辦彭賢、副所長ニ東三省官銀號總辦魯穆庭、同會辦吳恩培、吉林永衡官銀號總辦劉錫九、黑龍江省官銀號總辦高紫玉等ヲ夫々委任シ別紙譯文ノ如キ事務所章程ヲ規定セル趣ナリ右特產買入レノ計劃ニ於テハ第一回分三萬貨車第二回分二萬貨車第三回分一萬貨車計六萬貨車ヲ豫定シ居ル處之力買入レ資金計

金六千萬圓以上ヲ要スヘクスル巨額ノ資金ヲ何處ヨリ捻出スルカハ頗ル一般ノ注意ヲ惹キ居ル處ナルカ現ニ遼寧省内流通ノ現大洋紙幣ハ兌換準備ノ比較的正確ナル四行聯合準備庫發行ノ約二千萬元、中國交通兩銀行單獨發行ノ約五百萬元ノ外兌換準備ノ確ナラサル邊業銀行發行現大洋票約二千萬元東三省官銀號發行現大洋票約五百萬元ニ達シ其他一般市場ニ流通シ居ル奉天票三十億元内外ヲ數ヘ其實質的信用程度ハ甚シキ差等アリ就中邊業銀行力殆ト張學良個人營業ニ屬シ四行聯合準備庫ニ加入シナカラ別ニ兌換準備ナキ現大洋票ヲ自由ニ發行シ其額最少限既ニ二千萬元ニ達シ居ル見込ナルコト及今回ノ特產購運事務所ハ邊業銀行總辦彭賢カ其主任ニ當リ東三省官銀號吉林永衡官銀號及黑龍江官銀號ノ首腦者等力協同經營シ居ルコトヨリ察スレハ今次ノ計畫ニシテ果シテ實現セラルトセハ往年東三省官銀號カ奉票ヲ用ヒ特產ノ買占ヲ行ヒタル手段ト同一經路ヲ辿ルモノニ非サルヤ疑ナキヲ得ス大規模ノ買占メノ如キハ財源上恐ラク不可能カト思考スルモ其成行キ折角注意中ナリ

右報告ス

本信寫送付先、中華民國代理公使

813 昭和6年2月25日 在奉天林總領事より

幣原外務大臣宛

遼寧省政府内にて開催された北方各市財政主

機密第一四六號

昭和六年二月二十五日

在奉天

(3月3日接受)

劉哲、王樹幹、翟文選、張作相等之ニ參加セルカ各省市代表會員及職員姓名左ノ通り

(イ) 會員

遼寧省財政廳長	張振鷺
東三省官銀號總裁	彭 賢
同 上	魯穆庭
吉林省財政廳長	吳恩培
黑龍江省財政廳長	姚 鎏
熱河省財政廳長	那廷棟
秘書同	黃恒浩
事務員	白純義
同	李劍虹
速記員	楊瑞潤
同	周樹業
錄事	韓咸文
財務處員	榮紹甸

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿
北方各省市財政主腦者會議狀況報告ノ件
府内ニ開催サレタルハ一月三十一日附公信普通第八二號拙
信報告ノ通ナル處右會議ハ最初開會十日ノ豫定ナリシモ提
案八十餘件ノ多數ニ達シ其審議手間取り漸ク二月十一日閉
會セリ其間開會度數十三回決議事項七十六件内五十四件ハ
之ヲ秘密ニ附シ其內容未詳ナルモ發表済ノモノ二十二件及
會議狀況等概要左ノ通リナリ

一、本會議ハ副司令張學良司會シ東北政務委員會主腦トナ
リ各省市ノ參加會員十四名職員十二名東北政務委員袁金凱、
八 中国政情關係

錄事 財務處員

		同 同	汪 玉 漢
(右)職員及會員等ノ顔振レヲ見レハ			
哈爾賓財政廳長		文 光	
山西省財政廳長		仇 曾 賴	
北平市財政局長		王 韶	
天津市財政局長		劉 亥 年	
哈爾賓特別區長官		張 景 惠	
遼寧省政府主席		臧 式 犀	
(口)職員			記
主 席			
秘書長 官銀號會辦		張 學 良	
秘 書 財政處主任		吳 恩 培	
		毛 鴻 賓	
本會議ハ全ク東北政務委員會ヲ中心ニ東北ノ勢力圈内ニ屬			
スル北方諸省市ヲ網羅シ裁釐善後問題及軍事費ノ籌備等會議ノ内容ハ相當重大問題ヲ含ミ居タルモノノ ^如 主席張學良ハ開會ノ詞ニモ釐金ヲ撤廢シ之力補填トシテ新稅ヲ徵スルハ國家ノ統一、國民經濟ノ發展上極力贊成ヲ表スル次第ナレハ今後財政ハ中央ニ統一スル方針ヲ以テ各會員ハ其所轄地内ノ財政善後ニ關シ充分討議アリタシト述ヘタル趣ナ			

(一)歲入歲出、國家ト地方トノ限界ヲ明ラカニ混淆ヲ免レン トルノ案(主席張學良提議)	
(二)國家ト地方ノ歲入歲出劃分案(遼寧財政廳長張振鷺提議)	
(三)國稅徵收機關ニ申請シ請負納稅制度ヲ廢止スルノ案(河北財政特派員荆有岩提議)	
議決 十七年部頒布ニ標準ヲ以テ辦理ス	
以上ハ一括討論シタルカ 議決 以上ハ一括討論シタルカ	

(一)歲入歲出、國家ト地方トノ限界ヲ明ラカニ混淆ヲ免レン
トルノ案(主席張學良提議)

(二)國家ト地方ノ歲入歲出劃分案(遼寧財政廳長張振鷺提議)

(三)國稅徵收機關ニ申請シ請負納稅制度ヲ廢止スルノ案(河北財政特派員荆有岩提議)

議決 從來ノ請負納稅制ハ國稅地方稅ヲ問ハス一律ニ取消シ官憲ヨリ直接徵收ス其ノ期限未滿ヲ條件トシテ契約ニ制限アルモノハ暫時從來ノ如クシ満期ノ時ニ於テ是ヲ取消ス

(四)消費稅々率ヲ劃一シ且ツ一種稅ヲ新設シタル後附加稅等 ノ重徵ヲ廢止スルノ案(遼寧財政廳長張振鷺提議)	
討論ノ結果特種消費稅率ハ東北各省一致シ其ノ各種詳細ナル稅目ノ規定ハ別ニ商議ス	
(五)遺產稅、所得稅ニ對スル意見案(河北財政特派員荆有岩提議)	
(六)遺產稅案(遼寧財政廳長張振鷺提議)	
(七)所得稅案(遼寧財政廳長張振鷺提議)	
以上三案ハ一括討論	
(八)免稅制限案(遼寧財政廳長張振鷺提議)	
議決 免稅物品ハ中央ノ規定ニヨリテ辦理シ免稅護照ハ財政主管機關ヲ以テ發行機關トナス	
(九)東北各省區市ハ院部令ヲ奉シテ厘金ヲ撤廢シ統稅特稅及營業稅ヲ實施スルニ付キ先決問題次決問題トニ分チ公決ヲ請フノ案(吉林財政廳長榮厚提議)	

(一)東北各省區市ノ現有ノ製粉業、磁器業、ビール、營業、製紙業ニシテ免稅期間内ニアルモノハ今回實施ノ營業稅及特種消費稅モ一律ニ取消スヘキヤ或ハ新章程ニ依リ徵稅スヘキヤ此レ先決ヲ要スルモノナリ

議決 原案列舉ノ品目中磁器製紙曹達業ノ三項ハ工業尙ホ幼稚時代ニアリ免稅原案ヲ維持スヘキモビール業ハ免稅期間滿了時期ヲ俟ツテ徵稅シ製粉業ハ絕對ニ免稅

(一) 部定ノ國家地方兩稅ハ東北各省區市ニ現在アルモノト無キモノトアリアルモノハ總テ舊稅ニシテ無キモノハ

多ク新稅ナリ舊稅ハ列舉スルヲ要セス所得稅遺產稅市地稅使用人稅使用物稅等ノ新稅ハ財政部ニ於テ國家地方收入標準案内ニ劃分シ各省ニ通令シタルカ東北各省區市ハ今後無キモノハ部案ヲ遵照シテ課稅スルヲ妨ケ

ス各省力自ラ辦理スヘキヤ或ハ政務委員會ニ於テ劃一章程ヲ規定シ公布辦理スヘキヤ此レ先決ヲ要ス

議決 所得遺產兩稅ハ前ニ議決シタル市地稅ハ遺產稅二組入シテ期限ヲ定メテ試驗的ニ辦理シ使用人使用物兩稅ハ暫時延期ス

辦理章程ニ至ツテハ吉林財政廳長榮厚ニ於テ起草シ更ニ商議ス

(一) 東北各省區市ニ於ケル厘金撤廢ニヨル損失額ハ統稅損失特種消費稅損失免稅損失等ニ分チ逐一列舉シ又營業稅ニヨル收入統稅ニヨル收入ヲ列舉シテ兩者ヲ差引キ實際ノ損失額ヲ知リタル上本會ニ於テ審理スヘク此レ先決ヲ要スルモノナリ

(乙) 次決問題

(一) 損失稅額決定ノ上ハ各省ハ近年度ノ豫算案ヲ提出シ如何ニシテ收入ヲ補充スルヤ亦如何ニシテ支出ヲ節減スヘキヤハ次ニ決定スヘキモノナリ

議決 前案ト同様豫算ヲ報告セシメ整理ノ上本會議ニ提出ス

出ス

(一) 補充方法及節減方法ハ若シ本會ニ於テ短時間内ニ詳細決定スル能ハサル時ハ範圍ヲ指定シテ各省委員會ニ廻付シテ審查決定シ政務委員會ノ審查ヲ經テ實行スヘキヤ否ハ次ニ決定ヲ要スルモノナリ

議決 補充節約方法ハ各省ノ豫算ヲ以テ詳細ナル表ヲ作製シ本會ヲ作製シ本會ヨリ副司令ニ決裁方ヲ申請ス

(一) 統稅特稅ヲ若シ東北各省ニ於テ夫々辦理スル時ハ統稅一切ノ事務ハ財政特派員亦ハ財政廳長ニ於テ責任ヲ以テ之ヲ辦理スヘク省政府ヨリ任命スルヤ此レ次ニ決定ヲ要スルモノナリ

議決 各省ニ於テ夫々辦理シ爾後政務委員會財政部ノ命令ニ依ルヘシ

ニ決定スヘキモノナリ

議決 稅局ノ長ハ從來ノ如ク特派員財政廳長ニ於テ選定スヘシ

(一) 各省從來ノ分局分卡^{（註）}ハ撤廢シ合併スヘキハ合併シタル後其ノ名稱ハ一律ニ分局ト稱スルカ或ハ地名ヲ冠スルカ又ハ第一第二ト稱スルカ若シクハ浙江省ニ倣

ヒ檢查處稽徵處ト稱スルカ是レ次ニ決定スヘキモノナリ

議決 一律ニ分局ノ名稱ヲ用ヒ地名ヲ冠スヘシ

(一) 統稅特稅消費稅ニ使用スル稅票ハ舊章程ニ照シ各省財政廳ニ於テ製スルカ或ハ政務委員會ニ於テ製シ財政廳ニ交付スルカ是レ次ニ決定ヲ要スルモノナリ

議決 統稅及特種消費稅所用ノ稅票ハ各省財政廳ニ於テ製ス但シ様式ヲ一定ス

(一) 東北各省ハ中西財政專門家ヲ請聘シ財政設計委員會設立案（邊業銀行總稽寧恩承提案）

議決 各省區市財政主管機關ニ於テ夫々專門家ヲ請聘シ當該機關ニ於テ委員會ヲ組織シ各省共同組織ノ大規模ノ委員會ハ暫時設立ヲ延期ス

編注一 「カハ」の次に「撤廃スヘキハ」との書き込みあり。

編注二 「ヤ」の次に「否」との書き込みあり。

本信寫送附先、中華民國代理公使、北平首席

(三) 東北各省區ノ營業稅率ノ劃一並ニ大豆豆油ノ消費稅ノ稅率ヲ如何ニ規定スヘキヤノ案(黑龍江財政廳長龐作屏提案)

議決 大豆稅ヲ徵收シ豆油稅ハ免除シ若シ不足ノ時ハ大豆稅ヲ增加ス

(三) 北方各省ノ鹽務ヲ整理シ稅收ヲ裕ニシ民會ヲ維持スルノ案(政務委員會財務處長魯穆庭提案)

議決 特許權ヲ有スル鹽商力種々ナル不正ヲ爲シ國家ヲ禍スルモノナルヲ以テ今日ハ最早力カル制度ヲ存在セシムルヘキニ非ス一律ニ改革シ遼寧現行制度ニ依ルカ又ハ東北統一制度ヲ特定スルヤニ至ツテハ政務委員會ニ於テ辦理セシム

本信寫送附先、中華民國代理公使、北平首席

(三) 東北各省は南京側の要求を容れ差當り省黨部設立の方針決定について

本機密第一〇六號

昭和六年二月二十六日

(3月6日接受)

在齊々哈爾

領事 清水 八百一〔印〕

外務大臣男爵 幣原 嘉重郎殿

東北各省々黨部設立ニ關スル件

本問題ニ關シ當地一要人ノ本官ニ語レル處ニ依レハ東北各省ニ於テモ南京側ノ要求ヲ容レ差當リ省黨部ニ限り設立スルコトニ方針タケ決定シタル由ナリ又設立期日ハ未定ナルモ設立ノ場合ハ南京政府ヲ代表シ南北黨化指導員監督ノ任ニアリト稱セラル吳鐵城指導ノ下ニ行ハルヘク殊ニ當省ノ省黨部ハ遼寧省ニ設立ヲ終リタル後ニ實行セラルコトナリトナリ何時ニテモ各省ノ省委員會議ニ出席シ得ルモノナリト云フ

右何等御参考迄報告ス
本信寫送附先

- (十一) 各省ハ歲入情況ニ按シ二十年度ノ豫算ヲ編制シ務メテ節約シ且同種ノ機關ヲ合併スルノ案(主席提案)
- (十二) 各省ノ國家地方兩稅ノ歲入歲出ヲ毎月報告スルノ案(主席提案)
- 議決 政務委員會ニ於テ報告書類様式ヲ作製シ各省市區ヲシテ實行セシム
- (十四) 各省財政廳長ヲ賦稅督徵官員トナシ監督ノ責任ヲ負ハシメ徵懲獎例實行案(主席提案)
- 議決 原案ヲ遵照辦理ス
- (十五) 文官俸給劃一案(政務委員會財務處長魯穆庭提案)
- 議決 中央ノ俸給等級ヲ標準トナシ文官ノ俸給ヲ劃一シ預算内ニ編入シ副司令ノ審查ヲ受ク
- (十六) 山西省銀行鈔票維持案(山西財政廳長仇曾貽提案)
- 議決 山西ノ窮狀ヲ中央ニ電達シ中央ノ救濟方ヲ副司令ニ申請シ中央ノ辦法決定以前ニ在ツテハ山西財政廳
- 令ニ申請シ中央ノ辦法決定以前ニ在ツテハ山西財政廳ニ於テ省地方收入ニヨリ極力整理シ抽籤ニヨル現洋兌換辦法ヲ維持ス
- (十七) 匏金撤廢後ニ於ケル熱河省ハ軍政各費ニ一大不足ヲ感ス

ヲ以テ中央ニ毎月補助方ヲ電請スルノ案(熱河財政長委承業提案)

議決 討論ノ結果各省區市ノ豫算ハ收入支出ニ足ラサルノ恐アリ此ノ案ハ豫算案討議ノ際一括討議ス

(十八) 热河ノ教育ハ幼稚ニシテ基金薄弱如何ニ改善教済スヘキヤノ案(熱河財政廳長姜承業ノ提案)

議決 教育基金附加稅ヲ徵收セス現在ノ基金ヲ維持スルノ案(北平市政局長王韜提案)

議決 匏金撤廢後ノ損失ハ營業稅ヲ以テ補ヒ仍ホ不足ノ時ハ市政府ヨリ中央ニ救濟方ヲ申請ス

(十九) 北平市ノ家屋稅ハ市組織法ノ徵收範圍内ニ於テ繼續徵收シ公安局ノ經費ニ充當スルノ案(北平財政局長王韜提案)

議決 原案通り徵收ス

(二十) 北平市ノ警察費附加稅ハ營業稅ノ收入ヲ以テ完全ニ支出シ得ルコトナリタル時ハ是ヲ取消スヘキヤノ案(北平財政局長王韜提案)

議決 營業稅ヲ以テ支出シ得ル時ハ取消ス

- (十一) 各省ハ歲入情況ニ按シ二十年度ノ豫算ヲ編制シ務メテ節約シ且同種ノ機關ヲ合併スルノ案(主席提案)
- (十二) 各省ノ國家地方兩稅ノ歲入歲出ヲ毎月報告スルノ案(主席提案)
- 議決 討論ノ結果各省區市ノ豫算ハ收入支出ニ足ラサルノ恐アリ此ノ案ハ豫算案討議ノ際一括討議ス
- (十三) 热河ノ教育ハ幼稚ニシテ基金薄弱如何ニ改善教済スヘキヤノ案(熱河財政廳長姜承業ノ提案)
- 議決 教育基金附加稅ヲ徵收セス現在ノ基金ヲ維持スルノ案(北平市政局長王韜提案)
- 議決 匏金撤廢後ノ損失ハ營業稅ヲ以テ補ヒ仍ホ不足ノ時ハ市政府ヨリ中央ニ救濟方ヲ申請ス
- (十四) 北平市ノ家屋稅ハ市組織法ノ徵收範圍内ニ於テ繼續徵收シ公安局ノ經費ニ充當スルノ案(北平財政局長王韜提案)
- 議決 原案通り徵收ス
- (十五) 北平市ノ警察費附加稅ハ營業稅ノ收入ヲ以テ完全ニ支出シ得ルコトナリタル時ハ是ヲ取消スヘキヤノ案(北平財政局長王韜提案)
- 議決 營業稅ヲ以テ支出シ得ル時ハ取消ス

在中國代理公使、北平首席、奉天、吉林、哈爾賓各總領事

満洲里領事 關東廳

815 昭和6年2月27日 在青島川越総領事より

弊原外務大臣宛（電報）

山東省内各館で年一回各般事務につき意見交換方有益且つ必要と思考について

青島 2月27日後発
本省 2月27日後着

第二號

從來當地方ニ於テハ滿洲又ハ長江地方ニ於ケルカ如キ領事會議ヲ開催セルコトナク各館トモ各々獨自ノ見解ニ基キ事務ニ當リ來レル處斯ノ如キハ各館ノ歩調一致ヲ缺ク結果トナリ甚タ不便不得策ナリト思考セラルニ付當省内ニ於ケル各公館長及主任ハ少クトモ年一回位會合ノ上各般ノ事務ニ付充分ナル意見ノ交換ヲ行フコト有益且ツ必要ナリト認メラル就テハ不取敢來ル四月早々濟南芝罘領事及膠濟沿線出張所主任ヲ當地ニ集メ打合會ヲ催シタキニ付右御許可方

特別ノ御詮議相煩ハシタシ尙此ノ種會合ハ時ニ黨部其ノ他支那側ノ惡宣傳ニ利用セラル虞アル處幸ニ三月末日聯合艦隊當地入港ノ筈ニテ右艦隊入港ヲ機ニ各地領事落合ヒタル形トシテ艦隊出港後三日間位ノ豫定ヲ以テ打合會ヲ開クコトト致シタキ所存ニ付右御含置キ相成度ク尙準備ノ都合モアリ御承認ノ上ハ早目ニ御回報ヲ請フ

816 昭和6年3月2日 在奉天林總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

東北主要地官民の入党手続きおよび党部開設に關する吳鐵城の内話について

奉天 3月2日後発
本省 3月3日前着

第一四三號

東北四省黨務指導委員トンシテ派遣セラレタル吳鐵城ハ一月二十日當地着黨部開設準備ニ着（手）セル處二日同人力森岡ニ内話セル所左ノ通

先ツ奉天、吉林、齊々哈爾、熱河ノ四箇所ニ省黨部ヲ設ケ

次テ東北四省重要都市ニ市黨部ヲ置キ更ニ各縣縣黨部ヲ開ク筈ナルカ黨員ハ官民兩者ヲ網羅シ主要官吏ニシテ從來黨部ニ功勞アリ若ハ今回ノ全國統一ニ貢獻シタルモノニハ即時黨員ノ資格ヲ與ヘ其ノ他ノ官民ニシテ志願者中ヨリ詮衡シ一箇年豫備黨員ノ資格ヲ與ヘ然ル後適當ト認メタルモノ

ニ本黨籍ヲ與フルコトトスヘク各黨部ハ地方政府ト密接ナル聯絡ヲ保チ一般市民ニ對シテ三民主義ノ訓ヲ施スト共ニ共產黨ニ對シテハ嚴密ナル取締ヲ加フル積リニテ右共產黨取締ノ爲ニハ特ニ有能ナル政治探偵ヲ使用スル筈ナリ

從來東北側ニ於テ黨部ノ設置ニ杞憂ヲ懷キタルハ共產黨ト

國民黨トノ結合ヲ恐レタルカ爲ナル處右ハ幹部ノ指導如何ニ依リ完全ニ其ノ弊ヲ免レ得ヘク現ニ天津ニ於テハ市黨部ノ調査偵察活動ニ依リ地方官憲ヲ動カシ共產黨ノ大檢舉ヲ實行シタル實例モアリ此ノ點何等ノ心配ナシ

河北ニ於ケル黨部ニ對シテハ張繼指導委員トシテ既ニ赴任シ閻錫山時代ノ不良ナル黨員ヲ調査除名中ナレハ近ク其ノ

手續終了ヲ待テ各地縣黨部開設ノ運ニ至ル見込ナリ云々上海へハ公使ヨリ齊々哈爾ヘハ哈爾賓ヨリ夫々轉報アリタ

817 昭和6年3月3日 在青島川越総領事宛（電報）

在山東領事會議開催方許可する旨訓令

本省 3月3日後7時38分発

第一五號（暗）

貴電第二一號ニ關シ

四月上旬貴地ニ於ケル領事打合會開催方許可ス本省ヨリノ諮詢事項ハ追テ指示スヘシ

818 昭和6年3月4日 在奉天林總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

満鉄公署裏庭に爆弾を日本国旗に包み投擲された事件に対し犯人捜査中について

奉天 3月4日後着

第一四八號

當地域内満鐵公署裏庭ニ龜甲型爆弾一個ヲ新シキ日本國旗ニ包ミ投擲シタルヲ四日午前發見専門家ニ爆弾ノ鑑定ヲ依頼スルト共ニ犯人搜査中ナルカ時節柄面白カラサル反響ヲ惹起スヘキ懸念モアリ關東廳側ニ對シ新聞掲載禁止方手配セリ

支、北平へ轉電セリ

819 昭和6年3月5日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

満鉄公署爆弾投擲事件の記事掲載に依頼電報

毎日幹部に注意方白鳥情報部長に依頼電報

奉天 3月5日後発
本省 3月5日後着

第一五八號

白鳥情報部長へ

満鐵公處爆弾投擲事件ニ關シ

五日大毎ニ大袈裟ナル記事掲載セラレタル旨他社通信員ヨリ申出アリタルヲ以テ早速大毎三池特派員ヲ招致シ事情取

調タルニ京城迄電話通報ノ上同地ヨリ打電セシメタル旨答

820 昭和6年3月6日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

山西軍改編の表面上終了に伴う張學良による

各軍の点検分担着手について
天津 3月6日後発
本省 3月6日後着

第六七號

往電第五七號ニ關シ

其ノ後山西軍ノ改編ハ表面上大体結了シタル趣ニテ（事實

ハ僅ニ五千餘名ノ改編ニ過キサルカ如シ）張學良ハ戦翼翅及富占魁ヲ點檢正副委員長ニ任命シ二日ヨリ夫々晋北及綏

遠一帶並晋南及正太線一帶ニ在ル各軍ノ點檢ヲ分擔着手セ

シメ又別ニ朱力宇ヲ砲兵隊彭振國ヲ騎兵隊ノ點檢主任トシ

テ近ク山西ニ派出シ三月中旬迄ニハ全部ノ點檢ヲ終了セシ

北平 3月6日後発
本省 3月7日前着

第七五號

密電情報

一、四日南京孫シヨウ亞發當地張繼宛電報

胡漢民ハ蔣主席ニ監視セラレ殆ト自由ヲ失ヘリ今同主席ノ執リタル手段過激ニ失セル爲各委員何レモ不安ニ驅ラレ其ノ地位ニ安ンセサル處主席モ政變ノ激動ヲ恐レ中央官吏ト胡トノ接近ヲ禁止シ及妄リニ集會スルヲ禁スルト共ニ今朝總司令兼主席ノ名義ニテ各省政府長官ニ對シ胡系人物ノ監視方ヲ通令シ形勢ハ容易ナラス眞ニ黨國ノ一大不幸ナリニ於テ從來ノ如キ不徹底ナル懷柔政策ヲ打切り相當ノ負擔ヲ爲シ本腰ノ編遣ヲ爲スニアラサレハ山西各軍ハ從來通ノ實力ヲ保持シ商震派ト閻錫山直係派ニ分レ暗鬭ヲ續クルモノト認メラル

ノト認メラル
公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

公使、北平、奉天、濟南、青島、南京、漢口へ轉電セリ

821 昭和6年3月6日 在中國矢野公使館參事官より
幣原外務大臣宛（電報）

蔣介石による胡漢民軟禁等に関する情報について

ヘタルニ付法規ニ觸レサルノ故ヲ以テ右ノ如キ出シ抜ケ的行動ニ出ツルハ德義上非ナルハ勿論延イテ當地通信員間ノ統制ヲ攪亂シ結局相互ニ不利ナルヘキヲ說示シ其ノ注意ヲ求メシメタルニ同人ハ今後右様ノ行動ニ出テサル様充分注意スヘキ旨述ヘタリ當方ハ今後新聞掲載禁止ノ必要アル場合ニハ機宜ニ應シ關東州ノミナラス朝鮮總督府側ノ協力ヲ得ル様主義上ノ打合セヲ遂クル所存ナルモ貴地ニ於テ大毎社幹部ニ對シ然ルヘク御注意相成ルヲ得ハ幸ナリ

支、北平、關東長官へ轉電セリ

當地域内満鐵公署裏庭ニ龜甲型爆弾一個ヲ新シキ日本國旗ニ包ミ投擲シタルヲ四日午前發見専門家ニ爆弾ノ鑑定ヲ依頼スルト共ニ犯人搜査中ナルカ時節柄面白カラサル反響ヲ惹起スヘキ懸念モアリ關東廳側ニ對シ新聞掲載禁止方手配セリ

支、北平へ轉電セリ

819 昭和6年3月5日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

満鉄公署爆弾投擲事件の記事掲載に依頼電報

奉天 3月5日後発
本省 3月5日後着

第一五八號

白鳥情報部長へ

満鐵公處爆弾投擲事件ニ關シ

五日大毎ニ大袈裟ナル記事掲載セラレタル旨他社通信員ヨリ申出アリタルヲ以テ早速大毎三池特派員ヲ招致シ事情取

調タルニ京城迄電話通報ノ上同地ヨリ打電セシメタル旨答

820 昭和6年3月6日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

山西軍改編の表面上終了に伴う張學良による

各軍の点検分担着手について
天津 3月6日後発
本省 3月6日後着

第六七號

往電第五七號ニ關シ

其ノ後山西軍ノ改編ハ表面上大体結了シタル趣ニテ（事實

ハ僅ニ五千餘名ノ改編ニ過キサルカ如シ）張學良ハ戦翼翅及富占魁ヲ點檢正副委員長ニ任命シ二日ヨリ夫々晋北及綏

遠一帶並晋南及正太線一帶ニ在ル各軍ノ點檢ヲ分擔着手セ

シメ又別ニ朱力宇ヲ砲兵隊彭振國ヲ騎兵隊ノ點檢主任トシ

テ近ク山西ニ派出シ三月中旬迄ニハ全部ノ點檢ヲ終了セシ

北平 3月6日後発
本省 3月7日前着

第七五號

密電情報

一、四日南京孫シヨウ亞發當地張繼宛電報

胡漢民ハ蔣主席ニ監視セラレ殆ト自由ヲ失ヘリ今同主席ノ執リタル手段過激ニ失セル爲各委員何レモ不安ニ驅ラレ其ノ地位ニ安ンセサル處主席モ政變ノ激動ヲ恐レ中央官吏ト胡トノ接近ヲ禁止シ及妄リニ集會スルヲ禁スルト共ニ今朝總司令兼主席ノ名義ニテ各省政府長官ニ對シ胡系人物ノ監視方ヲ通令シ形勢ハ容易ナラス眞ニ黨國ノ一大不幸ナリニ於テ從來ノ如キ不徹底ナル懷柔政策ヲ打切り相當ノ負擔ヲ爲シ本腰ノ編遣ヲ爲スニアラサレハ山西各軍ハ從來通ノ實力ヲ保持シ商震派ト閻錫山直係派ニ分レ暗鬭ヲ續クルモノト認メラル

ノト認メラル
公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

公使、北平、奉天、濟南、青島、南京、漢口へ轉電セリ

821 昭和6年3月6日 在中國矢野公使館參事官より
幣原外務大臣宛（電報）

蔣介石による胡漢民軟禁等に関する情報について

代理公使、南京、奉天へ轉電シ天津へ暗送セリ

許崇智による廣東・廣西の独立策動などに關する情報について

822 昭和6年3月9日 在奉天林總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

満鉄公署爆弾投擲事件がその遭口等より察するに日本人の仕業と推測されるについて

奉天 3月9日後発

本省 3月9日後着

第一六九號

往電第一四八號ニ關シ

鑑定ノ結果ニ依レハ爆弾ハ爆發性ヲ有シタルモ雷管ニ故障アリタル爲雷管ヲ燃燒シタル儘發火ニ至ラサリシモノニシテ犯人等未タ判明セサルモ最近鐵道交渉問題ニ關聯シ當地方浪人中ニ幾分ノ動キヲ見居リ且從前此種事件ニ於ケル遭口等ヨリ察スルニ邦人ノ仕業ト推測セラル

支、北平へ轉電セリ

823 昭和6年3月18日 在中國重光臨時代理公使より

幣原外務大臣宛（電報）

奉天 3月18日後発

本省 3月18日後着

第二八七號

往電第一五號ニ關シ

鑑定ノ結果ニ依レハ爆弾ハ爆發性ヲ有シタルモ雷管ニ故障アリタル爲雷管ヲ燃燒シタル儘發火ニ至ラサリシモノニシテ犯人等未タ判明セサルモ最近鐵道交渉問題ニ關聯シ當地方浪人中ニ幾分ノ動キヲ見居リ且從前此種事件ニ於ケル遭口等ヨリ察スルニ邦人ノ仕業ト推測セラル

支、北平へ轉電セリ

最近ノ政況ニ關スル情報左ノ通

(一) 山田ノ内報スル所ニ依レハ許崇智ハ胡漢民事件ニ關聯シ頻リニ活躍シ居リ香港ノ古應芬及廣東ノ陳濟棠ト呼應シ廣西派ノ李宗仁、白崇禧ト共ニ兩廣ノ獨立ヲ宣言スルコトトナリタル力孫科力許崇智ヲ來訪シタル際ノ態度ヲ見

テ許ハ右計畫ヲ孫ニ打明ケタル由ニテ孫ハ最近廣東ノ鄉里ニ行ク途中南京ヨリ上海ニ立寄ノ際鐵道部長ノ職ヲ辭スルコトニナリ居ル趣ナリ（孫科ノ廣東行ニ付テハ本官モ直接彼ヨリ聞キタルカ其際孫ハ廣東ニハニ週間滯在ノ豫定ニシテ右ハ梅谷庄吉ノ寄贈ニ係ル孫文ノ銅像建設地未タ決定ニ至ラサルコトニモ關係スル次第ト言ヒ居タリ）

(二) 波多カ黨部ヨリ聞キタリトテ齋ス所ニ依レハ最近許崇智力種々策動シ居レリトノ情報アルモ黨部ハ陳濟棠、古應芬トハ聯絡アリ彼等ヨリ直接ニ情報ヲ得居ル次第ニテ右

本省 3月19日後3時5分発

第一八號（暗）

往電第一五號ニ關シ

會議ニ於ケル討議事項ハ從來此種會議ノ実蹟ニ顧ミ其ノ範囲ヲ成ルヘク緊要ナルモノニ局限シ充分審議ヲ遂ケ得ル様致シ度キニ付右御含ミノ上準備方御手配相成度ク當方諮詢事項モ右ノ趣旨ニ依リ問題ノ種類ヲ山東關係諸條約ニ依リ設定セラレタル諸權益擁護ニ關スル件ト山東ニ於ケル邦人ノ經濟的發展ニ關スル件トニ二大別シ右各問題ニ關聯シテ夫ニ數個ノ事項ヲ摘出列挙スルコトハシタリ右諮詢事項ハ貴官並關係領事官（出張所主任ヲ含ム）へ直接當方ヨリ郵送セリ

尚此種會議力兔角過大ニ報道セラレ無用ニ外部ノ論議ヲ刺戟シタル事例渺カラサルニ付御如才モナキ事乍ラ右特ニ御留意アリ度ク關係領事官ノ出発ハ經費ノ都合上四月一日以後ト致シ度キニ付會議開催期日ハ右御含ミノ上貴官ニ於テ適當ノ日取御決定アリタシ

北平、奉天、廣東、香港へ轉電シ南京、上海へ轉報セリ

824 昭和6年3月19日 币原外務大臣より

在青島川越總領事宛（電報）

在山東領事會議の討議事項は緊要なるものに局限し充分審議を遂げ得る様準備手配方訓令

付記 作成年月日不明 亞細亞局第二課作成

右領事會議諮詢事項

本電往電第一五號ト共ニ本大臣訓令トシテ濟南、芝罘、坊子、張店、博山へ転電アリタシ

(付記)

膠濟沿線領事會議諮詢事項

亞細亞局第二課

一、濟南在留民業務復活資金貸出ニ際シテハ不正業者ヲ正業ニ轉換シ又ハ漸次退去セシムル等ノ方針ヲ定メタル

處爾來之力實行ノ成績如何

(参考) 同資金貸出ニ關スル指令事項並命令條項ニ

於テ本資金ヲ禁制品ノ賣買授受等ノ用途ニ貸出

スコトヲ得サル旨明記シタル次第ナルニ拘ラス
其後右資金ヲ借受ケタル者ニシテ禁制品密賣ノ

廉ヲ以テ處罰セラレタル者弗々アルヤニ認メラ

ル

二、坊子、張店、博山等各分館受持區域内ニ於テモ相當多

數ノ不正業者アリト認メラルル處右ニ對シ各分館主任

ハ如何ナル具體的取締策ヲ講シツツアリヤ

三、濟南居留民業務復活資金ハ未タ元利金償還期ニ入ラサ

ルモ銀暴落ノ狀況ニ鑑ミ右償還ヲ確實ナラシムル力爲

對策ヲ講セシメツツアリヤ

四、青島低利資金ニ關シ

奉天省 3月20日後着

奉天

發

第一九一號
往電第一八號末段ニ關シ

(欄外記入一)
東北四省燐寸專賣法ハ既電ノ通近ク實施(四月一日ヨリト
ノ情報アリ)ノ形ニアル處二十日石射吉林總領事ノ談ニ依
レハ曩ニ同官ヨリ提出ノ抗議ニ對シ支那側ヨリ三月六日附
ヲ以テ(一)抗議ノ根據タル一八四四年米支條約ハ清ノ道光二

(欄外記入二)
賣ニ對シ支那側ノ壓迫アルヘシト豫期セラルル處瑞典側最
近ノ態度ニ鑑ミルニ同業會加入ノ意向アルヤニ看取セラル
ルヲ以テ之カ加入ヲ默認スルコト

三、瑞典側ノ同業會加入前支那側ニ於テ販賣妨害等ノ手段
ニ出ツルトキハ瑞典側會社力日本會社タル關係上一應妨害
停止方抗議スヘキモ大局上ノ見地ニ基キ實力等ニ依リ支那
側ノ壓迫ヲ阻止スルカ如キハ之ヲ差控フルコト
上海ヨリ南京ヘ哈爾賓ヨリ齊々哈爾ヘ夫々轉電アリタシ
哈爾賓、齊々哈爾ヲ除ク在滿各領事へ暗送セリ
公使、北平、吉林、赤峰ヘ轉電セリ

止スルコト大勢上至難ナルヤニ察セラルル次第ナルカ廿日
上飽ク迄モ抗議ヲ繼續スヘキコト勿論ナルモ他方瑞典燐寸

モアラハ御回電相成度
(欄外記入三)燐寸同業會ニ加入シ居リ

(欄外記入一)

華府會議后関係國(支那ヲ除ク)ハ相互ノ間ニ對支有効條約

ノ通告ヲ交換セルカ米國ハ望廈條約ヲ有効ト認メ居レリ

(欄外記入二)
改訂アルモ望廈條約取消ニ關スル條約ナシ

アルヘキ影響ニ鑑ミ嚴重ナル抗議ヲ提出シ我方ノ建前ヲ明

カニシ置クコト
(欄外記入五)
一、燐寸專賣法ニ對シテハ將來他種事業ニ對シ及ホスコト
アルヘキ影響ニ鑑ミ嚴重ナル抗議ヲ提出シ我方ノ建前ヲ明

カニシ置クコト
(欄外記入六)
二、瑞典側ニシテ同業會ニ參加セサルトキハ瑞典燐寸ノ販

(イ) 償還計畫並各地ニ於ケル其ノ準備狀況

(ロ) 償還ノ山東財界ニ及スヘキ影響並其ノ對策

(ハ) 銀貨暴落力運用及償還ニ及ス影響並其ノ對策

(二) 萬一償還不能ノ場合ニ於ケル對策

(ホ) 居留民ヨリ提出シ又ハ提出スルコトアルヘキ陳情ノ

緩和並指導ニ關スル意見

825

昭和6年3月20日 在奉天林總領事より

幣原外務大臣宛(電報)

東北四省マツチ專賣法の実施を阻止すること困

難なるも主義上は飽く迄抗議繼續方針について

硝礮ハ支那側一方的及関係邦商任意措置等ニ依リ事實上ハ專売力行ハレ居ルカ如キ形ナルモ外國承認ノ事実ナシ

(欄外記入四)

マッチ専売條例

第三条 専賣局ハ未タ製造廠ヲ設置セサル以前ニ在リテハ

東北四省内各マッチ會社ニテ製出スルモノ及輸入ノマッ

チヲ買收シ並華商マッチ同業會ノ委任ニ依リ之ヲ引受處

理ス

(欄外記入五)

輸入マッチハ専賣局ニテ買收ス

専賣条例(十条) (十一条)

支那產品供給充分ナルトキハ輸入品ノ買收ヲ拒絶スルコトヲ得

編注一 欄外記入一は當該箇所に対応したもの。

編注二 「失效」の箇所に「根據如何」との書き込みあり。

欄外記入一は本書き込みに対応したもの。

編注三 欄外記入四は「燐寸」以下の箇所に対応したもの。

- (一) 吉林……………張作相等七名（同上）
- (二) 黑龍江……………萬福麟等七名（同上）
- (三) 天津……………張學銘（同上）
- (四) 热河……………張驥溥等二名（同上）
- (五) 河北……………王樹常等三名（整理委員）
- (六) 北平……………于學忠（同上）
- (七) 哈爾賓……………張景惠等五名（特派員）
- (八) 哈爾賓……………劉翼飛等二名（同上）
- (九) 察哈爾……………劉翼飛等二名（同上）

第一四八號

十九日ノ中央常務會議ハ東北及平津各地ノ黨務指導委員ヲ任命セル力主ナル顏觸左ノ如シ

委員)

中央常務會議において東北および平津各地の

党務指導委員任命について

昭和6年3月20日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）

南京 3月20日後発
本省 3月20日後着

委細公信

公使ヨリ上海ヘ奉天ヨリ吉林、哈爾賓ヘ轉電アリタシ

支、北平、奉天、天津ヘ轉電セリ

827 昭和6年3月21日 在奉天林總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

山西軍費の大半は中央負担とすることで蔣・

張間妥協成立との邢士廉談話について

奉天 3月21日後発
本省 3月21日後着

一九五號

邢士廉ノ談ニ依レハ從來問題ノ山西軍軍費ハ劉桂堂所屬軍

隊ノ分ヲ除キ全部中央ヨリ支給シ東北側ハ單ニ劉桂堂ノ分

ノミ負擔スルコトニ蔣、張兩人間ニ妥協成立セル趣ナリ

公使ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

支、北平、南京、天津ヘ轉電アリタシ

訂正

三月廿一日奉天來電第一九七號（邢士廉ノ談ニ依レハヲ以テ始マル）ヲ第一九五號ト改正アリタシ

826 昭和6年3月24日 中谷閔東厅警務局長より

昭和6年3月24日 永井外務次官他宛

本溪湖の戰跡記念碑建設に反対の旨の遼寧省

政府訓令について

關機高支第二六五三號ノ二

昭和六年三月二十四日

關東廳警務局長

拓務次官殿

内閣書記官長殿

外務次官殿

内務省警保局長殿

關東軍參謀長殿

關東憲兵隊長殿

支那管内ニ於ケル戰跡記念碑ニ對スル支那側ノ態度

昨年七月戰跡保存會ニ於テ建設シタル本溪湖宮ノ原記念碑ニ關シ本年二月二十日本溪縣政府ハ交渉員刻後英ヲ同地警

察署及守備隊等ニ派遣シ來リ右記念碑ノ建立地ハ支那領土ナルヲ以テ撤去ヲ請フ旨交渉シ來リコトアリ當時何レモ該記念碑建設ハ滿洲戰跡保存會ノ建立ニ係ルモノニシテ他ノ

容喙ヲ許サスト体ヨク拒絶セル力今回更ニ遼寧省政府ヨリ本溪湖唐家堡西山戰跡記念碑問題ニ關シ外交部特派員ニ對シ左記ノ如キ反對的訓令ヲ發シタリト云フ尙支那側ノ態度注意中爲念

記

本溪縣ヨリ報告ニ曰ク敵縣管内唐家堡西山嶺ニハ以前ヨリ日本ノ戰功記念碑アリ今ハ已ニ頽廢シ居ルヲ以テ日本人ハ今回之ヲ修復セント爲シタルニヨリ縣長ハ之ヲ阻止スルト共ニ貴省政府ニ指示ヲ仰キタル處貴政府ヨリハ日人力我領土内ニ記念碑ヲ建築スルコトハ條約違反ニ屬スルモノナリ該記念碑カ頽壞シタリトセハ更ニ之ヲ修築セシムルコトヲ許サス依テ此旨交渉スヘントノ御指示ナリシヲ以テ敵縣長ハ直ニ公安局長常廣堯及交渉佐治員ヲ日本警察署ニ派遣

シテ交渉セシメタル處其ノ歸來復命ニ曰ク敵局長ハ日本警察署ニ赴キ交渉シタル處警察署ニ於テハ該記念碑ハ戰爭當時之ヲ建タルモノナルカ戰爭終了後ハ即チ在旅順戰碑保存會ニ於テ之ヲ管理シ居ル關係上之ヲ修復スルヤ否ヤハ該會ニ於テ取扱所ナルヲ以テ當署トシテハ干渉スル能ハス依テ何率該會ニ對シ之ヲ交渉相成度云々

吉林、哈爾賓、赤峰へ轉電セリ

830 昭和6年3月28日 在奉天林總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

蔣介石が自ら大總統となろうとの意図等につ

き湯爾和の内話

奉天 3月28日後発
本省 3月28日後着

第二一八號

今回新ニ東北大學委員會委員ニ就任ノ爲北平ヨリ來奉セル湯爾和ハ廿八日森岡ト會談中大總統問題ニ言及シ極秘トシテ左ノ通内話セル趣ナリ

蔣介石ハ目下内治外交上重要革命期ニ際シ黨部其他ノ掣肘ヲ排シ獨裁的自由手腕ヲ振ハシカ爲ニハ近ク國民會議開催ノ機ニ於テ自ラ大總統トナリ張學良ヲ副總統ニ据ヘントノ意圖ヲ有シ右ハ早ク既ニ學良ト共ニ極秘裡ニ打合ヲ了シ居ルモノノ如ク國民會議中若ハ會議後必ス之ヲ斷行セントノ決心ナリト察セラルル折柄最近胡漢民事事件ニ關聯シ本件カ

意外ニ外間ノ輿論ヲ刺戟シ特ニ黨部方面ニ於テ蔣ヲ攻擊ス

查スルニ前記警察署長ノ言果シテ事實ナルヤ或ハ責任轉嫁ヲナスマノナルヤ判然セサルモ一應及報告候旨報告シ來リタルカ本件ニ就テハ曩ニ該縣ヨリ報告アリン當時已ニ之力交渉方ヲ命シ置キタル受^{次カ}第ナルカ今又前記ノ通り報告ニ接シタルニ付キ該特派員ニ於テモ右承知相成度

829 昭和6年3月26日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

遼寧省党部成立式において東北四省およびハ
ルビン区党務指導委員の就任について

普通第二二九號往信ニ關シ廿六日午前十時當地舊省議會議事堂ニ於テ遼寧省國民黨部成立式ヲ舉行シ同時ニ東北四省及哈爾賓區各國民黨部ノ黨務指導委員大部分參集シ吳鐵城監督ノ下ニ正式就任セリ尙右ノ次第全國ニ通電ヲ發シタル趣ナリ

代理公使、南京、漢口、廣東、北平、天津、青島、濟南、

奉天 3月26日後着
本省 3月26日後着

第二一四號

ル者多キニ鑑ミ蔣ハ一時ノ臨時權宜トシテ去ル廿三日打消の意見ヲ新聞ニ發表シタルカ右辯解ニモ明瞭ナル通大總統問題ハ個人トシテ主張又ハ決定シ得ヘキモノニアラシシテ革命ノ環境ト必要トニ依リテ決定セラルモノナリト述へ暗ニ個人トシテハ此際大總統ノ必要ヲ認メサルモ輿論ノ要求アルニ於テハ自ラ之ヲ否認スル意思ナキコトヲ仄シ却テ世間ノ疑惑ヲ高メ來レリ要スルニ蔣介石ノ意中ハ右打消ノ如何ニ拘ラス近ク大總統ニ就任セントスルニアルカ如ク只其形式ヲ輿論ノ決定ニ待タントシ自然來ルヘキ國民會議ハ極メテ重要ナル意議^{義カ}ヲ有スルモノト云フヘク張學良モ副司令部行營組織ノ爲四月初頭吳鐵城ト共ニ北平ニ赴ク筈ナルカ右ニ關聯シ會期中南京ニモ赴クコトナル見込ナリ尙且下國內有力者ノ輿論ハ黨部力專横ヲ極メ事ニ蔣介石ヲ牽制スルハ國家統治上弊害甚大トナシ此際斷乎トシテ蔣大總統トシテ獨裁政治ヲ行ハソコトヲ希望シ居レリ云々公使ヨリ上海ヘ轉報ヲ請フ

支、北平、南京、漢口、廣東、天津、青島、濟南、奉天、
哈爾賓ニ轉電セリ

831 昭和6年4月4日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛軍政職員の入党に関する張學良の電命について
(4月14日接受)

機密第三三〇號

昭和六年四月四日

在天津

總領事 桑島 主計〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

軍政職員入党電命方ノ件

張學良ハ東北各省ニ於ケル黨部ノ組織ヲ認メ且ツ最近本人自ラ黨部委員ニ就任シ河北省政府第二軍司令部及平津市政府ニ對シ三月三十一日軍政職員ノ入党方ニ關シ大様左記ノ如ク電命セリ

記

東北已ニ黨務公開ヲ實行シ以テ黨國ノ統一促成ニ便シタリ凡ソ軍政職員ハ均シク入党ノ必要責任アルヲ以テ軍職ニ在ル將校以上ノ者及文官荐任以上ノ者ハ速ニ各管該省市黨部ニ入黨登記シ黨證ノ發給ヲ受ケ以テ國民黨員タルヘシ

右報告ス

セシメ全人ニ交付セリ

二、中央ト東北各將領間ノ感情ハ單ニ時勢ニ迫ラレテ接近

シタルモノニ過キス其ノ合作ハ今尚不即不離ノ間ニア

ルニ顧ミ黨務視察二名ヲ藉リテ東北ニ來リ兩者ノ疏通

融洽ヲ計リ將來ニ於ケル合作實行ノ目的ヲ達セシコト

吳來東ノ眞ノ目的ナルカ他面黨務公開ノ迅速實現ヲ促

シ黨部ノ成立黨務指導委員ノ就任ニヨリ漸次黨務公開

ノ途ニ入ラシメントスルニアリ

三、黨務公開セラルニ至ラハ吉林省從來ノ專制的政治モ
大イニ牽制セラルヘシトテ知識階級ノ商民側ニ於テハ
將來省政府當局ニ對スル監督的作用ヲ黨部ニ期待シ何
等ノ惠澤ニ浴シ得ヘシト豫想シ吳今回ノ來吉ニ對シ相
當ノ好感ヲ有シ居レリ

右何等御参考迄報告ス

本信寫送附先

代理公使 北平 南京 奉天 哈爾賓 長春 齊々

哈爾 間島 局子街

~~~~~

本信寫送付先 在中公使 北平 上海 南京 奉天  
幣原外務大臣宛832 昭和6年4月6日 在吉林石射總領事より  
幣原外務大臣宛吳鐵城の東北黨務視察の眞の目的は中央と東  
北各將領疏通融合にありとの情報について  
(4月14日接受)

機密公第二二一號

昭和六年四月六日

在吉林

總領事 石射 猪太郎〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

吳鐵城ノ來吉ト其ノ反響ニ關シ報告ノ件

吉林省黨務指導委員就任式狀況等ニ關シテハ四月六日付機密公第二二〇號拙信ヲ以テ報告申進ノ次第アル處本件ニ關シ當館諜報者ノ齊ラス所左ノ如シ

一、吳鐵城此次ノ來吉ハ黨務指導委員ノ就任監誓及黨務視察ノ爲ト稱スルモ吉林省ハ黨務未タ公開セラレス從テ黨務ノ見ルヘキモノ皆無ナルヲ以テ省政府ニ於テハ其來吉前特ニ各機關ニ命シ過去ノ各種事業報告書ヲ作製

833 昭和6年4月8日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)  
遼寧國民外交協会各縣代表連席大會における日本  
関係漢字新聞排斥などの秘密會議決議について  
奉天 4月8日後発

第二四八號  
本省 4月8日後着

遼寧國民外交協會各縣代表連席大會ニ關シ六日ノ秘密會議ニ於テ決議シタル事項ハ(一)在滿本邦人經營各漢字新聞即チ泰東、盛京時報、滿洲報、關東報、大北日報(盛京ノ分身)及邊聲報ノ徹底的排斥ニ關シ各縣々長ノ援助ヲ求ムルコト(二)滿鐵附屬地以外ニ於ケル滿鐵ノ買收地ニ關シ各縣長ニ請願シテ精查ヲ行フコト(三)滿洲ニ於ケル各種事業及農業ニ關シ日鮮人ヲ相手トスル合辦嚴禁方ヲ當局ニ建議スルコト等ニシテ右ノ内日本關係漢字新聞ノ排斥ハ最簡單ニ實行セラルル虞アリ殊ニ盛京ノ如キハ過般來二回ニ亘リ國民政府及國民攻撃ノ論說ヲ掲ケ當地特派員ヨリ本官宛嚴重抗議シ來ル事實アルヲ以テ今後ノ對策ニ關シ特ニ注意ヲ拂ヒツツアリ

公使ヨリ上海へ轉報ヲ請フ

支、吉林、南京、北平、哈爾賓、關東廳へ轉電セリ

昭和6年4月13日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

昭和6年4月13日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

昭和6年4月13日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

昭和6年4月13日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

日本側不法行為に対し日貨抵制などで対抗と

の外交協会秘密會議決議について

往電第二四八號ニ關シ

第二五一號

往電第二四八號ニ關シ

六日ノ外交協會秘密會議ニ於テ右ノ外更ニ左記決議ヲ爲シ

タル趣ナリ今後東北ニ於ケル日本側ノ不法行為ニ對シテハ

各代表聯絡シ宣傳ノ方法ヲ以テ對抗スヘク性質重大ト認ム

ルモノニ對シテハ日貨抵制其他具体的對抗方法ヲ講スルコ

ト

代理公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

轉電先冒頭往電ノ通

835 昭和6年4月21日 在中国矢野公使館參事官より  
幣原外務大臣宛(電報)

北平に副司令部成立、南京、奉天に各副司令

部弁公處設置等について

北平 4月21日前發

本省 4月21日後着

第一四二號

副司令部ハ十九日成立シ(舊交通財政兩部跡)南京、奉天

ニ夫々副司令部辨公處ヲ設置ノコトトナリ又内部ノ組織ハ

參謀長戢翼翹秘書處長王樹翰總務處長朱光沐參謀處長陳欽

若副官處長湯國楨經理處長蘇全斌軍醫處長劉榮紱軍法處長

顏文海秘書處長葉弼亮ニ決定セル趣ナル處右ニ關シ二十日

危道豐力原田ニ爲セル内話左ノ通

一、學良ノ來平ハ副司令部ノ設置ノ爲ニシテ國民會議ニ出席ト否トハ未定ナリ尙將來長期ニ亘リ當地ニ駐在スヘキヤ

モ未タ判明セス

二、山西善後問題ニ付テハ曩ニ學良力平津銀行團トノ間ニ接衝中ナリシ河北省特殊消費稅ヲ擔保トシテノ百萬元借款問題ハ中央ノ消費稅全廢命令(事實ハ之力徵收ヲ默許シ居

テ意見ノ一致ヲ見タル本省諮詢事項ニ對スル答申書別紙ノ通送付ス御查閱相成度シ

尙全會議ニ於テ

ルモ)ニ依リ立消トナリ一方南京側ハ學良ノ困憊ニ付込ミ山西省主席商震ヲ罷メ孔祥熙ヲ後任トスル條件ニテ編遣費支出方提議シ來レルモ學良ハ商震ノ誠首ニ反對シ本件ハ依然何等ノ辨法ナキ次第ニテ新聞紙上ニ喧傳セラルル百萬元調達說ハ宣傳ニ過キス

代理公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

支、漢口、青島、廣東、濟南、奉天、吉林、哈爾賓、天津、南京へ轉電シ赤峰へ暗送セリ

昭和6年4月23日 在青島川越總領事より

幣原外務大臣宛

在山東領事會議における本省諮詢事項に対する  
答申書送付

機密第二〇一號

昭和六年四月二十三日

(5月4日接受)

在青島

總領事 川越 茂〔印〕

八 中国政情關係  
(欄外記入)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

在山東領事會議ニ關スル件

催ノ旨簡単ニ報導セルモノアリタル外殆ト外部ノ注目ヲ惹  
ク事ナクシテ終レリ

本信寫送附先 代理公使 濟南 芝罘 張店 博山  
坊子

(別紙)

昭和六年四月

在山東領事會議本省諮詢問事項ニ對スル答申書

第一、山東關係諸條約ニ依リ設定セラレタル我國諸權

益擁護ニ關スル件

山東關係條約ニ基ク我重要權益中今尙確保ノ實ヲ舉ケ得サルモノ鮮ナラサルハ遺憾ニ堪ヘス此際是等諸權益ニ對スル條約上ノ根據並沿革ヲ檢討スルト共ニ現狀ヲ明確ニシ且最近ニ於ケル中國情勢ノ變轉ヲモ考慮ノ上實際ニ即スル擁護策ヲ確立スルコト極メテ緊要ナル處之カ調査方法ニ付テハ(一)先ツ現地領事並出張所主任ニ於テ其ノ管理區域内ニ於ケル我權益ヲ詳細ニ調査ノ上之力擁護ニ關スル意見ヲ附シテ

青島總領事館ニ回附シ(二)青島總領事館ニ於テハ之ヲ取纏メ統一セル調書ヲ作成シ本省ニ提出ス(三)本省ニ於テハ右調書

ノ提出ヲ俟テ山東地方ノ事情ニ通曉セル事務官ヲ現地ニ派遣シ精密ナル實地調査ヲ行ハシメタル上最後ノ對策決定ヲ爲スコト妥當ナリト認メラル

右方針ニ基キ個々ノ權益ニ對スル實狀ト其ノ擁護策ニ付テハ近ク詳細ナル調書ヲ作成提出ノ筈ナル處前記(三)本省派員ノ實地調査ハ本件調査完成上最モ肝要且有效ト思考セラルニ付本省ニ於テモ豫メ充分御考量置相成度ン

(一)支那側ニ於ケル山東關係條約ノ義務不履行ニ對スル方策

(1)青島埠頭完成問題

曩ニ大正十五年ヨリ昭和二年ニ亘リ我青島及濟南總領事ノ斡旋ニ依リテ膠澳商埠局對東亞土木企業會社間ニ金三百萬圓ノ埠頭增築借款約成立ヲ見タルコトアルモ偶々中國内亂ノ勃發ニ因リ立消トナリ爾來全然放置ノ姿ナリ然ルニ今ヤ時局安定シ膠濟線ノ内容充實及改善並延長線ノ新設共ニ近ク實現ヲ傳ヘラルアリテ青島埠頭擴張ハ此際最モ時期ヲ得タルモノナリト認メラル

而シテ之等ノ事情ハ支那側ニ於テ充分了解シ居リ市政府並鐵道側ニ於テモ之カ實現ヲ希望シ居ル模様ナルヲ

全ト既得權益ノ擁護ヲ圖ルコト得策ナリト思考ス  
(3)青島市政外人參與問題

從來機會アル毎ニ之カ實施ヲ要求シ來レルモ結局目的ヲ達スルニ至ラス又今後共利權回收ニ焦慮セル現下ノ支那國情ニ照シ之力實現ハ頗ル至難ト察セラル就テハ從來ニ於ケルト同様本條項ニ反シテ制定實施セル諸章程ノ邦人ニ對スル適用ヲ極力拒否シ以テ參與制度ノ實施ヲ促進スル一面今後ノ章程制定ニ先議ノ習慣ヲ馴致シ少クトモ實質上參政ノ實ヲ收ムルノ要アリト認ム

(4)國武農場其他農場買收問題

從來土地ノ事情ヲ異ニセル關係上國武農場ト國武以外ノ農場トハ之ヲ區別シテ交渉シ來レリ(イ)國武農場ニ付テハ大正十三年五月以來交渉ヲ繼續シ殊ニ昭和三年四月時ノ商埠總辦趙琪トノ間ニ漸ク解決點ヲ見出シタルニ付國武側ノ承諾ヲ得ヘク本省ニ稟請中偶々山東ノ政局急轉セル爲メ遂ニ好機ヲ逸シタリ次テ國民政府ノ治下ニ移リタル後モ再三交渉ヲ試ムル所アリタルカ趙總辦時代ノ夫レニ比シ解決條件ニ甚シキ不利アリ目下ノ處客年一月川越總領事歸朝ノ際提案ノ解決條件即チ滄

(2)山東鐵道沿線商埠地開設問題

山東鐵道沿線商埠地ノ設置ハ我方ニ取り之カ實現ノ望マシキコト勿論ナルモ從來ノ交渉經過並中國現下ノ情勢ニ鑑ミ右ハ寧口實現不可能ナルヤニ認メラル一方現ニ沿線各地ニハ多數邦人居住シ實際上左シタル不利不便ヲ感シ居ラサル實情ナルヲ以テ難キヲ強ヒス條約不履行弱點ヲ捉ヘテ旨ク之ヲ利用シ邦人居住營業ノ安

口市街地ノ保留ト銀十二三萬元程度ノ補償以上ニ有利ノ條件ヲ取付クルコト困難ト認メラルニ付先ツ國武側ノ肚ヲ決メ然ル後對支交渉ニ入ルノ手順ヲ要スヘン又(口)國武農場以外ノ農場ニ付テハ其ノ大部分力官有借地ニシテ且原定借地期間満了シ居レルモノナルヲ以テ農場買收問題ヨリモ山東懸案細目協定第六條ノ解釋上是等農地ニ續租權アリヤ否ヤヲ先議スルノ要アリ此點ニ關シ從來我方ニ於テハ假令農地タリト雖モ行政移還ノ際耕作ニ着手シ居タルモノハ當然續租權ヲ有スト主張セルニ反シ中國側ハ前掲第六條ノ適用範圍ヲ住宅工場等築造物ノ存在スルモノニ限定シ農業ノ如ク國法ニ依リ外國人ノ經營ヲ許ササル用途ノ土地ヲ含マスト解シ結局喧嘩別ノ姿ニテ今日ニ及ヘリ尤モ中國側ハ從來本件農地ヲ一律懸案土地トシテ取扱ヒ別ニ使用ヲ妨害スルカ如キ舉措ナカリシカ最近懸案解決迄一時之力使用ヲ停止スル傾向ヲ生スルニ至リ亦一悶着ヲ免レナル情勢トナレリ尙本件解決策トシテハ(一)私有地タル農地ニ付テハ國武農場ノ解決ト同時ニ(二)處理シ又(二)借地タル農地ニ付テハ極力續租權ヲ爭ヒ幾分タリトモ補

(一) 債約上我方ニ於テ履行スヘキ事項ニ關スル現地ノ意見  
 (1) 青島測候所日支從業員交迭問題  
 專問的ニ考察セハ運用上尚多少ノ缺點アラムモ大局上中國側ノ希望ヲ容レ交迭ヲ許スコト然ルヘキ力ト思考ス尙專問的考察ニ付テハ青島測候所伊藤技師ノ報告ヲ微シ別途提出スヘシ

(2) 青島鹽購入問題  
 大正十五年青島鹽輸出一般協定成立以來今日ニ至ル五年間我專賣局ハ毎年最低購買數量一億斤以下ノ購買ヲ爲シ來リ爲ニ當地鹽商永裕公司ノ經營不振ニ陷レルハ事實ニシテ又今日迄一度モ協定通ノ購買ヲ實行セサル專賣局側ノ措置ハ公平ニ見テ必シモ妥當ナリト謂フヲ得ス就テハ内地鹽業政策トモ重大ノ關係アルコト乍ラ事情ノ許ス限リ一億斤以上ノ購買ヲ實行セシメラレ度然ラサレハ中國側トノ交渉ニ依リ何等諒解ヲ取付クルコトト致度キ現地ノ希望ナリ

(3) 支那側ノ條約違反行爲ニ對スル方策如何  
 (1) 青島商埠地地券書換問題  
 (四) 山東關係諸條約ニ依リ設定セラレタル我方權益ノ確保策  
 (1) 鐵道問題  
 膠濟鐵道關係ニ於テ我力有スル權益ノ確保上特ニ注意ヲ要スヘキハ(イ)利息ノ滯納(口)收入ノ流用(ハ)車輛ノ軍事徵發(二)日本人職員ノ地位確保ノ四點ナル處(イ)利息ノ滯納ニ付テハ正金銀行支店及會計主任ト充分ナル連絡ヲ執リ不斷ノ注意ヲ怠ラサルニ於テハ確保ノ實ヲ擧ケ得ヘク從來右方針ノ下ニ相當ノ成績ヲ收メ居レリ又(口)收入ノ流用ニ付テハ會計主任ニ於テ注意ヲ怠ラサル限り殆ト例外ナク防止スルヲ得ヘキモ(ハ)車輛ノ軍事徵發ニ付テハ車務處長ニ於テ常ニ注意シ防止策ヲ<sup>(講)</sup>購スルノ萬一ノ場合我當局ヨリモ嚴重抗議ノ要アリ更ニ(二)在勤日本人職員ノ地位確保ニ付テハ先ツ日本人職員ヲシテ實力ニ依リ事務上代人ヲ不可ナラシムル如キ確乎タル地位ヲ築カシムルト共ニ車務處長及會計主任ト聯絡ヲ

執り濟案解決當時ニ於ケル日本人職員増員ノ約束ヲ履行セシムニ努メ尠クトモ現在ノ職員數（十名）ハ之ヲ維持セシムル要アリ

## （2）鑛山關係諸問題

鑛山ニ關スル問題ハ（イ）權益侵害事實ト之力擁護ノ方策

及（ロ）魯大現在ノ營業不振打開策ノ二種ニ分チテ方針ヲ決定ス

（イ）權益侵害事實トシテハ山東省政府ノ魯大監理人設置問題ト魯大鑛區盜掘問題ノ二ヲ擧ケ得ヘキ監理人設置問題ニ付テハ工人問題等中國官憲ノ力ヲ必要トスル

案件ニ利用スル爲メ原則トシテ設置ヲ默認スル方針ヲ採リ唯々監理辦理規則中魯大ニ適用ヲ不利トスル條項ニ對シテハ濟南總領事ヨリ省政府當局ノ注意ヲ喚起スルコトトシ又盜掘問題ニ付テハ之カ根絶ヲ期スルコト甚々困難ナル實情ナルニ加ヘ魯大内部ニ於テハ出炭不足ニ惱メル折柄寧ロ安價買取ヲ條件ニ一部ノ採炭ヲ許可スヘシトナスモノアリ旁此邊ノ事情ヲモ考慮ニ入レ町田博山主任ニ於テ魯大側ト具體の方策ヲ協議スルコトトセリ

（ロ）魯大營業不振ニ對スル打開策ニ付テハ博山、青島協力シテ調査ヲ行ヒ博山ニテハ山元ノ現狀ヲ基礎トシ又青島ニテハ營業方面ヲ基礎トスル改善案ヲ樹テ兩案勘考ノ上青島ニ於テ最後案ヲ作成スル筈ナリ

## （3）電話問題

現在青島濟南間各主要都市ニハ交通部管理ノ長距離電話開通シ邦人ハ之ヲ利用シ居レルニ付本件電話ノ公開ハ必シモ之ヲ必要トセサル實情ナリ

### 第二、山東ニ於ケル邦人ノ經濟的發展ニ關スル意見

#### 一、根本的發展策ニ關スル意見

（一）我國ノ對華進出ハ満洲以外ノ中國ニ於テハ經濟的發展策ヲ主眼トスヘキハ最早ヤ今日ニ於テハ一黠疑ヒノ餘地ナカルヘク而シテ右經濟的發展策ハ我國內產業ノ發達及工業問題救濟等ノ點ヨリ見テ我國內製品ヲ中國ニ輸出スルコト即貿易主義ヲ第一義ト爲スヘキモ中國ニ於テ殊ニ最近ニ於ケル顯著ナル自國產業保護政策ニ伴ヒ邦品輸出上ニ蒙ムル不利ニモ鑑ミ中國ニ於ケル邦人企業ノ經營即中國ニ於ケル邦人ノ產業政策ニ重要性ヲ認メサルヘカラス

#### （二）中國側ノ對日好感情ヲ誘致スルコトハ對華經濟發展上極

メテ重要ニシテ之レカ爲メニハ我國ノ對華外交政策ノ基調ニ於テ大イニ考慮スル所アルヘキハ勿論之レト同時ニ我國民ノ對中國人觀念及態度ニ於テモ大イニ反省ヲ要スルモノアルヘシ殊ニ軍政時代ノ關係ニテ今尚中國人ヲ劣等視スル風アル當方面在留邦人ノ觀念及態度ニハ大イニ改善ヲ要スルモノアリ

（五）我國ノ經濟的發展ノ爲メニハ官憲筋ノ各機關及商工會議所等民間筋ノ各機關ヲ中心トシテ官民一致團結シ打ツテ一丸トナリ内外相呼應シテ目的ニ向ヒ共働スルコト必要ニシテ殊ニ事情ノ變化シツツアル中國ニ於テ隨時發生スル事件等ニ對スル情報ヲ逸早ク入手スルコトハ極メテ必要ナル處之レカ爲メ右等機關ノ上ニ一大通信網ヲ組織シ相互ニ敏速ニ各種情報ヲ交換スル等ハ商機及商權ノ獲得又ハ維持上ヨリスルモ極メテ有效ナリ右通信網内ニ中國側傭聘本邦人等ヲ加フル時ハ意外ニ機微ニ亘ル情報等ヲ入手シ得ルコトアルヘク之レカ利用ハ相當效果的ナルヘキヲ以テ帝國政府ニ於テハ必要ニ應シ之等中國傭聘邦人ノ身分等ニ對シ保證シ遣ル用意アルコト必要ナリ

（四）樹立セラレタル對華經濟的發展ニ關スル政策ノ遂行ニ關

（六）最近ニ於ケル中國ノ自國產業保護政策ニモ鑑ミ大資本ト高級技術トヨリ成ル企業ノ對中國就中各種權益設定セラ

レ居ル當方面へノ移動ハ極メテ有望ナルヘキ處企業上ノ利益ヲ邦人ニ於テ獨占セムトスルトキハ中國側ニ於ケル國權恢復運動ノ旺盛ナル昨今ノ事態ニモ鑑ミ何カト中國側ヨリ妨害ヲ蒙リ易ク遂ニ企業ノ經營ヲ不可能ナラシムル力如キ狀態ニ立到ルナキヲ保シ難キヲ以テ中國人ト共ニ利益ノ分配ニ與ルカ如キ經濟的仕組ノ下ニ企業ヲ經營スルコト最モ必要ナリ

## 二、各種問題ニ對スル解決方法

### (一)通商企業發展方策ニ關スル問題

- (1)軍政時代ノ保護ニ狎レ在留邦人力官憲ニ對スル依頼心強ク且經濟知識乏シキコト
- (2)資本ノ缺乏特ニ甚シキコト
- (3)實力ナク而モ射倅心旺盛ナル在留民多數ニシテ從テ邦人間ニ於ケル競爭激甚ナルコト
- (4)山東地方ハ南支方面ニ比シ文化低ク住民ノ購買力弱シ從テ邦品ハ特ニ安價ヲ第一要件ト爲スヘキニモ拘ハラス此ノ方面ニ關スル市場ノ調査研究不充分ナルコト
- (5)邦品力青島芝罘ニ於テ一般ニ金建ヲ以テ販賣セラルル

ハ其ノ賣行ヲ不振ナラシムル一原因ナルヘキコト  
(6)本邦不正業者ノ奧方面ニ於ケル橫行ハ眞面目ナル邦商ノ營業及奧地方進出ヲ妨害スルコト大ナルコト  
口邦人ノ經濟的發展ノ爲メ新タニ政府トシテ爲スヘキ一般的施設

- (1)青島ニ商務官ヲ置キ山東省内各館ヲ巡回服務セシムル

### (四)勞働問題

#### (2)商務官設置不可能ナルトキハ青島總領事館ニ通商產業關係事務ニ堪能ナル館員ヲ增配スルコト

(3)文化事業的施設トシテ日、中兩國人ヲ收容シ得ル學校特ニ實業教育ヲ主眼トスル學校ヲ設置スルコト

#### (4)本邦ヨリ專門技術者ノ隨時派遣

- (5)橫濱正金銀行及本邦船舶業者ヲシテ邦人ニ對シ可成便宜ヲ與ヘシムル様政府ニ於テ考慮スルコト

### (二)現存邦人企業ニ對スル檢討及之レカ助成策

イ基礎弱ク維持困難ナルモノ  
之等企業ニ對スル保護ハ單ニ一時的效果アルノミニテ無意義ナルヲ以テ之レ等企業ニ對シテハ放置主義ヲ採リ低利資金ノ融通等モ可成爲ササルヲ可トス

口基礎健全ニシテ將來發達ノ見込アルモノ  
當地方ニ於ケル紡績工場、麥酒製造業、製水等大規模ノ炭礦業等大資本ト優秀高級ノ技術トヲ必要トスル工業及產業ハ邦人ノ經濟的發展上最モ有望ナル企業ナルヲ以テ之レカ保護助成ニ對シテハ政府トシテ出來得ル限リノ努力ヲ拂フコト必要ナリ

ハ現存セサルモ將來一定期間有望ナルモノ  
石鹼、染料（共ニ青島ニ現存セルモノアリ）珊瑚鐵器「アルミニウム」人絹、醬油、各種化粧品等ノ製造業ハ中國ニ於ケル新輸入稅ノ實施ニモ鑑ミ當方面ニ於テ經營スルニ於テハ一定期間相當ノ利益ヲ豫想シ得ル有望事業ナルヘキニ付之等企業ノ創設及經營ニ關シテハ中國側ニ對スル交渉、邦人間ニ於ケル競爭防止、専門技術家ノ助言、低利資金ノ融通等ニ關シ各般ノ保護及指導ヲ與ヘ其ノ發達ヲ助成スルコト肝要ナリ

### (三)補償稅徵收問題

イ統稅、營業稅、家屋稅等ノ新稅ニシテ山東省内本邦企業乃至我山東貿易ニ對シ公正ニ且差別的方法ニ依ラス賦課セラルルニ於テハ影響ナキカ如キモ在留邦人ハ邦企業

世界ノ大勢ニ伴ヒ中國ニ於ケル勞働爭議モ亦漸次經濟的根據ニ立脚スルノ傾向ヲ帶ヒ來タレルハ事實ナルモ而モ

當山東ノ如キハ尙未タ其ノ反映微少ニシテ依然トシテ政治的労働争議タルノ舊態ヲ脱セス即チ紡績工場鑑山其他諸會社ニ於ケル大小幾多ノ爭議ヲ研覈スルニ一トシテ黨部其他各種關係ノ政略的動機ニ基因セサルモノ無キ實状ナルヲ以テ之レニ對シ一定ノ方策ヲ樹立スルハ到底不可能ナリ

故ニ現狀ニ於テハ所謂「問題ヲ抱キナカラ進ム」ノ方針ニテ時ト場所ト環境ニ應シ適宜善處ノ道ヲ講スルノ外ナル處當山東ノ如ク租界ノ設置無キ地方ニ於テハ特ニ多分カルヘキ力惟々工會問題工場法等共通的當面ノ問題ニ對シテハ略一定ノ方針ヲ定メ置クノ要アルヤニ思料セラル處當山東ノ如ク租界ノ設置無キ地方ニ於テハ特ニ多分ノ妥協的態度ヲ取入ルルコト必要ナリ

### 一、工會問題

工會法ニ依ル工會ハ已ニ成立シ實在ニ居ルモノナルヲ以テ今更之力取消ヲ策スルモ到底目的達成ノ見込ナカルヘク結局ニ善處スルノ策ヲ講スル外致方無キ次第ナルカ其内特ニ注意スヘキ點左ノ如シ

a 工會法ニ對シテハ表面ハ不承認ノ立前ヲ持續スルモ裏面ニ於テハ各會社ヲシテ直接中國當局ト折衝セシメ之力事

ニテハ中國現象ノ國狀ニ照シ本法ノ實施力尙敗ニ終リタルカ如キハ其ノ適例ナルヲ以テ今後ハ壓迫策ヲ棄テ利用方針ニ出スルコト肝要ナルヘシ

### 二、工場法問題

三月一日ヨリ實施ノ筈ナリシ同法カ八月迄實施ヲ延期セラレタルハ主トシテ中國側各工場主ノ激烈ナル反対ニ遇ヒタル結果ナルヲ以テ我方トシテハ

### 一、官憲側ニ於テハ中國現象ノ國狀ニ照シ本法ノ實施力尙

早ナルノミナラス一方條約ニモ違反セル點ヲ指摘シ抗議ヲ續クルト共ニ一方

二、日本工業家ヲシテ中國工業家ト提携セシメ反対氣勢ヲ釀成セシメ之カ實施ヲ不可能ナラシムルカ或ハ假令實施ヲ見ルモ全然骨抜キノモノタラシムルノ策ニ出スルコト得策ナルヤニ思料セラル

### (五)不正業者取締問題

#### イ 濟南業務復活資金運用ノ實績

業務復活資金ハ一步運用ノ方法ヲ誤マランカ却テ不正業ヲ助長スルカ如キ惡結果ヲ來ス恐レアルヲ以テ之力貸出ニハ細心ノ注意ヲ拂ヒ極力當初ノ目的達成ニ努メツツアルカ何分ニモ在留民ノ大半ハ直接間接斯業ニ關係アル實情ナルヲ以テ急速ノ效果ハ期待シ得ラレサルモ昭和五年中正業ニ轉シタルモノ約十戸論旨ノ上退去セシメタルモノ四十四戸計九十一名ヲ出タシタル事實ニ徵スルモ緩慢乍ラ目的ノ方向ニ向テ進ミツツアルハ事實ナリ

口各分館ニ於ケル不正業者取締狀況

坊子

管内居留邦人中麻薬類不正取引並ニ密賣容疑者ノ多クハ往年我政府ニ於テ山東鐵道管理當時我駐屯軍並ニ鐵道從業員等ヲ顧客トセル各種營業者ニシテ何レモ大正十二年山東鐵道還附後失職シ他方坊子ニ於テ各族鑛業逐年衰微ニ傾キ是等從業員中失業者若クハ破産セル者

(一)對外關係ヲ取締ノ基準トシ表面飽迄嚴罰主義ヲ標榜ス  
(二)不正業容疑者ニ接觸ノ機會アル毎ニ加諭シ其資本ヲ有スル者ニ對シテハ正業ニ轉スル様且又無資本ニシテ生活上或ハ營業上特ニ邦人ノ體面ヲ汚ス虞アルモノニ對シテハ他ニ職ヲ求メ任意轉居ノ方法ヲ講セシムル等夫々指導ニ努ムルコト

實上ノ施行ヲ默認ノ上會社側ニ有利ナル條項例ヘハ同法第二十三條及第二十七條ノ如キハ特ニ之力切實ナル運用ヲ要求スルノ態度ニ出テシムルコト得策ナルヘシ

b 黨部ノ存在スル限り工會ヲ壓迫スルノ方策ハ結局失敗ニ終ルヘク當地各紡績工場力當初會社援助ノ下ニ反工會ノ一勢力ヲ形成セシメ工會ヲ牽制セムト試ミタルモ悉ク失

敗ニ終リタルカ如キハ其ノ適例ナルヲ以テ今後ハ壓迫策ヲ棄テ利用方針ニ出スルコト肝要ナルヘシ

(三) 説諭ヲ加フルモ效果ナク密賣行爲日星シキモノ又ハ右不正取引等ニ於テ事端<sup>事件</sup>ヲ惹起セントスルノ虞アルモノニ對シテハ課刑並諭旨退去ノ如キ制裁ヲ加フルコト

(四) 受持區域内ニ於ケル不正業者ノ新規來住ハ嚴重禁止スルコト即不正取引ニ依リ問題ヲ惹起シ他管内ヨリ退去處分ヲ受ケタルモノ若クハ一定ノ職業ナク麻薬類密賣

進シテ之ヲ摘發スルコト無ク放任シ機會アル毎ニ善導ニ努メツツアリ

博山

管内ニハ現在僅カニ二戸ノ不正業者アルノミニシテ而モ各々極メテ地道ニ取引シ居レル現狀ナルヲ以テ之ヲ放任シ居レリ

ノ目的ヲ以テ新ニ受持區域内ニ移住セントンタルモノニ對シテハ加諭ノ上任意退去セシムルコト

而シテ右各項方針ニ依リ諭旨退去若クハ他ニ轉居セシメタルモノ客年度(自昭和五年一月)ニ於テ計十六名(二)項該當者四(四)各項該當者各六名)アリ而シテ受持區域内總人口ハ客年一月現在三五一名ニ對シ本年一月現在二八九名ニ減少セルカ右ハ本件取締方針ノ反映亦其一因タルヘク取締上相當ノ效果ヲ擧ケツツアルモノト認メラル張店

在留民ノ約七割ハ不正業者ナルヲ以テ若シ積極的取締ヲ勵行スル時ハ其ノ生活ヲ脅スコトトナリ事實上ノ重大問題ヲ招來スル恐レアリ故ニ現在ニテハ其ノ犯行表向トナリタルモノハ之ヲ罰スルモ其他ノ者ニ對シテハ

(1) 濟南居留民業務復活資金ニ關スル償還確保ノ對策  
不動産擔保貸付ハ未タ償還期ニ入ラス商品擔保貸付ハ濟南銀行ヲシテ取扱ハシメ居レルモ政府ニ對スル償還期迄ハ尙充分ノ年月アルヲ以テ之力對策ヲ講シタルコトナク唯々信用貸付ニ在リテハ既ニ返済期ニ入レルモノアリ之カ利用者概シテ中流以下ノ者ニシテ銀價暴落ノ爲メ深甚ノ打擊ヲ受ケ生活費ニ費消サレタルト看做サルモノアリ殊ニ昨年ハ動亂ノ影響モアリ運用意ノ如クナラス爲メ

#### (六) 低利資金ニ關スル問題

二返済期ニ債務ヲ完済シ得サルモノヲ生シタルニ付個々ノ事情ヲ斟酌シ已ムヲ得サルモノハ新規貸付ケタル形式ヲトリ二ヶ年以内ニハ整理シ得ル如ク方法ヲ講シ居レリ口低利資金ニ關シ

#### 1 債還計畫並各地ニ於ケル準備狀況

博山及張店ニ於テハ整理計畫ヲ爲シタルモ(本年三月三十日附博山發大臣宛機密第六六號)其他ハ特ニ攻究シタ

ル

ルコトナシ唯々青島民團トシテハ期間満了ノ際全額完済シ得ル如ク極力貸付金ノ回収ニ力メ滯納者ニ對シテ嚴重ナル督促ヲ爲シツツアリ政府貸付條件第十四條ノ積立金現計ハ金十萬二千圓ニシテ萬一政府ニ對スル償還額ニ不足ヲ生スル場合ハ本積立金ノ支出モ已ムヲ得サルヘシ

#### 2 債還ノ山東財界ニ及ホスヘキ影響並其ノ對策

低資ヲ利用セル者ノ多數ハ概シテ資本モ規模モ大ナラサルモノナリ又借受ニハ擔保ヲ必要トスル關係上全然無產

ノ者モ尠ク中流階級ノ者ヲ最多トス故ニ期限満了ニ際シ直ニ之力償還ヲ強要スルニ於テハ之等中產階級力忽チ金

融機關ヲ失フノ結果トナリ在留邦人ノ消長ニ大影響ヲ見ルニ至ルヘシ蓋シ本貸付金ノ大部分ハ土地建物ニ投資セ

#### 3 銀貨暴落力運用及償還ニ及ホス影響並其ノ對策

銀貨ノ暴落ハ近年經濟界ノ不況數年間引續キタル山東ニ於ケル擾亂ト相俟テ居留民ノ經濟的基礎ヲ脅カシ爲メニ從來貸出金ノ回収ニ所期ノ成績ヲ擧ケ得サリシ次第ニテ殊ニ沿線ニ於テ一層甚シキモノアリ之力對策トシテ金銀平價(本年三月博山發大臣宛機密第六六號參照)換算償還等ヲ唱フル者アルモ斯クノ如キハ政府トシテ到底容認シ得サルヘキヲ以テ左記ノ如ク實施方可能アル對策ニツキテハ之力實現方ニツキ至急詮議ヲ希望ス

A 速カニ政府ニ於テ貸付期限ヲ延長シテ借主ノ年賦償還額ヲ輕減スルコト

B 政府ノ貸付利子年四分ハ一般金利低下ノ大勢ト長江筋及濟南ニ於ケル貸付金利子三分ナルトニ鑑ミ青島ニ對

スル貸付金モ三分ニ引下ヲ妥當トスヘク尙進シテ銀暴落等ニ依ル對策ヲ考慮スルトキハ此際寧ロ年二分程度（條件付）ニ引下ケ政府ニ對スル元利金ノ償還ニ充分ナル責任ヲ持タシムルコト  
カニ實現スルコト

C客年末青島ヨリ本省へ稟請シタル信用貸付金増額ヲ速

#### 4萬一償還不能ノ場合ニ於ケル對策

民團ヲシテ極力償還準備ヲ爲サシムヘキモ尙不能ノ場合ニ於テハ一時延期ヲ求ムル外對策ナシ

#### 5居留民ヨリ提出シ又ハ提出スルコトアルヘキ陳情ノ緩和並指導ニ關スル意見

從來居留民ヨリ提出セラレタル陳情中ニハ不眞面目ノモノ多ク例ヘハイ救濟の意味ヲ有スル貸付金ナルヲ以テ民團力債務者ニ對シ擔保物處分ノ如キ強制執行ヲ爲スハ低賚貸付ノ精神ニ反スロ民團ノ政府ニ對スル責任ハ單ニ形式的タルニ止マリ民團ハ回収シ得タル金額ノミ政府ニ償還セハ可ナリ等ノ言説ヲ爲シ借受者中ニモ此ノ說ヲ信シ兩三年前迄醸金シテ代表者ヲ在京セシメタルモ其ノ效果ナカリシ爲メ右ノ如キ趣旨ノ陳情ハ自然立消タル感アル

モ將來第三項ニ掲ケタル對策ノ如キハ眞面目ナル借主者ヨリ願出ツルコトアルヘシト思料セラル就テハ政府トシテハ貸付金ノ確實ナル償還ヲ期シ且居留民ノ經濟的基礎ヲ確立セシムル爲第三項所載ノ事項實現方御考慮セラレソコトヲ希望ス

#### （欄外記入）

本件報告ニ關シテハ川越總領事帰朝ノ際亞局ト共同審議ヲナシタリ

#### 編注 「事端ヲ」の後に「惹起シ又ハ」との書き込みあり。

837 昭和6年4月27日 在香港吉田（丹一郎）總領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

#### 広西派が陳銘樞などと大廣東主義に基づき反

#### 蔣獨立の動向につき唐生智より通報について

十六日夜當地ニ亡命中ノ唐生智ヨリ本官ニ電話ニテ廣東形

#### 第二八號

香港 4月27日前後着 本省 4月27日後着

勢急轉ノ兆アル旨通報越シタルニ付同夜直ニ會見シタル處同人力極秘ナリトテ談話セル所大要左ノ通

胡漢民事件其他ノ爲豫テヨリ蔣介石ノ態度ニ反感ヲ懷キ居タル陳濟棠ハ先輩古應芬トモ談合ノ上陳銘樞ヲ説キテ遂ニ之ヲ抱キ込ミ更ニ廣西側李、張、白トモ諒解成リ所謂大廣

東主義ノ旗幟ノ下ニ五月五日國民會議ノ前後ヲ期シテ對蔣

獨立ノ舉ニ出ツヘシ廣西善後督辦黃紹雄ハ勿論之ニ參加ノ

筈ニシテ同人力尙廣西ニ赴カス態度煮切ラサルハ一狂言

ニ過キス改組派ハ從來ノ行懸ヲ捨テ討蔣ノ爲ニ廣東ニ加擔

スヘク汪精衛ハ茲一週間内ニ香港ニ來ル筈ナリ廣東獨立セ

ハ長江筋並ニ河南山東モ之ニ應スヘシ尤張學良ノ態度ハ不明ナルモ積極的ニ此運動ニ反對スヘントモ思ハレス但シ關

內學良軍ト河南獨立軍トノ間ニ何等誤解ノ爲戰ヲ交フルコ

トアラハ一大事ニ付此點ハ充分注意スル積リナリ云々

右何等御参考迄

代理公使ヨリ上海へ轉報シ南京へ轉電アリタク北平ヨリ奉

天、天津へ轉電アリタク

支、北平、漢口へ轉電シ廣東、汕頭、廈門、福州へ暗送セ

リ

（欄外記入二）  
右ニ關聯シ當附屬地内長春、寶山兩會社ヨリ（一）經理處ニ代行シ本邦人工場ノ燐寸製產過程ニ於テ印花ノ貼用ヲ實施スルコト（二）長春分經理處ヲ附屬地内寶山工場内ニ設置スルコ

838

昭和6年4月30日 在長春田代領事より

幣原外務大臣宛（電報）

#### マッチ專賣實施に關し付屬地内に印花貼用場

#### を設置につき請訓

長春 発

本省 4月30日後着

#### 第一九號

奉天總領事發閣下宛電報第二七三號ニ關シ  
（欄外記入一） 東北省ニ於ケル燐寸專賣ハ五月一日ヨリ實施ノ建前ナルモ

之力實行機關タル燐寸經理處ノ組織並支那官憲ノ關係通令等諸般ノ準備確立セサリシ關係モアリ（五月中ハ同業會側ニ於テハ一律ニ製品ノ賣捌キヲ差止メタルノミニテ何等印花ノ貼用ヲ強制セサリシ處各地分經理處モ既ニ成立準備ヲ完了シタルヲ以テ愈五月一日ヨリ確實ニ印花ノ貼用ヲ實施シ貼用ナキ製品ハ支那警察、稅局及經理處協力シテ假借ナク摘發シ專賣法違反トシテ處分スルコトナレル趣ナリ

右ニ關聯シ當附屬地内長春、寶山兩會社ヨリ（一）經理處ニ代行シ本邦人工場ノ燐寸製產過程ニ於テ印花ノ貼用ヲ實施スルコト（二）長春分經理處ヲ附屬地内寶山工場内ニ設置スルコ

トノ可否ニ付指示ヲ仰キ來リタル處本件ハ附屬地行政權ト  
抵觸スル虞アルヲ以テ本官シテハ印花ノ貼用場所及分經  
理處トモ特ニ附屬地外ニ設置セシムル所存ニテ說得ニ力メ  
ツツアル處當業者ニ於テハ經費等ノ關係ヨリ出來得ヘクン  
ハ(一)及(二)ノ附屬地内設置ヲ承認アリタ旨熱心ニ希望シ居  
ル次第モアリ已ムヲ得サル場合ニ於テハ右ヲ默認シ差支ヘ  
(欄外記入三)  
ナキ次第ナルヤ折返シ御回電ヲ請フ

支、奉天、北平、吉林、哈爾賓、赤峰へ轉電シ、安東、牛  
莊、齊々哈爾ヘ暗送セリ

(欄外記入一)

(一)經理處性質  
(二)印花トハ印花、稅法ノ適用ナルヤ

(欄外記入二)  
稅吏駐在及附屬地販売製品課稅ニ關シ東亞煙草ト稅局トノ契  
約ニ際シテハ(一)ハ何等便法講究方東亞へ申聞ケ(二)ハ排除方訓  
令

(欄外記入三)  
分經理處力條例上ノ專賣分局ニ該當スルニ於テハ專屬行政權

839 昭和6年5月(1)日 在香港吉田總領事代理より  
幣原外務大臣宛(電報)

陳銘樞逃亡につき古應芬名で反蔣通電発出の

動向について

香港 発

本省 5月1日後着

第三一號  
往電第三〇號ニ關シ

其後ノ情報ヲ綜合スルニ陳銘樞ハ本件加擔ニ付陳濟棠ニ確  
答ヲ與ヘス態度ヲ曖昧ニ保チツツ突然香港ニ逃レ來レルモ  
ノノ如ク濟棠ハ(銘)樞ノ逃亡ニ痛ク困惑ノ氣味ニテ直ニ  
銘樞ノ後ヲ逐ヒ使者ヲ當地ニ遣ハシ銘樞ニ歸省ヲ勸説セシ  
モ容レラレサル爲聊力手違ヒ且機尙熟セサルノ感アルモ銘  
樞一派既ニ逃亡ノ上ハ已ム無ク急ニ古應芬ノ名ニテ反蔣通

電ヲ發スルノ運トナレルモノノ如シ  
代理公使ヨリ上海ヘ北平ヨリ天津へ暗送アリタシ

840 昭和6年5月1日 在中國矢野公使館參事官より  
幣原外務大臣宛(電報)

東北四省代表が国民會議に治外法權撤廃、対  
日政策の確定、中東鐵道の回収、在東北朝鮮

人待遇弁法確定を提案予定について

北平 5月1日後発  
本省 5月1日後着

第一五七號

般日華問題ノ談判進行ノ際東北ノ對日問題モ提議スル  
ノ要アリ之カ爲ニハ對日政策ノ確定ヲ要ス即チ對日問  
題委員會ヲ組織シ旅大滿鐵ノ回收準備、對日借款、鐵  
道ノ償還、整理辦法並ニ東北ニ於ケル日本人ノ營業制  
限辦法等ヲ考究ノ上具體案ヲ作製シ政府ハ右ニ依リ處  
理スル事

三、東支鐵道ヲ回収スヘシ

東支鐵道回収委員會ヲ組織シテ處理セシム

四、在滿朝鮮人待遇辦法ヲ確定スヘシ

在滿朝鮮人ハ國籍問題ニ關シ種々問題發生スルノミナ  
ラス日本ハ之ヲ利用シテ各種利權ヲ取得シ居レリ從テ  
韓僑委員會ヲ設ケ又外交特派員分處ニ專任官ヲ置キ鮮  
人事件ヲ處理セシメ且鮮人ノ入籍歸化辦法ヲ確定スル  
事

代理公使、南京、奉天ニ轉電セリ

841 昭和6年5月6日 在中國重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

二、對日政策ヲ確定スヘシ  
東三省ハ日本ノ侵略ヲ受クル事最甚シキモノアルカ一

ト容レサルコトナルモ經理處力同業會事務力執行機關又ハ  
専トセハ此種憂患ナカルヘシ

編注一、二 「五」の箇所に「四?」との書き込み訂正あり。

編注三 「欄外記入三」がこの個所に対応。

## する見込み等を陳述について

上 海 5月6日後発

本 省 5月6日後着

## 第四三二號

六日南京着同日外交部長往訪歸任ノ挨拶ヲ交換シタル後本官ヨリ國民會議モ滯ナク開會セラレ重大ナル故障モナキ様思ハレ寔ニ慶賀ノ至ナリト述ヘタルニ對シ王部長ハ謝意ヲ表シ世間ニハ種々「ルーマー」アルモ國民會議ハ成功裡ニ終了スル見込ナル趣旨ノ説明ヲナセルニ付本官ハ民國內政上ニ於テ種々ノ困難アルコトハ必シモ謠言ノミニ非スト思ハルモ右ハ何レノ國ニモアルコトニシテ賢明ナル民國政府ノ要部ニ於テハ必ス如何様ノ困難ニモ打勝タルルコトナルヘク自分等ハ之ヲ問題トシ居ラス唯個人的ニ言ヘハ友人タル王寵惠、孫科ノ兩氏力今日南京ニ居ラサルハ遺憾ナリト述ヘタル處外交部長ハ右ハ同感ナルカ之等ノ諸氏ハ廣東方面トノ個人的關係ヨリ姑ク現場ヨリ離レタルニ過キス遠カラス機ヲ見テ復歸スルコト考ヘラルト述ヘタリ上海、南京ニ轉報セリ

北平、奉天ニ轉電セリ

上海、南京ニ轉報セリ

北平、奉天ニ轉電セリ

842 昭和6年5月7日 在中国矢野公使館參事官より 帪原外務大臣宛(電報)

張學良斡旋による山西軍政費中央支給は蔣が北方軍の廣東軍との呼応を阻止せんとしたものとの商震談話について

北平 5月7日後発

本省 5月7日後着

## 山西善後問題及時局ニ關シ

## 七日商震力原田ニナセル内話

一、山西軍政費ハ張學良ノ斡旋ニ依リ中央ヨリ毎月一百萬元ノ支給ヲ受クルコトトナリ五月分ヨリ受領ノ筈ナルカ之ニ山西ノ收入約一百萬元ヲ合セハ山西ノ財政ハ辛シテ收支償フヲ得ヘシ宋哲元石友三吉鴻昌孫殿英等ノ軍費モ山西同様支給ヲ受クルコトナレリ尙平津銀行團ヨリ借入レノ一百萬元ハ既ニ調印ヲ了シ一兩日中ニ現金ヲ受領スル筈二、數ヶ月ニ亘リ未解決ナリシ右軍餉問題カスク急速ニ纏リタルハ時局ノ動キニ負フ所多ク曩ニ蔣ハ北方軍力廣東軍ニ呼應スルニ至ルヘキヲ察知シ急據張學良及韓復榘ヲ召致

シ前記軍餉問題ヲ解決シ巧ニ北方軍ノ機先ヲ制シタルモノニテ從テ右軍餉ノ不渡リ又ハ時局ノ急轉ナキ限り北方軍力廣東側ト呼應シ積極的ニ南京ト事ヲ構フルカ如キハ有り得サルヤニ思考ス

代理公使ヨリ南京、上海へ廣東ヨリ香港へ奉天ヨリ吉林、哈爾賓へ轉電アリタシ

公使、漢口、廣東、青島、濟南、天津、奉天ニ轉電シ鄭州、張家口へ暗送セリ

843 昭和6年5月9日 在南京上村領事より 帪原外務大臣宛(電報)

## 國民會議本會議において張學良主席のもと不平等條約廢除案等を討議について

十三日の本會議において通過した不平等條約排除に関する對外宣言について

844 昭和6年5月13日 在南京上村領事より 帪原外務大臣宛(電報)

## 十三日の本會議において通過した不平等條約

往電第二九二號ノ通轉電セリ  
公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

往電第二九二號ノ通轉電セリ

十三日の本會議において通過した不平等條約

排除に関する對外宣言について

南京 5月9日後発  
本省 5月10日前着

## 第三〇七號

往電第三〇三號ニ關シ

## 第二九三號

九日ノ國民會議本會議ニ於テ張學良主席ノ下ニ國民政府提出ノ教育施設ノ方針ヲ確定スル案ヲ討議シ委員會附託トナ

十三日ノ國民會議ハ不平等條約排除ニ關スル長文ノ對外宣言ヲ通過シ直ニ發表セルカ右内容ハ( )不平等條約ヲ締結セ

ル數十年前ト今日トハ周圍ノ事情ニ著シキ變遷アリテ國際條約ニ依ルモ此種國家ノ生存ヲ危クスル條約ハ之ヲ存在セシムル能ハス(一)不平等條約ニ關シ中國代表伍朝樞ハ嘗テ國際聯盟ニ對シ規約第十九條ノ規定ニ基キ其注意ヲ促セルモ

充分尊重セラレサリシカ民族平等ノ爲將又世界平和確保ノ爲之ヲ存續セシメ難ク(二)外國ハ常ニ中國ニ内政上ノ事實ヲ以テ不平等條約存在ノ理由トスレトモ中國内政ノ改善ハ中國自身ノコトニシテ外國ノ干涉スヘキ限リニ非ス中國ハ今

ヤ法典ノ完成及行政ノ整頓ヲ爲シ關稅自主權回復後ハ多大ナル犠牲ヲ拂ヒテ全國ノ釐金ヲ撤廢セル事例ニ徵スルモ外國側ノ言分ハ理由ナシトテ國民會議ハ全國民ヲ代表シ世界ニ對シ

一、中國國民ハ今後各國力中國ニ加フル不平等條約ニ對シ

一切承認セス

二、國民政府ハ總理ノ遺教ヲ奉シ最短期內ニ中華民國ヲシテ國際上ノ完全ナル平等ト自由ヲ實現セシムヘシ

トノ二項ヲ宣言スル旨述ヘタルモノナリ

公使ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

公使、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州、

尙新聞報道ニ依レハ國民會議重要議案ノ實行、約法實施ニ伴フ必要事項ノ準備及第四次全國代表大會召集期日決定等ノ爲メ來ル二十日ヨリ第五次中央全体會議ヲ開催スル豫定ノ趣ナリ  
公使ヨリ上海ヘ廣東ヨリ香港ヘ暗送アリタシ  
前電ノ通り轉電セリ

846 昭和6年5月22日

在吉林石射總領事より  
幣原外務大臣宛

張作相による吉林省黨部の活動狀況および今後の活動振りにつき報告

機密公第三三〇號

昭和6年5月二十二日

在吉林

總領事 石射 猪太郎〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

吉林省黨部ノ工作振及今後ノ活動振豫測ニ關シ

報告ノ件

吉林省黨部ハ南方ニ對スル義理合上之ヲ設ケサルヲ得サリ

吉林、哈爾賓、香港ヘ轉電セリ

845 昭和6年5月17日

在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

国民會議閉会式における宣言について

南京 5月17日後発

本省 5月18日前着

往電第三一二號ニ關シ

國民會議ハ十六日午後第八次會議ヲ開キ各地代表ノ提案三百件並ニ臨時動議數件(禁煙案、國民會議記念日及總理ノ銅像建設案、蔣介石及張學良ニ記念章ヲ贈ル案、蔣介石ニ對スル慰勞案、國歌ヲ制定スル迄黨歌ヲ代用スル案等)ヲ一瀉千里通過シ十七日朝閉會式ヲ舉ケ長文宣言ヲ發セル處右ハ(一)三民主義ノ實現(二)約法遵守(三)不平等條約ノ排除(四)共匪ノ剿滅(五)國民政府ノ擁護(六)經濟的建設(七)中國固有ノ王道文化ヲ復興シ之ニ泰西ノ科學ヲ補ヒ三民主義的世界ノ實現ニ努力スルコト等ヲ強調セルモノナリ

委細取纏メ郵報ス

撤廢ヲ行ヒ且間島ニ於ケル日本警察ヲ撤退セシメサルヘカラス日本人トノ經濟斷行ヲナスヘシ」トノ趣旨ノ傳單ヲ内密ニ配布セル趣ナルカスクシテ黨部ハ其存在ヲ示スト共ニ作相及省首腦者ハ自己等ニ都合ヨキ場合即チ差當リ國權回復其他對外交渉問題ニハ黨部名義ヲ利用スヘキハ明カニシテ前記黨部ノ排外宣傳ハ少クトモ省政府當局ノ了解ヲ得居ルモノト云フヘシ斯クシテ省黨部ハ次第東三省外交協會ノ如キ役目ヲナスニ至ルヘク從テ我方ニ取り大分厄介ナル

存在トナルモノト考ヘラル

最近南京國民會議ニ於ケル對外硬ノ諸般ノ決議カ新聞ヲ賑ハス一方省黨部ノ工作以上ノ通リナルヲ以テ當地ノ中國學生其他無智ナル輩ノ鼻息急ニ荒クナリ我力居留民ニ對シ不遜ノ態度ヲ示ス者モアリトノ報モアリ中國側ニ注意ヲ與フル考ナルモ空氣次第ニ惡化スルハ免レサル所ナルヘキハ憂ハシキ次第ナリ

右報告申進ス

本信寫送附先

代理公使 北平 奉天 哈爾賓 長春 齊々哈爾

間島

(付記)

支那ニ於ケル燐寸統制問題ニ對スル意見左ノ如シ

一、條約上ノ建前ハ充分之ヲ維持スルコト、即チ

(イ) 専賣制度ノ實施ハ不可ニテ之ヲ目的トスル政府機關ノ設置又ハ法律ノ制定等ニハ全然反対ナリ

(ロ) 日本人力條約上有スル輸出入及製造並ニ營業ノ自由ハ之ヲ制限又ハ壓迫スルコトヲ得ス

二、尤モ當業者(日本人ヲモ含ム)ノ自由意志ニ基キ販賣生産ニ關シ協定ヲナシ當業者限りニテ統制ヲ行フコトニ對シテハ右統制ノ實施ノ日支人ニ對スル公平ヲ期シ以テ日本人營業者ノ利益ヲ保護スルニ足ル充分ノ保障(例へハ統制機關ノ各重要地位ニ日本人ヲ入ル等)アリト認メタル場合ニハ敢テ實際上反対ノ態度ヲ取ラサルコトアルヘシ

848 昭和6年5月30日 在廣東須磨總領事代理より  
幣原外務大臣宛(電報)  
蒋介石下野後は廣東政府が中國を代表する等

の汪精衛の内話について

847 昭和6年5月25日 在長春田代領事宛(電報)  
分經理處の付屬地内設置は不可、印花貼用代行は日本商側が自發的に行う場合のみ默認方訓令  
付記 通商局第一課起案(年月日不明)  
中国における燐寸統制問題に対する意見  
本省 5月25日後8時30分発  
貴電第一九號ニ閲シ  
分經理處力專賣実施機関タル以上之力附屬地設置ハ專賣不承認ノ我方建前及附屬地行政權ノ關係上許容ノ限ニ在ラサルヲ以テ更ニ關係邦商ヲシテ便法ヲ講究セシメラレ度ク又印花貼用代行モ前記建前ニ顧ミ面白カラザルモ印花貼用力附屬地外販賣品ニ限ラレ且邦商各個ノ都合ニ依リ自發的ニ行ハルル限り右貼用ハ特ニ之ヲ阻止スルニモ及ハサルニ付右ニ依リ適宜御處置アリ度シ  
代理公使、奉天、北平、吉林、哈爾賓、赤峰、安東へ轉電シ、牛莊、齊々哈爾ヘ暗送アリ度シ  
代理公使、奉天、北平、吉林、哈爾賓、赤峰、安東へ轉電シ、牛莊、齊々哈爾ヘ暗送アリ度シ  
第一五四號  
廿九日本官汪精衛ト會見セル處汪ハ國民政府成立ノ由來ヲ述ヘ各友邦就中關係最モ密接ナル日本ヨリハ特ニ御同情アリタク今後過渡期ニ於ケル誤解等發生ノ惧アル場合ニハ本官ヨリ宜シク斡旋アリタキ旨申出アリタルヲ以テ然ルヘク應酬シ置キタリ尙汪ハ本官ノ質問ニ對シ極メテ隔意ナク左ノ通内話セリ  
一、自分等ハ南京政府ヲ蔣介石個人ノ政府ニシテ中國ヲ代表セサルモノト認メ茲ニ政府ヲ組織セリ從テ蔣下野ノ場合ニハ現在ノ廣東政府ヲ改組シテ再ヒ南京ニ遷都スル考ナリ二、對外關係ニ付テモ同様當政府ニ於テ中國ヲ代表スヘク既ニ此趣旨ヲ北平外交團宛通電ヲ發シタリ  
三、稅關鹽務處等モ自然遠カラス廣東政府ニ歸屬スヘク前年閔錫山カ天津海關ヲ差押ヘタルカ如キ「ヘマ」ヲ繰返サルヘシ  
支、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、南京、福州、  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

汕头へ轉電シ香港へ暗送セリ

~~~~~

ムヘキモ一般的^(ヨウ)の^(ヨウ)涉外關係ハ外交部ヲシテ處理セシムル
支ヨリ上海へ轉報アリタシ
筈ナリ云々

849 昭和6年5月30日 在広東須磨總領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)

広東政府の概要に関する孫科の談話について

広 東 5月30日後着 本 省

第一五五號

廿九日往訪シタル孫科ノ本官ニ對スル談話要領左ノ通

一、政府委員中唐紹儀、汪精衛、許崇智、古應芬及自分ノ五名力常務委員ニ決定セリ

二、政府ノ組織(既電)ハ目下創立早々ニテモアリ且必要ナキニ付極メテ簡單ナルモ何レ基礎固マラハ五院制度ヲ採用スルコトナルヘシ

三、南京政府ノ諸法規中合法的ニ制定セラレタルモノハ原則トシテ之ヲ承認スルモ吾人ノ意見ニ合致セサルモノ例ヘハ公債募集ニ關スル規則等ハ之ヲ認メス何レ之等ニ付テハ漸(次)必要ニ應シテ公表スル積リナリ

四、外交案件中地方的ノモノハ從來通り市長ヲシテ行ハシ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ
支、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、南京、福州、

汕头、廈門へ轉電シ香港へ暗送セリ

850 昭和6年6月(5)日 在中國矢野公使館參事官より
幣原外務大臣宛(電報)

日本朝野の空氣を張學良に報告したところ始終緊張していた旨湯爾和の内話について

北 平 本 省

第一九八號

四日湯爾和ノ江藤ニ對スル内話左ノ通

自分ハ日本ヨリ歸平後在南京學良ヨリノ招電ニ依リ直ニ入京シ學良ニ對シ日本朝野ノ學良ニ對スル空氣ハ概ネ良好ナルモ唯陸軍側ノ空氣面白カラス此儘放擲スルニ於テハ如何ナル事態ヲ惹起スルヤ計リ難キ旨報告セルカ學良ハ始終緊張シ居タリ

尙其際自分ハ種々學良ニ不利ノ謠言ヲ聞知シタルト學良ノ氣色優レサルニ氣付キ即時出發歸平方ヲ勧メタル爲學良ハ直ニ出發北歸セル次第ナリ

代理公使、奉天へ轉電セリ

851 昭和6年6月7日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

広東海關問題に關し五分稅相当以外の稅收広東側へ引渡して妥協可能との岸本情報について

上 海 6月7日後発 本 省 6月8日前着

第五〇七號(極秘)
(本電内容ハ發表セラレサル様願フ)

貴電第一九〇號(上海ニテ接到)末段海關問題ニ關シ何レ其内英米公使(佛公使ノ北上ハ往電第五〇二號ノ通)ト話合ノ機會アルヘキ處當地總稅務司署岸本ヨリ内密得タル情報左ノ通り

廣東政府成立後間モナク同政府ヨリ「メーズ」ヲ改メテ總

稅務司ニ任命スルニ付速ニ總稅務司署ヲ廣東ニ移シ各地ノ

廣東政府成立後間モナク同政府ヨリ「メーズ」ヲ改メテ總

稅務司ニ任命スルニ付速ニ總稅務司署ヲ廣東ニ移シ各地ノ

北平 発
本省 6月9日前着

第二〇三號

本官發支宛電報

第一七四號ノ一

大臣發貴代理公使宛電報第一九〇號ニ關シ
六日英米佛各公使館員ヨリ得タル情報御参考迄

(一) 英「エブリング」談

一、武器供給ニ付テハ曾テ「リーガル、エキスパート」

二付研究セルコトアルカ要スルニ他國ヨリ廣東ヘノ
輸入品力單ニ香港ヲ通過スル場合ハ其内容如何ヲ問
ハス香港政廳ニ於テ之ニ干渉スルノ餘地ナク（「バ
ルセロナ」協約）又直接輸入ノ場合ハ之ヲ如何トモ
シ難キコト勿論ナルカ只香港在荷ヲ廣東ニ送ル場合
ハ政廳ハ南京政府ノ護照ナクハ之ヲ許可セサル筈ナ
リ

二、海關ノ問題ニ付テハ萬一廣東側カ之ヲ接收セル場合

ハ英國側トシテハ昨年ノ天津海關接收ノ場合執リタ
ル態度ヲ執ルノ外ナカルヘク自分トシテハ南京側カ
シ難キコト勿論ナルカ只香港在荷ヲ廣東ニ送ル場合
ハ政廳ハ南京政府ノ護照ナクハ之ヲ許可セサル筈ナ
リ

本官發在支公使宛電報第一七四號ノ二

一、海關ニ付テハ何等力昨年ノ如キ辨法ヲ設ケテ事實上ノ
解決ヲ得ルノ外ナカルヘク關係國側ニ於テ武力ヲ用ヒ
テ廣東側ノ接收ヲ阻止スル如キコトハ想像シ得ス

(二) 佛「シャイエ」談（公使ハ十日歸平ノ筈）

廣東 6月10日後発
本省 6月10日後着

第一九七號

往電第一九六號(二)ニ關シ

九日領事團會議開催先ツ本官ヨリ中國側今回ノ通告ハ單ニ
威嚇的ノモノトハ考フルモ萬一天津事件ノ如キ事態ヲ再發
センカ中國側ニ面白カラサル感情ヲ釀成スル次第ナルニ付
豫メスル事態ノ發生ヲ防ク爲領事團ヨリ若ハ各國別ニ中國
側ニ對シ非公式ニ本件穩當措置方希望ヲ申入レテハ如何ト
提議シタルニ英國總領事ハ領事團代表トシテ首席領事ヨリ
口頭ヲ以テ右希望申入レ方可然ト贊成セルモ各國領事中ニ
ハ右ニ付テハ尙本國ニ請訓スル必要アリトテ俄カニ贊同セ
サル向モアリ又利害關係モ少キ爲唯見送リタシトナス向モ
アリタルニ付結局(一)各國別ニ序ノ節中國側ニ右様希望ヲ申
入ルル事及(二)萬一ノ場合ニ處スル措置方ニ關シテハ本官及
英國總領事「フイリップス」ニ於テ協議方ヲ委任スルコト
ニ決定セリ

853 昭和6年6月10日 在廣東須磨總領事代理より
(電報)
常原外務大臣宛

廣東海關接収通告に關し領事團會議開催本件
穩當措置方各國別に申入れなど決定について

賢明ニシテ廣東側ト妥協シ廣東ニ於ケル海關收入中
内外債ノ擔保ニ對スル廣東ノ「クオータ」ヲ差引キ
殘額ヲ廣東側ニ與フルコトセハ問題解決シ二重課
稅問題モ起ラサルヘキカト思考ス要スルニ英國側ト
シテハ海關ノ統一保持セラレニ重課稅問題起ラサル
限り之ニ關與スルノ必要ナカルヘシ

(三) 米「バーキンス」談

一、武器ノ點ニ付テハ米國政府ハ正當手續ナクハ廣東側
ニ對スル輸出ヲ許可セサルヘシ只在華盛頓伍駐米公
使ハ廣東人ニシテ今般廣東側ヨリ其歸國ヲ促ス電報
ヲ受ケ居ル模様ナルカ（此點極秘）萬々一同人力本
件ニ付廣東側ノ爲何等カ盡力ヲ爲スコトアル場合ニ
モ南京政府ノミヲ認ムル限り米國政府ハ決シテ之ニ
聽カサルヘシ

本官發在支公使宛電報第一七四號ノ二

一、海關ニ付テハ何等力昨年ノ如キ辨法ヲ設ケテ事實上ノ
解決ヲ得ルノ外ナカルヘク關係國側ニ於テ武力ヲ用ヒ
テ廣東側ノ接收ヲ阻止スル如キコトハ想像シ得ス

(三) 佛「シャイエ」談（公使ハ十日歸平ノ筈）

汕頭へ轉電シ、香港へ暗送セリ

854 昭和6年6月10日 在広東須磨總領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)

広東政府による總稅務司新設または海關収入

全部接收の場合列国外交団共同で対応の旨英

國總領事に申入れについて

広 東 6月10日後発
本 省 6月10日後着

第二〇〇號

一、十日英國總領事本官ヲ來訪シ四五日前九龍稅關長「ステイブンソン」同總領事ヲ訪問シタル際先般來當地國民政府ヨリ再三總稅務司就任方交渉アリタルモ斷然拒絕シ來リタリト語リタル旨内話シタリ

二、依テ本官ヨリ當地新政府カ總稅務司ヲ新設スルカ當地海關收入全部ヲ接收スルカニ途何レカヲ取ル場合ニハ列國トシテハ之ヲ看過スヘカラサル重大問題ナルヲ以テ叛徒政府タル新政府ハ暫ク措キ當地市政府ニ對シテ嚴重抗議スルト共ニ一方北平外交團ニ對シ本件措置方ニ關シ列國共同ノ

歩調ヲ取ル様稟請シテハ如何ト謀リタル處同總領事モ至極贊成ナルニ付在華同國公使ニ對シ右本官提議ノ趣旨ニ關シ請訓スヘント答ヘタリ

就テハ右様ノ場合ニハ右ノ含ミニテ措置シ差支ナキヤ折返シ御回訓ヲ請フ

代理公使ヨリ上海へ轉報シ北平ヨリ天津へ轉電アリタシ支、北平、漢口、南京、汕頭へ轉電セリ

855 昭和6年6月10日 在広東須磨總領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)

広東海關接收の場合には天津の場合と同様日
本船の出入手続は總領事館で行うなど対応策
を英國總領事に提示について

広 東 6月10日後発
本 省 6月11日前着

第二〇三號(問合中遲延)

往電第一九五號ニ關シ
往電第一九七號末段ノ趣旨ニ從ヒ十日英國總領事來訪シ對策協議ノ際本官ヨリ萬一ノ場合ニ處スヘキ試案

一、愈當地新政府ニ於テ當地海關ヲ接收スルコトナリ事實上一時海關カ閉鎖セラルル場合ニハ客年天津海關接收ニ際シ同地日英總領事間ニ協議セル五項(客年天津發閣下宛電報第二三五號一ノ二ニ依リ處理スルコト)能率ヲ害シ爲ニ當事者ニ對シ多大ノ損害ヲ及ホスヘキ危險アルカ如キ場合ニハ海關側ト打合セヲ遂ケ左ノ對案ヲ講スルコト

(一)日本船ノ出入港手續ハ當館ニ於テ之ヲ行フ

(二)稅關ニ提出スヘキ通關申請書ノ寫一部ヲ當館ニ提出セシムルコト

(三)稅關ニテ發行スル duty memo ハ稅關ヨリ直接當館ニ送付セシムルコト

(四)當館ニ於テ右 duty memo ノ送付ヲ受ケタルトキハ直ニ申請人ニ通告スルコト

(五)課稅相當額(「ゴールド、ユニット」ニ對シ銀行ノ支拂保證済小切手又ハ bank cashier order 或ハ保證狀ヲ當館ニ提出シタル後 delivery order 又ハ shipping order ニ對シ當館ヨリ通關許可證ヲ受クヘシ

リ

編注 「ル」の後に「モ」との書き込みあり。

856 昭和6年6月11日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

広東政府による關稅抑留につき南京政府は叛徒の行動として黙視する意向岸本より内話について

三、將又本件措置振ニ関シ必要ノ場合北平外交團ニ稟請ス
ルコトハ別ニ差支ナキニ付右ニ御含アリタシ
冒頭貴電ト共ニ福州、廈門、ニ轉電シ香港ヘ暗送アリタシ
代理公使ヨリ漢口、汕頭ニ轉電シ上海、南京ニ轉報アリタシ
支、北平、天津ニ轉電シ冒頭貴電ト共ニ奉天、青島ニ轉電
シ

シ
事實上於任スル外ナカルヘキノミナラヌ寧ロ廣東側ヲシテ此ノ上事態ヲ荒ラケシメサル様努ムルコト肝要ナルヘ就テハ右ノ次第御含ノ上廣東側ニ於テ在支代理公使發本大臣宛電報第五二〇號ノ程度ニテ満足スル様内密ニ仕向クルト共ニ萬一總稅務司ヲ新設スルカ又ハ五分稅ノ分迄ヲモ押収スルカ如キ場合ニハ嚴重抗議セラレ度尚本件抗議ハ事柄ノ性質ニ鑑ミ地方實權者ト事實上交渉スル建前ニテ新政府ニ申入ルルコト適當ト思考スルモ右申入ハ成ルヘク口頭ヲ以テスルコトトシ若シ文書ニ依ルユトヲ要スル場合ニハ其ノ文体、宛先ノ官氏名等ニ付苟モ新政府ニ承認ヲ與フルカ如キ誤解ヲ生セシメサル様充分御注意アリタシ

2

する宋子文の談話について
上
毎
6月3日

858
昭和6年6月13日
在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

上海 6月13日後発
本省 6月13日後着

要スル場合ニハ其ノ文体、宛先ノ官氏名等ニ付苟モ新政
府ニ承認ヲ與フルカ如キ誤解ヲ生セシメサル様充分御注
意アリタシ

代理公使ヨリ漢口、汕頭ニ轉電シ上海、南京ニ轉報アリタ
シ

第五二〇號

十日岸本ノ堀内ニ對スル内話ニ依レハ南京政府ニ於テハ冒頭電報後段ノ妥協案ニ對シ廣東政府ハ叛徒ナレハ之ト力カル協定ヲナスハ不可ナリ若シ廣東側方勝手ニ五分税丈ヲ送

第三〇號（暗、至急）

廣東政府による總稅務司新設には反対し五分税以外の關稅接収は默認の方向で対応方訓令

上海 6月11日後発
本省 6月11日後着

幣原外務大臣より
在廣東須磨總領事代理宛（電報）

付シ殘餘ヲ抑留スルナラハ致シ方ナク又假令全部ノ稅收ヲ

一、我方ノ重要視スル所ハ海關制度ノ統一保持ニアルヲ以

「アレンジメント」モセス先方ノ爲スニ委ストノ方針ナル
ハ廣東側ニ於テハ實際外債ノ「サービス」ニ必要ナル部分
ノミヲ南京ニ送リ殘餘ヲ抑留スルコトトシタントノ考へナ
ルカ如ク南京側ノ方針右ノ如クナル以上之モ仕方ナカルヘ
シトノ事ナリ

尙以上ハ南京側内部ノ決定ニ止マリ外部ニハ一切發表セサル事トシ居ル由ニ付御含置アリタシ

編注 「徒」の後に「ト」との書き込みあり。

編注 「徒」の後に「ト」との書き込みあり。

、我方ノ重要税スル所ハ海關制度ノ統一保持ニアルヲ以テ今日ノ政局關係ニ於テ廣東側力独立ノ總稅務司ヲ新設スルコトニハ絶對ニ反對セサルヲ得ス又閔稅收入ニ付テハ五分稅ノ外債担保タルハ勿論五分稅以外ノ分モ九六公債、山東國庫券等所謂閔餘借款ノ担保トナリ居ル譯ナルヲ以テ閔稅收入全部ヲ押収スル場合ハ言フ迄モ無ク單ニ五分稅以外ヲ押収スル場合ニモ理論上ハ之ヲ承認シ得サル筋合ナリト雖右五分稅以外ノ分ハ從來事實上国民政府ノ内債「サービス」及政費等ニ流用セラレ居ル次第ニモアリ又今次ノ南京対廣東ノ關係ハ客年ノ北方政府ノ場合

広東政府による総税務司新設には反対し五分税以外の関税接收は黙認の方向で対応方訓令

902

859 昭和6年6月16日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）

廣東側の覺醒を希望するとの吳稚暉の中央政府全体会議閉会の辞について

南京 6月16日後発 本省 6月16日後着

往電第三七六號ニ關シ

民政府主席蔣介石、政府委員四十人（胡漢民、李濟深ヲ含ム）五院々長副院長（考試院副院長代理劉盧隱ノ外從來通）

陸海空軍副司令張學良ノ任命ヲ決定シタル後吳稚暉（雅暉）ハ閉會ノ辭ニ於テ時局問題ニ言及シ（廣東ト指示セス）本會議ニ於テハ未タ討伐令ノ公布ヲ爲サス政治的解決ヲ主張シ居ル所以ハ中央カ和平ヲ趣旨トシテ彼等ノ覺醒ヲ希望スルト共ニ先ツ赤匪ノ剿滅ヲ期シテ反動分子等ヲシテ乘スルノ機會無カラシメ其自然消滅ヲ促スニアル旨ヲ説キ居レリ尙十五日附ヲ以テ民政府組織法ヲ公布セリ

尙又蔣介石ノ出發ハ一兩日延期セラレタル由

右不取敢

代理公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

代理公使、北平、天津、奉天、青島、濟南、漢口、廣東ヘ

轉電セリ

860 昭和6年6月22日 在米國出淵大使宛（電報）

中ソ交渉は中東鐵道買収問題の討議を避け管理問題に關し討議など同交渉成行きにつき通報

本省 6月22日後6時15分発

第一〇一號（暗）

「ソ」支會議其後ノ成行ニ關シ胡世澤ノ談ニ依レハ今會議ハ一般問題主トシテ東支買収問題ヲ討議シタルカ支那側ノ提案ト「ソ」側対案トノ間ニ非常ナル縣隔アルカ為交渉捲々シカラサル趣又「カラハン」ノ内話ニ據レハ「ソ」側ニ於テハ本問題ニ付テハ既ニ北京條約ニ依リ主義上同意ヲ與ヘ居ルコトニモアリ特ニ論議ノ要ナントシテ成ル可ク討議ヲ避ケ東支當面ノ問題ニ付意見ヲ交換セントスルモノノ如ク十七日江華本カ在南京上村領事ニ語リタル所ニ依レハ前回

ノ會議ニ於テ「ソ」側ハ買収問題ノ急速解決ハ困難ナルニ付其ノ討議ヲ繼續スルト同時ニ東支管理問題ニ關シ話合ヲ進ムルコトトシ先ツ一九二四年ノ東支暫行管理協定第三条ニ依リ理事會力管理局長及副管理局長ノ職權ヲ定ムルコトハ困難ナルニ鑑ミ「ソ」支會議ニ於テ右權限ニ關スル具体的談合ヲ開始シ度キ旨申出テタル趣ナリ

尚東支買收ニ關聯シ中國側カ「ソ」側ニ對シ閔稅上ノ特典ヲ許與シタルヤノ風說ニ付テハ今日迄ノ所江華本及胡世澤等支那側要人ハ之ヲ否認シ居レリ

佛二轉電シ在欧各大使（露ヲ除ク）ニ暗送セシメラレ度シ

~~~~~

861 昭和6年6月23日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛

吉林學生の氣風に關する峯旗滿鐵囑託の報告

機密第五二二號

（6月30日接受）

昭和六年六月二十三日

在奉天

總領事 林 久治郎〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

侃諤ノ論ヲ爲シテ容易二人ニ下ラス支那内地ノ一般人ト餘

吉林學生近來ノ氣風ニ關スル峯旗滿鐵囑託報告ニ關スル件  
本件ニ關シ峯旗滿鐵囑託ヨリ別紙寫ノ通り報告ニ接セリ、何等御參考迄送付ス  
本信寫送附先 吉林  
奉天總領事殿  
吉林縣主催學校聯合運動會ヲ通シテ見タル吉林學生ノ近來氣風ニ就テ  
峯旗囑託

吉林ハ從來三省中最モ教育盛ナリシ所ニシテ從ツテ人物ノ輩出少カラス中央政府其他各省要路ノ官吏中ニ當省出身者ニシテ重要ノ位置ヲ占メシ者甚タ多シ、人文地理的ニ之ヲ論スレハ山紫水明ノ自然ノ感化ヲ受ケシモノ力性質剛健敦朴ニシテ眞面目然カモ意志相當強ク往々氣ヲ負フテ立ツノ概アリ、

程趣キヲ異ニシ寧ロ日本ノ東北人ニ近キ趣アリタリ、然シテ本省人ノ省外ニアルヤ往々ニシテ其仲間ノリーダートナル、天津南開大學長張伯嶺氏力予ニ言ヒシコトアリ、吉林出身ノ學生ハ予ノ學校ニモ修學セルカ人數少キモ善ク學ヒリードスルニ足ル人物多シ此點各地方ニ學フ學生モ大体ニ於テ同様ナル傾向アリ、奉天人カ三省統一ニ當リ尤モ恐レヲ爲シシハ吉林人ニシテ爾後專ラ吉林人ヲ去精シ壓迫スルコトニ努力セリ、質朴ナルト共ニ陰險ノ度少ナク正直ナル丈心裡複雜ナラス遂ニ奉天人ノ術中ニ陷リテ殆ント去精サルルニ至リ全ク奉天人ノ節度ノ許ニ其苛廉<sup>厳</sup>謀求ニ泣キ乍ラ反抗スル能ハス從來ヲ知ルモノヲシテ其不甲斐ナキニ憤ラシムルノ狀態迄墮落スルニ至レリ

民國初年巡撫陳昭常（廣東人）ニ非違アリシトテ之ヲ彈劾シ將ニ之ヲ逮捕セントセシ時ノ如キ其氣慨ノ盛ナル人ヲシテ驚歎セシメタリ、其當時青年者流ノ省外ニ活躍スル者多ク世人ヲシテ賴母數思ハシメシカ其後ニ至リ漸次意氣消沈、氣風又墮落シ今後ノ青年ハ到底先人ノ行縱ヲ挽回ス可ラスト思ハシメ先輩父老ヲシテ悲觀ヲ抱カシメタリシカ近來ハ

ノ將來ヲ見ル人ノ見遁ス能ハサル處トス

以上ノ如キ狀態ハ各個ニ之ヲ觀察スル場合モ之ヲ看取シ得可キモ團體衆合セル場合例ヘハ運動會等ノ場合ニ於テ之ヲ觀取スルニ尤モ便ナリ吉林學校運動會ハ十數年前予力吉林省教育顧問トシテ在職中開始シタルモノナルカ其當時ハ教育家及生徒モ殆ント之ヲ遊戲視シ唯集リテ騒クコトニノミ興味ヲ有スルノミニシテ之ヲ以テ精神教育ニ資スル如キ態度ヤ風潮ハ全ク此ヲ認ムルヲ得サリシ狀態ナリキ然ル二十余年後ヲ經タル今日ニ於テハ如何、勿論一般的ニ勃興スルスポーツ熱ノ感化ヲ受ケシトハ言ヘ之ヲ從前ニ比シテ大ニ異ナルモノアリ五月廿一、二兩日吉林縣教育局主催縣下各學校聯合第一回運動會ヲ公衆運動場ニ開催セリ予ハ顧問役トシテ招カレテ參列シタルカ會スルモノ（三字分アキ）一中學三十六個ノ小學校全部ニシテ縣主催トシテハ第一回ナリシニ係ラス準備割合ニ整頓セル外各種各校對抗競技、團體競技、嚴守セルコト、團體的訓練ノ善ク行届ケルコト、場内狹隘ニシテ學生觀衆ノ殺到セルニ係ラス二日間ニ渡リテ何等紛

ニ至レリ、尤モ支那全國ニ涉ル新興氣分ノ思潮ノ支配ヲ受ケシ結果ト見ル可ク就中學校教育ニ於テ之カ刺戟ヲ與フル教材トシテハ不平等條約、治外法權ノ存在、世界ノ現勢ヨリ見タル支那ノ劣弱、古來ノ支那文明ノ回顧特ニ地方のニ日本ノ侵略ニ對抗等ヲ以テシ從來ノ如キ浮調子ノ行動ヲ避ケテ讀書求國ヲ以テモツトトン眞面目ニ將來自國ノ興廢ヲ決スル責ハ自分等ノ兩肩ニ負ヘリトノ自覺ヲ爲スヘク教育サレ居リ隨ツテ學校ノ施設等ハ完備セサルモ精神的ニ之ヲ補フ可ク意氣盛ナルモノアリ、小學校四年程度ノ生徒ニ今後支那ノ進ムヘキ道、國民ノ爲ス可キ責務等ニツイテ質問スレハ必ス一致シテ對外平等、政治ノ改正、產業ノ振興ニツイテ明確ニ答辦ス、若シ夫レ高等小學校程度（日本ノ尋常六年程度）ノ生徒ニ於テハ公開ノ席上堂々トシテ其所思ヲ演説シ得可シ奉天人カ吉林ヲ以テ自己ノ殖民地ト見做シ膏血ヲ絞ル可ク文武ノ全官吏ハ鄉間ノ一警察分署ニ至ル迄奉天人ヲ以テ占有シ居ルニ拘ラス教育方面丈ハ教育廳長ヨリ以下教育行政方面ハ勿論教化ノ實際方面ニ至ル迄全ク一指モ染メ得スシテ全部吉林人ヲ以テ當リ居ルカ如キハ吉林

擾ヲ來ササリシ等ハ大ニ觀ル可キモノアリタリ、特ニ開會式ノ際ノ如キ全員脫帽起立、國旗掲揚、國歌、國旗、黨旗ニ對スル敬禮、孫總理遺像ニ對スル敬禮、遺囑朗讀、默祈、万歳、選手場内一周ノ順序ニ於テ之ヲ行ヒシカ其間ニ於ケル全員ノ眞面目ニシテ敬虔ナル態度ハ人ヲシテ襟ヲ正サシムルニ足ルモノアリ、其他縣立中學、縣立模範學校ノボイスカウトノ場内整理、童子軍ノミノ分列式及國旗掲揚式ノ如キ其ノ嚴肅ニ於テ感嘆擋ク能ハサルモノアリ、從前ヲ知レル予トシテハ其ノ變化ノ甚シキニ驚キタリ

支那ノ國情タル社會性ノ複雜ナルヲ以テ一部學生ノミヲ以テ全体ヲトス可ラサルハ固ヨリナリト雖モ將來國民ノ中心トナル可キ學子ノ狀況ハ其ノ未來ノ進ム可キ道ヲ暗示セルモノト見ル可ク我ニ其國ノ青年ヲ見セヨ、其國ノ將來ヲトセント云フ格言ヲシテ眞ナラシメハ吉林現在學生界ノ風氣ヲ以テ未來ノ吉林ヲ豫想スルニ足ルヘン

邦人ノ多クハ支那一部政客官界ノ腐敗墮落ヲ見テ爲スアルニ足ラストシテ之ヲ輕侮シ自ラハ先進國ノ如ク自負シ優勝者ノ如ク已戀レ何等對者ノ進歩ニ就テ考ヘス油斷シツツアル間ニ對者ノ變化ハ眞ニ驚異スヘキモノアリ三省ヲ要スル

所以トス、即チ之ニ近キ其進歩ト變化トヲ知リ法ヲ設ケテ  
亞細亞民族興隆ノ爲ニ興起スヘキ大義ヲ互ニ諒解シ手ヲ携  
ヘテ光明ニ向フヘク勉ムルニ非サレハ現在青年ノ胸中ニ植  
付ケラレントスル反日思想ノ種子ハ近キ將來ニ開華結實シ  
日支兩國民ノ非常ナル不幸ヲ將來スヘシ

以上  
~~~~~

862 昭和6年6月25日 在広東須磨總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

廣東側の武器徵達に關し各國商人との売買状

況につき調査報告

廣 東 6月25日後発
本 省 6月25日後着

* 第二三六号（至急）
貴電第三四号ニ関シ

一、往電第一八八號ニ依リ既ニ御了悉ノ通當市各國領事官
憲ハ各自本件取引ハ絕對ニ秘密ニ附シ居リ現ニ二十五日本
官ヲ來訪セル北平米國公使館附武官ノ如キモ廣東側ハ一体
武器彈藥ノ補給ハ如何ニスル積リナラント空呆ケタル質問
ヲ為シ居ル次第ナレハ到底外國側ヨリ責任アル消息ヲ得ル

コト困難ナルヲ以テ山田ヲシテ当地軍部當局ノ保管ニ係ル
各國商人トノ賣買契約書及往復文書等ヲ閱覽ノ上必要部分
ヲ摘錄セシメタル處左ノ通

二、(イ)米國側

當地米商「アンダーソン、マイヤー」ハ飛行機十六臺ヲ
臺米貨二萬五千弗ノ價格ヲ以テ一ヶ月以内ニ積出ス契約ヲ
五月二十九日附締結セリ又先般來當地ニ乗込メル武器「ブ
ローカー」

ナルモノヲ仲介トシテ米國商人（會社名不明）ヨリ機関銃
四百挺ヲ二ヶ月半内廣東渡ヲ以テ六月三日附契約ヲ締結セ
リ

(ロ)英國側

「ジャーデン、マテソン」ハ小銃四千挺ヲ附屬品ヲ除キ實
彈百發付ニテ一挺ニ付香港貨百十九弗ノ價格ヲ以テ四十五
日（内）廣東引渡ニテ六月二日契約ヲ締結セリ

(ハ)佛國側

ハ中古小銃四千挺ヲ一挺ニ付香港貨六十二弗及中古
機関銃百挺ヲ一挺ニ付香港貨三千二百弗ノ價格ヲ以テ一ヶ月
半（内）廣東渡シヲ以テ夫々六月一日附契約ヲ締結セリ

(二)目下廣西軍ト獨逸商（三字分アキ）間ニ小銃一萬挺機関銃三
百挺拳銃五百挺ノ賣買交渉中ニシテ同シク獨逸商（五字分アキ）
ハ廣東軍當局ト廢銃ニ關シ五百萬乃至千萬元位ノ買物ナ
ラハ一割五分ヲ手付金トシテ前渡シ残餘價格ハ百萬元宛年
賦償ノ條件ヲ以テ目下交渉中ナル趣ナリ

863 昭和6年7月2日 在ハルビン大橋總領事より
幣原外務大臣宛
日本小学校投石事件に關し中國側警察に警戒
方要求について

機密第七五八號

昭和六年七月二日

在哈爾賓

總領事 大橋 忠一

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

當地日本小學校投石被害事件ニ關スル件

六月二十六日夜當地日本小學校ニ投石シ同校階上及階下六

ヶ所ノ窓硝子一枚ヲ破壊セル者アル處當館警察ニ於テハ

同校ヨリノ届出ニ依リ即時警官ヲ派シ現場ノ見分ヲナンシ中

國人ノ排日思想ニ出テタル惡戲ト認メラレタルニヨリ同所
ヲ管轄スル中國側第二署ヲ往訪シ現場ノ立會檢證及犯人檢
舉並將來ノ警戒ヲ要求セシメタルカ同署ニ於テモ其要求ヲ
容レ其翌晚ヨリ私服巡警ヲ配置シ犯人ノ檢舉及警戒ニ任ス
ルコトト爲リタル趣ナリ尙五月二十二日登校中ノ我力小學
校生徒ニ暴行ヲ加ヘタル中國學生アル旨當館警察署ヨリ報
告ニ接シタルヲ以テ本官ハ時局柄是等事件ニ付中國側ノ注
意ヲ喚起シ十分警戒ヲ與ヘ置ク必要アリト認メ別紙寫ノ通
リ特派員宛公文ヲ以テ警告旁々犯人ノ嚴重處罰ヲ要求シ置
キタリ

右報告申進ス

本信寫送付先

在中華民國公使 在北平首席

在奉天 上海 吉林各總領事

在南京 長春 齊々哈爾 滿洲里各領事

864 昭和6年7月3日 中谷閔東序警務局長より
永井外務次官他宛

奉天票下落の原因および影響について

關機高第六〇六三號

(7月8日接受)

昭和六年七月三日

關東廳警務局長

拓務次官殿
内閣書記官長殿
外務次官殿
哈爾賓、吉林各總領事殿
滿鐵資料課長殿
在支各事務官殿
奉天票ノ暴落

一、奉天票ノ暴落ト其ノ原因

奉天票相場ハ最近官定ノ對現大洋比價六十元ヲ破り日々二元三元ト低落ヲ續ケ來タレル處六月二十七日ニ到リ俄然七十二元ニ暴落シ二十九日ニハ更ニ八十八元、九十九元甚シキハ百元ニ暴落シ其ノ停止スル處ヲ知ラス奉天城内及附屬地ノ各兩替店ハ殆ト奉天票ノ兩替ヲ爲サス一般商店モ奉天票ノ授受ヲ喜ハス無理ニ之ヲ渡タサントセハ右ノ如キ相場ヲ要求シ奉天票ニヨリ生活スル一般下層民ハ一時ニ動搖ヲ來タシ各方面ニ怨嗟ノ聲アリ

二、官憲ノ奉票維持策

省政府ニ於テハ奉票ノ暴落ニヨリ物價一時ニ昂騰シ人心動搖セントスルニ鑑ミ二十八日夕刻ヨリ省會公安局ノ私服巡警ヲ各所ニ派シテ嚴重取締ルト共ニ二十九日緊急令ヲ發シ官銀號ヲシテ奉票六十一元ヲ以テ現洋一元トシ一齊ニ兌換ニ應セシメ一方農鑛廳ヨリ商會ニ對シ一切ノ取引上奉票ノ比價ヲ低落セシムヘカラサル旨訓令シ之ヲ一般商民ニ通告セシメ若シ違背シタル時ハ金融紊亂罪ニ問フヘシト嚴命シタル爲メ二十九日午后

2官銀號カ最近三四千萬元ノ奉票ヲ發行スルノ噂アル

一方最近奉票ヲ以テスル爲替ノ取組ニ應セサリシコト

1張學良ノ死亡說有力トナリ死亡後ノ後任者ニ關シ新舊兩派ノ確執ヲ生シ引テ内亂ヲ惹起スルノ恐レアル

コト

三、邦商側ニ及ホス影響

現在邦人對支那人トノ取引ハ現大洋若干ハ金建トナリ居ル爲メ邦人ニハ格別影響ヲ認メサルモ之等ノ爲メ一時現大洋票ト現大洋ノ開キ十五元ヲ生スルニ至リ大洋

票所持ノ邦商及賣掛金ノ回収ニ多少ノ手違ヲ生シタルモノアル模様ナリト云フカ漸次奉天票モ舊ニ復シツツアル狀況ナルヲ以テ自然現大洋ト大洋票ノ開キナキニ至ルヘシトテ此ノ杞憂一掃セラレツツアリ

以上

現在邦人對支那人トノ取引ハ現大洋若干ハ金建トナリ居ル爲メ邦人ニハ格別影響ヲ認メサルモ之等ノ爲メ一時現大洋票ト現大洋ノ開キ十五元ヲ生スルニ至リ大洋票所持ノ邦商及賣掛金ノ回収ニ多少ノ手違ヲ生シタルモノアル模様ナリト云フカ漸次奉天票モ舊ニ復シツツアル狀況ナルヲ以テ自然現大洋ト大洋票ノ開キナキニ至ルヘシトテ此ノ杞憂一掃セラレツツアリ

(別紙)

大豆植付制限ニ關スル件

吉林省政府ニ於テハ政務委員會ヨリ本件ニ關スル再度詳細ナル取扱辦法ニ接シタルヲ以テ六月上旬別紙ノ如キ訓令ヲ農鑛廳ヲ經テ省内各縣長ニ送達スル處有之候就テハ近來豆價大暴落等ニ依リ大豆植付制限ニ對シ東三省當局力相當研究ヲ爲シツツアリトモ思料セラルルカ又一面官銀行ノ豆價吊上ケノ苦肉策ナラスヤトモ想察セラレ今後ノ成行注目被致候右情報迄得貴意候

865

菅原東洋拓殖株式会社總裁より

大豆植付制限に関する吉林省政務農鉄廳の訓

命について

昭和6年7月4日

菅原東洋拓殖株式会社總裁より

各縣縣長ニ令ス

吉林省府農鑛廳訓令 字第四二三號

東洋拓殖株式會社總裁

菅原 通敬

願申上タル處貴會指令行字第一九一三號ヲ以テ御回答ノ

昨秋來大豆ノ販路澁滯ニ因リ三省農商ハ交々困阨ヲ受ケタリ該號總會辨策ノ請願スル所ノ農產ヲ改良シテ三省經濟ヲ調節セントスル各節ハ根本切要ノ計ニシテ嘉許スヘキナリ本會ヨリ遼、吉、黑三省政府ニ對シ農鑛廳ヲシテ各縣ニ通令シ農會ニ命シテ適當ノ穀物ヲ研究セシメ以テ民生ヲ厚クスル様通達スヘントノ旨拜承セリ貴會カ民生ヲ關心セラル事草木ニ及フ至意欣幸ノ至リニ堪ヘサルナリ、小職等更ニ思考縷陳セント欲スルハ農產ノ改良ハ要ハ人民ノ力行鄉民ノ成規ノ墨守ニアリテ官府ノ倡導ノミニテハ改良ヲ期シ難キヲ以テ進行ヲ促サントセハ人民ト尤モ接近スル縣廳ニ倚頼スルノ外ナキヲ以テ縣廳ハ責任ヲ以テ勘查ノ標準トナル報告書ヲ作成スルヲ要ス本年ノ播種期ハ目焦ノ間ニ迫レルヲ以テ各縣政府ヨリ大豆生産過剩ノ理由ヲ農民ニ布告曉諭スル一方士紳ヲ召集シテ農產改良ノ宗旨ヲ宣布シ各區村長ヲシテ各々其區村内ノ耕地面積及ヒ從來大豆ヲ植付タル地積並ニ其地質ノ肥瘠、播種ヨリ收穫迄ノ氣象經過、肥料ノ種類、使用ノ多寡、收穫量等ヲ正確ニ調査シテ一定期限ニ縣政府ヨリ詳細ナ

ル第一次報告ヲ爲サシメ前項報告ニ依リテ農會及農業ノ智識經驗ニ富メル士民ヲ召集シテ該大豆植付土地ノ内他ノ農產ニ改作スヘキ比例ヲ定メ、例ヘハ長春以北ハ從來十分ノ六ヲ大豆トスレハ十分ノ三ニ改メ他ノ十分ノ三ハ小麥ニ十分ノ二ハ油糧（大麻子、小麻子、芝麻、蘇子等ノ如キ）ニ十分ノ二ハ雜穀トスルカ如ク其他特殊ノ事情アル者ハ其土地ニ因リテ應變スヘク種子ハ急需ニ應スル爲差當リ農會又ハ地方農民ニ自ラ良種ヲ選擇セシメ一面各省政府ハ農鑛廳、省農會及農科學校試驗場等ヲシテ實地ニ就キ共同研究セシメテ良種ヲ分布セシム例ヘハ大豆ハ公主領農事試驗場產ノ四粒黃豆最良種ニシテ永吉、長春雙城縣等ニ試作ノ結果他種ニ比シ收穫倍スト聞クヲ以テ各縣モ之ニ彷彿ヘク其他試驗ヲ行ヒ良種ヲ得ヘシ播種期ニハ適當ノ吏員ヲ各鄉ニ派遣シテ監督スルヲ要ス然シテ既ニ其ノ優良種ナルヲ認メナハ一律ニ使用ヲ勸告又ハ強制シ播種後ハ各區村ニ於ケル從來大豆植付地積ノ内改作シタル面積及種類、並ニ何レヨリ得タル種子ナルカ等ヲ逐一調查シテ農會ヨリ縣政府ヲ經テ詳細ナル第二次報告ヲ爲サシメ收穫期ニ至ラハ輸出スル農產品ハ如何ニ精

選シ如何ニ貯藏シテ變質ヲ避クヘキカニ就テ農會又ハ特別專員ヲ派遣シテ言語又ハ文字ニテ宣傳シ收穫後ハ各區村ニ於ケル從來大豆植付地ニシテ他種農產品ニ改作シタル面積及從來使用シタル種子ト新タニ使用シタル種子トノ收穫比較、施用肥量、生育期ニ於ケル氣象並ニ其他特別關係ノ有無等ヲ各農會戶ヲシテ區村長ヲ經テ農會ニ報告セシメ農會ハ之ニ依リ且ツ實地二人ヲ派遣シテ勘查ノ上縣政府ヲ經テ第三次報告ヲ爲サシメ報告書内ノ地名數字及説明ハ省政府ヨリ隨時吏員ヲ派遣シテ正確ナルヤ否ヤヲ検査シテ其成績ヲ定メルコトニセハ前後ノ報告ヲ綜合スル時ハ一縣ノ農業狀況ヲ明カニシテ改善又ハ擴張ノ計劃ヲ樹テ得ヘク然ラサルニ於テハ一片ノ布告ハ空文ニ終リ改良セントスルモ普及ヲ期シ難シ吾國ハ農ヲ以テ國ヲ立テ農業ノ盛衰ハ即チ全國富力ノ消長ニ關リ農村經濟ハ自己ノ成績ニ關係スル所ナレハ報告ニ重ヲ置キテ賞罰ヲ勵行スル時ハ誠心事ニ任スル人ヲ得ルニ難カラス自ラ農產改良ノ效果ヲ收メ得ヘシ管見ノ及フ所文書ヲ以テ鑑

編注 「筋」の箇所に「飴？」との書き込みあり。

吉林農鑛廳長 馬德恩

中華民國二十年六月 日

永井外務次官より
谷亞細亞局長
堀切拓務次官
小磯（国昭）陸軍省軍務局長宛

（琿春分館並大拉子分署長報告）
本件ニ關シ最近謀知シ得タル處左記ノ通御参考迄
記

宇垣新任朝鮮総督の統治声明並び日本の対東北

政策根本方針内査に関する中國側の密令について

亞二機密合第二三二一號

昭和六年七月二十四日

永井次官 谷亞細亞局長

小磯陸軍省軍務局長

中國側ノ對日訓令ニ關スル件

別紙御参考迄ニ送付ス

（別紙）

機密第七五〇號

昭和六年七月七日

在間島

總領事 岡田 兼一

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

中國側ノ對日訓令ニ關スル件

中華民國二十年六月十八日

省政府ノ秘密訓電ヲ奉スルニ宇垣新任朝鮮總督ハ其ノ赴任ニ際シ朝鮮統治ニ關シテ内田新任滿鐵總裁ト連絡協調シ之解決及大陸政策ニ關シテ内田新任滿鐵總裁ト連絡協調シ之遂行ヲ期スル旨ヲ說キ且ツ幣原外相ハ對華政策ヲ滿蒙中心主義ニ轉換シ銳意其ノ實現ニ努力中ナリト、前者後者共新聞紙上ノ報道ナリト雖モ苟モ該國機關紙ノ報シタルモノナルヲ以テ彼ノ政策ノ一端ヲ窺フニ足ル所屬一體ハ遵照ノ上嚴密且ツ周到ナル注意ヲ以テ彼ノ對華政策上ノ行動ヲ監視シ隨時内報セラレ度シトアリ、當該縣政府ニ於テモ右訓令ヲ遵奉シ嚴密監視以テ外患防止上遺憾ナキヲ期セラレ度シ

四縣行政監督 張書翰
二、日本ノ對東北政策根本方針内査方訓令

吉林省府副司令部公署 會密令第九八號

各縣政府、行政監督公署、各警備司令ニ密令ス
東北省政府陸海空軍副司令公署密令並ニ中央軍蔣總司令ノ密電ニ據レハ日本政府ノ對中政策根本改革案ノ内査方ハ本公署密令第二九號ヲ以テ發令シ置キタルモ未タ確定的ノ内報ニ接セス外交部ノ呈報ニ依レハ日本政府ハ今回對東北政策ノ根本的改革ヲ創案シ實行ノ運ヒニアリト其ノ表現トシテ駐華滿鐵總裁、朝鮮總督ノ更迭ヲ斷行シタルカ日本政府ノ本更迭ハ中國政府ノ重大視セサルヘカラサルモノトス新總督、總裁ハ共ニ日本政界隨一ノ外交手腕家ナリ殊ニ朝鮮總督ノ如キハ日軍總帥ニシテ平素軍事的侵略ヲ以テ東北ニハ對露中外交ノ失敗ニアリト之力爲該政府ハ今回對東北問題ノ根本的改革ヲ創案シ積極的對東北政策ヲ實行スルヤモ計ラレス故ニ貴省政府ノ將來ニ於ケル對日問題ハ益々紛糾

右轉令スルニ付所屬一體ヲ督勵シ萬遺憾ナキヲ期スヘシ
六月二十一日
張作相
本信寫送付先 在中公使 北平首席 奉天 吉林 哈爾賓各總領事
長春 安東 南京各領事
朝鮮總督 咸北知事 間島派遣員

日本ノ勢力擴大ヲ企圖セル野心戰略家ナリ日本政府ハ今ヤ反對黨タル政友黨及全國民ノ信用ヲ失墜シタル力其ノ原因ハ對露中外交ノ失敗ニアリト之力爲該政府ハ今回對東北問題ノ根本的改革ヲ創案シ積極的對東北政策ヲ實行スルヤモ計ラレス故ニ貴省政府ノ將來ニ於ケル對日問題ハ益々紛糾

朝鮮軍 第十九師團參謀長

朝鮮憲兵隊司令官 羅南憲兵隊長 延吉連絡班
關東廳警務局長
管下一般

867 昭和6年7月31日

在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

北方の軍事情勢につき出先各方面に注意方亞
細亞局長に電報依頼

天津 7月31日後発
本省 8月1日後着

第二七六號（極秘）
亞細亞局長へ

（本電陸軍側へハ極秘トセラレタシ）
土肥原及駐屯軍方面ノ言動ニ付テハ當方ニ於テモ屢聞達ア
リ從テ各地ヨリノ電報モ彼是領カルル節アルモ去リト的
確ナル證據モ少キヲ以テ何レ本官歸朝ノ際内報致シタキ考
ヘニテ報告ヲ差控ヘ居リタルカ一方當地支那側ノ動キヲ見
ルニ最近安福派ノ活動盛トナリ即チ山西及韓等力石ノ討將、
張通電及其ノ後ノ軍事發展ニ拘ラス未タ反將態度ヲ表明セ

サルハ之等北方派ト石トノ聯絡充分ナラサルニ先立チ改組
派力石ヲ煽動旗揚ケセシメタル爲感情ヲ害シタル故ナリト
ノ解釋ノ下ニ北方ニ於ケル改組派延テハ廣東政府派勢力ノ
驅逐並ニ出來得レハ段祺瑞推戴ニ依ル北方派ノ團結方ニ關
シ山西及韓馬等トノ間ニ諒解取付方奔走スルト共ニ（右政
治的内訌ノ結果却テ石ノ軍事行動ヲ阻害シ居ルヤニモ見受
ケラル）他方作相、張景惠及湯玉麟等奉天舊派トモ密接ナ
ル聯絡ヲ計リ居ルカ如ク特ニ奉天ノ敗北ハ既ニ時日ノ問題
ナリト見込ミ山海關ヲ境トシテ新舊奉派截然區別セラレ居
ル現狀ヲ機トシ近ク内部ニ大變動起ルヘキヤニ抽象的乍ラ
内密洩シ居ル事實ハ假令宣傳家渝ヒノ事故割引ヲ要スルニ
モセヨ相當注意ヲ要スヘク又別途聞込ニ依レハ眞偽計リ難
キモ奉天舊派トハ別個ニ揚子霆舊部下力主體トナリ奉天北
平及當地ニ於テ「クーデター」ヲ爲ス計畫モ熟シ居ルヤニ
テ學良及萬福麟（兩人ハウホーシンヲ中心トシ深キ姻戚關係アリ）ヲ葬ラントスル潛行的畫策或ハ豫想外ニ進行シ居
ルニ非スヤトモ思料セラル尙右ノ外當地方ニハ石友三ノ便
衣隊入込ミ居リ于學忠ノ部下トハ諒解アル由ナルヘキ情報
モアリ時局ハ或ハ此ノ方面ヨリ急轉直下意外ノ事態ヲ展開

スルヤモ計リ難シトモ見受ケラル處何レニセヨ右様變動
起ル場合我方力何等之ニ關係アリトテ迷惑ヲ蒙ルカ如キ事
ナキ様此ノ上トモ出先各方面ノ注意肝要カト存セラル
支、北平、奉天ヘ轉電セリ

868 昭和6年8月4日 在長春田代領事より

幣原外務大臣宛

東北各省中國側銀行團代表による東北幣制会
議開催決定について

（8月14日接受）

869 昭和6年8月10日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

王家楨が張學良よりの伝言として東北・河北
における朝鮮事件報復並び石友三軍および閻
の大連脱出など日本側の取締り要望について

奉天 8月10日後発
本省 8月10日後着

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

遼寧ニ於テ銀行團ノ幣制會議開催計畫ニ關スル件

東北各省ニ於ケル銀行ハ就レモ夫レ々銀行紙幣ヲ發行シ居
ル處近年之力濫濶ト金高銀安ノ影響ヲ受ケテ其信用價值激
減シ大暴落ヲ招來セル爲各銀行皆尠カラサル打擊ヲ蒙ムリ
彼此前途ヲ杞憂シツヽアル現況ニ鑑ミ今回遼寧銀行團發起

第五〇一號

⁽¹⁾王家楨ハ渡歐ノ途九日夜當地着十日朝當館ヲ來訪シ北平ニ
於テ三回張副司令ニ會見セルカ副司令ヨリノ本官ニ對スル
傳言トシテ萬寶山事件及石友三事件等ハ皆病氣中ニ發生シ

事件ニ對スル報復等ノ行動ハ嚴重ニ取締ルヘキニ付安心アリタク且情報ニ依レハ過半石友三軍ニハ多數ノ日本人關係シ居リ今回ノ閻錫山ノ大連脱出ニモ相當有力ナル日本人ノ援助アリシヤノ説傳ヘラレ居ルニ付此種行動ニ對スル日本側ノ取締ニ付尙一段ノ骨折ヲ希望スル旨ヲ述ヘタルヲ以テ本官ハ石友三軍ニ日本人關係ノ證據アラハ提示セラレタク閻錫山ノ脱出ニ付テハ目下關東廳ニ於テ事情嚴重ニ取調ナルカ此ノ間日本政府ニ於テハ正當ニ認メラレタル中國政府ニ對スル策動ノ取締ニ關シテハ充分ノ注意ヲ拂ヒツツアルニ依リ安心セラレタシト語リ

更ニ在滿鮮人壓迫問題ニ關シテハ副司令ニ於テ朝鮮暴動事件ニ對スル報復的行動ヲ取締ルト云フモ實際ハ其後各地ニ於テ鮮人壓迫事實頻出シ此ノ儘放任セハ再ヒ鮮人ノ神經ヲ刺戟シ朝鮮内地ニ於ケル暴動ヲ再發スルニ至ルノ虞アリ依テ東北官憲ノ對鮮人態度改善方ヲ希望シ先般來張作相及⁽¹⁾式毅兩氏ニ對シニ在滿鮮人取扱ニ關スル臨時辦法ノ商議方ヲ提議シ張督辦ハ趣旨ハ贊成ナルモ事前ニ副司令ニ相談ノ要アリトテ未タ商議開始ノ運ヒニ至ラサル處本件ハ過般重光公使ヨリ外交部長ニ申入レタル儀ニモ有之ヲ以テ貴次長ヨ

リ副司令及張作相氏等ニ對シ右實現法勸説アリ度シト説キタルニ王ハ副司令ニハ書翰ヲ以テ作相ニハ今日午後往訪ノ上傳言スヘキ旨ヲ約セリ

支、北平、南京、天津、漢口、廣東、青島、濟南、吉林、哈爾賓、齊々哈爾、關東長官ヘ轉電セリ

870 昭和6年8月12日 常原外務大臣より 在濟南西田總領事宛（電報）

石友三の日本亡命には異議なきも閻東州亡命

は成るべく避けさせる様仕向け方訓令

本省 8月12日後7時40分発

第八號（至急、極秘）
貴電第一四四号ニ閔シ

此種亡命客ニ對スル我方方針ハ客年往電第七七号ノ通ニシテ石友三ニ付テモ蔣介石ノ出国許可アル趣ニテモアリ同人ニ於テ渡來後政治的策動ヲ行ハサル限り本邦乃至我行政権下ニ來ルコトニハ異議ナキニ付右政府ノ意向トシテ適宜回答セラレ度尤モ石ノ閻東州亡命ハ閻錫山脱出直後ノ此際

ニテモアリ如何ニモ同地カ中國亡命政客ニ利用セラレ居ル如キ感ヲ与フル虞アルニ付成ル可クハ之ヲ避ケシムル様仕向ケラレ度將又同人ノ中國々内通過経路及本邦人援助ノ件ニ関スル貴官ノ應酬振ハ當方ニテモ全然同感ナリ

公使 北平 奉天 天津 青島 芝罘 上海 南京 漢口
廣東ニ轉電セリ

貴電第一四四号及第一四六号ト共ニ閻東長官ニ轉電セリ

871 昭和6年8月15日 在濟南西田總領事より 常原外務大臣宛（電報）

韓主席に対し石友三渡日の場合は大連を避けられたい旨の日本政府意向を申し入れについて

濟南 8月15日後発
本省 8月16日後着

第一五〇號（極秘）
貴電第八號ニ關シ

昨十四日本官韓主席ニ會見シ石友三渡日ニ付本政府ノ意図トシテ御訓電ノ次第ヲ述ヘ大連ハ閻錫山脱出直後ニテモアリ此ノ際成ルヘク避ケラレ度キ旨申入レタルニ韓ハ貴國政府

872 昭和6年8月19日 塚本閻東長官より 常原外務大臣宛（電報）

石友三の閻東州亡命並び寄港の際の上陸は共に許可せざることと致したきについて

閻東庁 8月19日後発
本省 8月19日後着

第九三號（極秘）
閻下發濟南總領事宛電報第八號ニ關シ

御承知ノ通り過般石軍活動ノ際ハ何等日本側ノ援助アリタルカ如キ噂傳ヘラレ居ル關係アルノミナラス閻錫山脱出直後ノ事ニモアリ此際石ノ當州ニ亡命シ來ルカ如キ事アラハ

無用ニ中國側ノ疑惑ヲ誘フ虞無キニアラスト思ハル、ニ付
同人ノ當州亡命並ニ寄港ノ際ノ上陸ハ共ニ許可セサル事ト
致シタキ處右ニ付何分ノ貴見御電示ヲ請フ

拓務省及在京長官へ轉報ヲ請フ

公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

支、北平、濟南、青島、奉天、天津、漢口、廣東、南京、
芝罘へ轉電セリ

（欄外記入）

支、北平、濟南、青島、奉天、天津、漢口、廣東、南京、
芝罘へ轉電セリ

873 昭和6年8月21日 勅原外務大臣より
在濟南西田總領事宛（電報）

石友三の日本内地渡来には異議なきも関東州
亡命は拒否するの余儀なき次第について

本省 8月21日後9時25分発

第九號（暗）

（欄外記入）関東長官発本大臣宛電報第九三号ニ關シ

関東廳ノ意見ハ尤モノ義ト存スルニ付必要ニ依リ往電第八
号ノ趣旨ヲ以テ再應石側ニ対シ我方トシテハ石ノ本邦内地
渡來ニハ異議ナキモ関東州亡命ハ之ヲ拒否スルノ余義ナキ
次第ナル旨申聞ケラレ度

874 昭和6年8月26日 在長春田代領事より
写送付済 拓務省 関東長官六・八・二六
（欄外記入）

マッチ専売実施に付屬地内工場における
印花の貼用黙認の現状について
(9月3日接受)

機密公第三六〇號
昭和六年八月二十六日
在長春
印花の貼用黙認の現状について
(9月3日接受)

印花の貼用黙認の現状について
(9月3日接受)

領事 田代 重徳〔印〕

外務大臣男爵 勅原 喜重郎殿

東北燐寸問題ニ關スル件

本件ニ關シ燐寸界最近ノ狀況左記ノ通報告申進ス
記

一、燐寸專賣印花貼用問題

本件ニ關シ本年五月下旬貴電ヲ以テ御訓令ノ次第ハアリタルモ附屬地内邦人工場ノ生産過程ニ於テ印花ノ貼用ヲ實施スルコトハ御來示ノ如ク主義上ノ問題トシテ面白カラサルノミナラス諸般ノ關係上種々論議ノ餘地アルヘキヲ以テ當業者ヲシテ能フ限り之力附屬地外設置ニ努力セシムルコト然ルヘキヤニ思料セラレタルヲ以テ右ノ方針ニ依リ一應適當ナル附屬地外工場隣接敷地ヲ物色セシメタルモ時節柄中國官憲ノ指金モアルカ如ク實際問題トシテ目下邦人ノ土地商租頗ル困難ニシテ到底目捷ノ必要ニ應スルコト至難ナルヤニ認メラレタルヲ以テ滿鐵沿線各地ニ於ケル本件措置ニ關スル振合並印花貼用手續即チ印花ノ消印ハ何等公的性質ヲ有セサル各自工場專用ノ印鑑（長春火柴公廠銷印花草、長春寶山火柴公司銷印花草）ヲ使用シ工場係員力個人ノ資格ニ於テ便宜實施スルモノナル點等ヲモ考量ノ上七月上旬长春、寶山兩邦人工場ニ對シ附屬地内工場ニ於テ專賣印花钱貼用ヲ實施スルコトハ專賣不承認ノ我方立前及附屬地ニ於ケル我方行政權ノ關係上當方トシテ容認シ難キ處ナルモ附屬地外工場隣接敷地ノ借入不可能ナル事實ニ鑑ミ事情餘儀ナキモノト認メ此際特ニ附屬地外消費ヲ目的トスル製品

公使、北平、奉天、天津、青島、芝罘、上海、南京、漢口、廣東、関東長官ニ轉電セリ

（欄外記入）

外務大臣男爵 勅原 喜重郎殿

東北燐寸問題ニ關スル件

本件ニ關シ燐寸界最近ノ狀況左記ノ通報告申進ス
記

一、燐寸專賣印花貼用問題

本件妥協交渉ハ目下同業會幹部ト瑞典側滿洲代表「エンランド」トノ間ニ著々進捗中ノ趣ナルカ同業會幹部ノ資格ニ於テ右交渉ニ關係シ居ル佐藤ノ報告スル處ニ依レハ本件ニ關スル同業會側ノ根本方針ハ瑞典側ヲ正式加入ニ依リ同業會員ノ資格ヲ許與シ經理處ノ組織運用ニ迄參劃セシムルコトハ從來ヨリノ行縣上至難ナルノミナラス將來同業會ノ内

部的結合ヲ攬亂セラルノ虞アルヲ以テ絶対ニ之ヲ拒否ス
ヘキコト勿論ナルモ一方瑞典側ニ於テ誠意アル態度ヲ以テ
同業會側トノ協調ヲ計ラントスル意志ヲ表示スルニ於テハ
東北燐寸界安定ノ大局上ノ見地ヨリスルモ希望スヘキ處ナ
ルヲ以テ此ノ際同業會對瑞典側間ノ單純ナル妥協ニ依リ經
理處カ瑞典系製品ヲ買上クルノ特殊形式ヲ執リ事實上同業
會員ト大體同等ナル待遇ヲ與フルコト頓適當ナル條件ノ
下ニ協調スルモ可ナリト云フニアル處右ノ方針ニ依リ商議
ヲ進メタル結果七月上旬奉天ニ於テ同業會側金哲忱、孫子
俊及佐藤對「エンランド」間ニ左記妥協案ニ付意見ノ一致
ヲ見大體ノ談合纏リタル趣ナリ

(1) 東北火柴經理處ハ瑞典系日清吉林兩社製品一ヶ年合計七
萬箱ヲ限度トシ買上クヘキコトヲ約ス

但東北四省ニ輸入セラルルコトアルヘキ瑞典系製品ハ總
テ右七萬箱中ニ包含セラルモノトス

(2) 同業會ハ特別ノ取計ニ依リ該會員外ニ提供スルコトヲ嚴
禁セラレタル專賣印花ヲ瑞典側ニ對シテモ配布ス瑞典側
ハ經理處ニ買上ケラルヘキ自己製品ニ一律ニ之ヲ貼用ス
ヘシ

右談合ノ結果ハ瑞典側ニアリテハ「エンランド」ヨリ在上
海瑞典側支那代表「ユワレン」ニ報告シ其ノ回訓接到次第
何分ノ儀同業會側ニ通告スルコトトナリヨリ同業會側ハ右
承諾ノ通告ヲ受ケタル時ハ直ニ同業會臨時總會ヲ召集シ其
決議ヲ經テ前顯妥協案ヲ確定セシムル手筈ノ趣ニシテ大體
本月中ニハ右妥協ノ成否判明スルニ至ルヘキ見込ナリトノ
コトナリ

(3) 右協定成立ノ條件トシテ日本官憲ノ諒解ヲ取付クルコト
ヲ要ス

(4) 右協定成立ノ條件トシテ日本官憲ノ諒解ヲ取付クルコト
ヲ要ス

右談合ノ結果ハ瑞典側ニアリテハ「エンランド」ヨリ在上
海瑞典側支那代表「ユワレン」ニ報告シ其ノ回訓接到次第
何分ノ儀同業會側ニ通告スルコトトナリヨリ同業會側ハ右
承諾ノ通告ヲ受ケタル時ハ直ニ同業會臨時總會ヲ召集シ其
決議ヲ經テ前顯妥協案ヲ確定セシムル手筈ノ趣ニシテ大體
本月中ニハ右妥協ノ成否判明スルニ至ルヘキ見込ナリトノ
コトナリ

尙妥協交渉ニ當リ瑞典側ハ前項(2)協定買上價格ハ低率ニ過
キ瑞典系會社ニトリテハ採算不能ナルヲ理由トシ之力引上
ヲ強硬ニ主張シタルニ對シ同業會側ハ右買上價格ニハ同業
會員ト雖一律ニ服從シタル處ニシテ此ノ際會員外タル瑞典
側ニ對シテノミ殊遇ヲ與フルコト絶對承服シ難シト應酬シ
且瑞典系會社ノ採算不能ナルハ特殊原因即チ内部的經營組
合トシ

織ノ缺陷ニ基クモノト認メラル點多キヲ以テ引上要求ノ
正當ナル理由トシテ一般的ニ通用スヘキ筋合ノモノニアラ
ス從テ經營方法ノ如何ニ依リテハ採算可能ナルコト疑ヲ容
レス若シ瑞典側ニ於テ前述缺陷補正ノ爲委任經營ノ方針ヲ
採擇セラルル意向アラハ同業會側ニ於テ原價現大洋十一圓
トシ買上價格トノ差益ハ全部瑞典側ニ提供スルノ條件ニテ
經營ヲ引受クルモ可ナリ又右安協條件ニ對シ難色アルモ特
ニ同業會側トノ圓滿協定ニヨリ日清吉林大連三社ノ操業停
止ヲ斷行セラルルニ於テハ之カ代償トシテ同業會側ヨリ年
額現大洋十萬圓ヲ交付スヘキコトヲ約定スルノ用意アル旨
提議シタルモ採決ニ至ラス結局前記(2)現大洋十二圓八十二
錢五厘ヲ承諾スルニ至レル趣ナリ尙右妥協商議ノ前提トシ

テ同業會側ヨリ瑞典系會社屢次ノ專賣法違反行爲ヲ指摘シ
瑞典側ニ於テ斯ノ如キ非妥協的方策ニ依リ計畫的ニ製品ノ
密賣ヲ行ハルル方針ナルニ於テハ全ク交渉ノ餘地ナキヲ以
テ本件商議ヲ打切り斷乎タル措置ニ出テサルノ已ムヲ得サ
ル次第ヲ警告シ一本釘ヲ打チタル處「エンランド」ハ右專
賣法違反行爲ニ關シテハ何等知悉シヲラサルモ關係會社ニ
對シ不正販賣禁止方ヲ命令嚴守セシムヘキ旨ヲ約シタルカ

(A) 瑞典側ハ販賣手數料トシテ一箱ニ付特ニ現大洋二十錢ヲ
經理處ニ支拂フモノトス

(B) 經理處カ瑞典側ヨリ買上クヘキ製品ノ協定買上價格ヲ一
箱現大洋十二圓八十二錢五厘トス

(C) 右協定成立ノ條件トシテ日本官憲ノ諒解ヲ取付クルコト
ヲ要ス

右談合ノ結果ハ瑞典側ニアリテハ「エンランド」ヨリ在上
海瑞典側支那代表「ユワレン」ニ報告シ其ノ回訓接到次第
何分ノ儀同業會側ニ通告スルコトトナリヨリ同業會側ハ右
承諾ノ通告ヲ受ケタル時ハ直ニ同業會臨時總會ヲ召集シ其
決議ヲ經テ前顯妥協案ヲ確定セシムル手筈ノ趣ニシテ大體
本月中ニハ右妥協ノ成否判明スルニ至ルヘキ見込ナリトノ
コトナリ

尙妥協交渉ニ當リ瑞典側ハ前項(2)協定買上價格ハ低率ニ過
キ瑞典系會社ニトリテハ採算不能ナルヲ理由トシ之力引上
ヲ強硬ニ主張シタルニ對シ同業會側ハ右買上價格ニハ同業
會員ト雖一律ニ服從シタル處ニシテ此ノ際會員外タル瑞典
側ニ對シテノミ殊遇ヲ與フルコト絶對承服シ難シト應酬シ
且瑞典系會社ノ採算不能ナルハ特殊原因即チ内部的經營組
合トシ

右約束ハ七月二十四日以後勵行セラレツタル模様ニシテ
事實瑞典系會社ノ違反行爲ハ其後全ク終熄シタル由ナリ尙
「エンランド」ハ右會談ノ席上同業會トノ妥協交渉ノ完全
ナル成立ヲ待チ瑞典系日清吉林大連三社內部ノ根本的改革
ヲ斷行スル所存ナル旨ヲ述ヘ既ニ確固タル決意ヲ有スルモ
ノノ如ク見受ケラレタル趣ニテ旁同人ハ同業會トノ妥結ヲ
第一義トシテ滿洲ニ於ケル瑞典側勢力ノ現狀維持ニ付百方
腐心シタルモノノ如キ處現下ノ状勢ニテハ前顯妥協條件ノ
内容ノ緩嚴如何ニ拘ラス今日トナリテハ瑞典側トシテ之ヲ
受諾スルノ外途ナカルヘキヤニ觀測セラルル趣ナリ

三、最近燐寸市況

本春專賣法實施以來燐寸市價ハ漸騰シタルモ現在ハ例年閑
散ノ時季ニモアリ旁一般ニ專賣見越「ストック」飽和シヲ
ル狀態ニシテ未タ實需抬頭スルニ至ラス又瑞典側ノ專賣法
違反密賣並銀安ノ購買力ニ對スル影響深刻化シタル關係モ
アリ賣行頗ル不振ニシテ長春分經理處ヲ通シ市面ニ現レタ
ルモノ七百箱ニ過キス然シテ長春燐寸ハ四月十五日ヨリ寶
山燐寸ハ五月一日ヨリ休業七月二十一日並七月二十七日ヨ
リ夫々操業ヲ開始シタルカ一方瑞典側ニ於テモ同業會トノ

ノ「面子」ヲ救濟シ彼我ノ衝突ヲ避クルコトヲ得テ妙ナル
ヘシト思考セラルニ付可然御取計方御配慮相仰度右報告
旁々此段稟請申進ス

本信寫送付先 外務大臣、在間島各分館

昭和六年八月三十一日

編注『日本外交文書』昭和期I第一部第四卷472文書参照。
塙本関東長官より
幣原外務大臣宛(電報)

張學成、鄒魯、陳中孚が陸軍の好意をうけ大

連乃至瀋陽より天津入りしるについて

関東厅 8月31日後発

本省 9月1日前着

河相ヨリ亞細亞局長へ

確カナル筋ヨリノ聞込ニ依レハ石友三失脚張學成ハ陸軍ノ
援助ヲ得テ天津ヨリ大連ニ逃レ來リ先般關東軍司令官ヲ訪
問セル趣向先般鄒魯力大連ヨリ天津ニ入レルモ當地關東軍
ノ斡旋ニ依ルモノニテ陳中孚モ亦奉天往復ノ上同様陸軍ノ

好意ニ依リ天津ニ向フモノノ如ク同行者一名先發既ニ天津
ニ入りタル趣向等御参考迄
在京關東長官へ御傳へ請フ
支、奉天、天津、濟南へ轉電セリ

昭和六年九月三日

編注『日本外交文書』昭和期I第一部第四卷472文書参照。
在ハルビン大橋總領事より
幣原外務大臣宛

中ソ交渉の難関は中東鐵道財産の評価額決定
にありとのオルロフ總領事代理の談話について
機密第一〇〇八號
(9月9日接受)

昭和六年九月三日

在哈爾賓

外務大臣男爵 壁原 喜重郎殿

東鐵買收問題ニ關スル「オルロフ」勞農總領事代理ノ
談話ニ關スル件
過日本官當地勞農總領事代理「オルロフ」ト會見タル際種々
談合ノ末話題偶々東鐵問題ニ及ヒタルヲ以テ本官ヨリ座談
的ニ目下莫斯科ニ於テ進行中ノ「ソ」中會議ハ意外ニ永引

キ居ルヤニ局外者ニハ思ハル處同會議ノ難關ハ何レニア
リヤト質シタルニ「才」ハ難關ハ東鐵財產ノ評價額ノ決定
ニアリ「ソ」聯カ主義トシテ中國ノ希望通り「ソ」中協定
ニ定ムル期限終了前ニ賣却スルコトニハ毫モ異存ナク其用
意アル旨ハ既ニ聲明シタル所ナルモ唯中國側ノ提示シ居レ
ル買收價額ハ勞農側ノ評價額トノ間ニ甚タンキ軒輕アリト
答ヘタルヲ以テ本官ハ勞農側ノ評價額ハ大凡ソ幾何位ノモ
ノナリヤ一說ニハ約三億留ト云ハレ居レルカ如何ト突込ミ
タルニ對シ「才」ハ所謂勞農側ノ要求額ニ就テハ種々ノ數
字力傳ヘラレ居リ確タル所ハ自分モ承知シ居ラストテ語尻
ヲ濁ランタルモ敢テ右三億說ヲ否定セス仍テ本官ハ最近

878 昭和6年9月9日 在南京上村領事より
在露大使 在中華民國公使 在北平首席
在奉天 上海各總領事

在南京 長春 齊々哈爾 滿洲里各領事

中央軍官學校記念週における蔣介石の訓話につき中央日報報道について

南京 9月9日後発
本省 9月9日後着

第五二九號

七日中央軍官學校記念週ニ於テ全校生約三千人ニ對シ蔣介
石ノ爲セル訓話ニ付南京ノ中央日報ハ左ノ通大要ヲ報道シ
居レリ

我國ハ目下内憂外患交々至リ危急存亡ノ秋ニシテ吾人ノ革
命ヲ成功セシムヘキトキナルヲ以テ諸子ハ國民革命ノ完成
ニ努力スルヲ要スニ吾人ハ中國ヲ侵略シ危害ヲ加ヘント
ハ必シモ異議ナキモ第三國カ代ツテ入り來ルニハ反對ナレ
語リタリトノ說アルカ右ハ事實ナリヤト問ヒタルニ「才」
ハ「右ハ事實ニ非ス蘇側トシテハ北滿ヨリ引キ下ルコトニ
ハ必シモ異議ナキモ第三國カ代ツテ入り來ルニハ反對ナレ
ハナリ」ト答ヘ居タリ

右御參考迄報告ス

本信寫送附先

者ノ離間使嗾或ハ（脱）援助アリ彼等ハ唯中國ノ亂レサラ
ン事ヲ恐ル者ナリ最後ニ各學生ハ誠實清潔規律嚴正ニシ
テ革命軍人ノ模範タラン事ヲ切望ス云々

支、北平、奉天、廣東へ轉電セリ

879 昭和6年9月14日 在広東須磨總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

陳友仁より三井武器輸出許可につき幣原外務

大臣に要望について

広 東 9月14日後発
本 省 9月14日後着

*第四一二号

往電第三七八号ニ關シ

十四日陳友仁態々矢野ニ會見ヲ求メ既ニ北伐ヲ開始セルヲ
以テ當地軍部當局ハ切ニ自分ニ對シ三井武器輸送許可方日
本政府ニ懇願スル様慾済シ閉口シ居ル次第ナルニ付テハ幣
原外相ニ御傳ヘ願ハレ間敷ヤトテ語ル所左ノ通り

閣下ニ於カレテハ前記三井ノ武器ノ輸出ヲ許可セラル御御
方針ナリヤ承リ度ク實ハ閣下ニ於テ確定的ニ拒否セラルレ

依テ矢野ハ陳ニ對シ貴下ノ御依頼ハ一應外務大臣ニ傳達ス
ルモ差支ヘ無シト然ル可ク應酬シ置キタル趣ナリ
ヲ得ハ幸甚ナリ

880 昭和6年9月15日 在中国重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）

外交部亞洲司馬長亮に対し蔣主席の軍官学校に
おける言説に關し速かに釈明方要請について

南京發閣下宛電報第五二八號ニ關シ
南 京 9月15日後発
本 省 9月16日前着

第九三八號

十四日外交部范漢青ヨリ領事館員柳原ニ對シ日本機關新聞
カ七日ノ國民政府記念週ニ於ケル蔣主席ノ演説トシテ特筆
シ居ル處ヲ指摘シ右電報ハ全然事實ニ相違シ居ルニ付何等
カノ方法ニ依リ此ヲ是正シタキ考ナル處右「ニュウス」ノ
出所ヲ承知シタキ旨申來レルニ依リ柳原ヲシテ本邦新聞ノ
記事ハ好ク承知セサルカ中央日報ニ掲載セラレタル蔣主席
ノ軍官學校ニ於ケル演説（南京發閣下宛電報第五二九號）

ハ貴方ノ機關新聞ニ發表セラレタルタケ問題トナル譯ナレ
ハ外交部トシテモ充分考慮ノ要アルヘキ旨述ヘシメ置キタ
ルカ越テ十五日亞洲司馬長亮他用ニテ上村ヲ來訪シタルニ

上海、南京へ暗送セリ

881 昭和6年9月15日 在中国重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）

日本新聞の報導振りに關し注意喚起について

上 海 9月15日後発
本 省 9月15日後着

ノ當局ハ兩國間ニ横ハル誤解ヲ解キ惡感情ヲ除去スル事ニ
依リ國交ヲ改善スル事ニ不斷ノ努力ヲ續ケ居ル次第ナル
前記軍官學校ニ於ケル主席ノ演説ノ如キハ徒ニ兩國民ノ感
情ヲ刺戟シ吾々ノ今日迄ノ努力ヲ破壞シ去ルモノナリ斯ル

第九三九號

ハ当地ニ於テハ相當好マシカラサル反響アルヘキモ此上本
件ヲ不確定ノ狀態ノ併遷延セシムルニ於テハ益々亞影響ヲ
及ボン延テハ閣下ト余トノ間ニ意見ヲ交換セシ重要事項ノ
遂行ヲモ困難ナラシムルニ至ルヘシ

尚蒋介石ハ江西共匪討伐ニ関シ種々宣傳シ居レルモ實ハ失
敗シ今ヤ共匪ハ十萬挺ノ武器ヲ有シ勢侮ルヘカラサルモノ
アリ從テ當地軍部ノ軍事計畫ヲモ变更スルノ要生シ 当初
蔣介石討伐ニハ充分ノ武器彈藥ヲ用意シ居リシモ右共匪討
伐ヲモ為ササルヲ得サル破目ニ立至リ武器ノ不足ヲ痛感ス
ルニ至レル次第ナレハ本件ニ關シ至急閣下ノ御決定ヲ承ル
ヲ得ハ幸甚ナリ

依テ矢野ハ陳ニ對シ貴下ノ御依頼ハ一應外務大臣ニ傳達ス
ルモ差支ヘ無シト然ル可ク應酬シ置キタル趣ナリ
ヲ得ハ幸甚ナリ

中村事件ニ關スル外交部長ノ言説ニ次クニ國民政府記念週

ニ於ケル蔣主席ノ演説問題起リ右ハ痛ク本邦「ジャーナリズム」ノ人氣ニ投シ大袈裟ニ取扱ハレタル爲中國側ニモ可

成リノ反響アリ中國側ヨリ日本新聞ノ謠言トシテ逆振ヲ受

ケ第二ノ聯合事件トナルノ惧モアル處外交部側ニ對シテハ

往電第九三八號ノ通措置シ置クト共ニ本邦新聞記者ニ對シテハ充分注意ヲ與ヘ居ル次第ナリ然ルニ石友三背反ノ際ニハ日本ノ豫備將校何名力附隨シ居リタルコト事實ナリトノ相當信用スヘキ情報モアリ他方廣東及香港來電ニ依レハ本邦船舶力廣東側ノ武器輸送ヲ引受クルカ如キ話モアル位ナレハ或ハ右以外ニ廣東側ト本邦商人側トノ特殊關係アルニ非スヤトモ想像セラル、處何等御承知ノ節有之ラハ本使ノ心得迄ニ御回示相成タシ

北平、奉天、廣東へ轉電セリ

上海、南京へ轉報セリ

882 昭和6年9月17日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）

王外交部長が中央日報紙上で最近の日本新聞

モ蔵主席ハ當日午後同公使歡迎ノ爲特ニ茶話會ヲモ催シタル程ニテ右ハ中日間ニ何等惡感ナキコトヲ表示スルノミナ

ラス蔵主席ニ兩國ノ提携ヲ圖ラントスル意思アルコトヲ表明スルニ足ルヘン

次テ某日本人記者ヨリ中國側ニ於テハ日本政府力廣東側ニ

武器ヲ供給セリトノ說熾ニ行ハルニ關シ王部長ノ意見ヲ尋ネタル處王部長ハ外交部長トシテハ此點ニ付答フルコト

都合惡キモ個人トシテハ日本政府力廣東側ニ武器ヲ供給スルカ如キコトアリ得ヘカラスト信スルコトヲ言ヒ得ヘシ尤モ日本人中個人トシテ此種行動ヲ爲スモノアリヤ否ヤハ保

證ノ限ニ非スト答ヘ更ニ王部長ハ曩ニ日本新聞ハ余力中村事件ハ事實無根ナリト言ヘリト報道セルカ之亦事實ニ反ス當時諸君ハ中村事件ニ就キ尋ネタルニ付余ハ新聞ニテ承知シタルニ付東北官憲ニ電報ニテ問合中ナルカ未タ報告ニ接セサレハ詳細ハ承知セスト答ヘタル迄ニテ事實無根ト言フカ如キコトハ話シタルコトナシト告クル所アリ（以下冒頭

往電末段ト大体同趣旨ニ付省略ス）委細郵報

公使、北平、奉天、廣東へ轉電セリ

公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

は事實に反する記事が多いと批難について

南京 9月17日後発

本省 9月17日後着

第五四四號

往電第五四二號ニ關シ

十七日ノ中央日報ハ「日本新聞ノ記事ハ多ク事實ニ反ス蔣主席ノ演説ナルモノ全然符合セス王正廷日本記者ニ訂正ス」トノ見出シヲ附シ大要左記ノ如キ記事ヲ掲載セリ（右ハ公使發往電第九三八號ノ本件釋明ナリト認メラル）余（王）ハ最近ノ日本新聞ヲ見ルニ其記事甚シク事實ニ反シ又ハ誇大ニ近キモノアリ大阪毎日ノ如キハ先週ノ記念週ニ於テ蔣主席カ日本政府ハ内密（ニ）廣東側ヲ援助セルニ付日本帝國主義ヲ打倒スヘシト言ヒ又日本政府ヲ攻擊セリト報道セル處右ハ明ニ事實ニ反ス余ハ當時記念週ニ出席シタルヲ以テ蔣主席ノ述ヘタル帝國主義者ハ決シテ專ラ日本ヲ指シテ言ヘルニ非サルコトヲ證明スヘシ又蔣主席ハ國民ニ排日ヲ煽動セリト言フニ至リテハ更ニ無稽ノ報道ト謂フヘク些力挑發的意味アリ今之ヲ事實ニ付テ證明センニ今回中日兩國カ公使ヲ交換シ重光公使カ國書ヲ捧呈セル際ノ如キ

883 昭和6年9月17日 在濟南西田總領事より
幣原外務大臣宛

魯予清鄉督弁公署參事周秀文の華北情勢に關する内話につき報告

機密第四一七號 昭和六年九月十七日 在濟南
(9月29日接受)

總領事 西田 畑一〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

周秀文ノ華北時局内話報告ノ件

當地魯豫清鄉督辦公署參事周秀文（周ハ安徽合肥人ニテ目下天津ニアル王揖唐ノ秘書ニシテ王ト共ニ日本ニ赴キシコトアリ本官王ト昵近ノ間柄ナル關係上周トモ知合ヒトナレル人物ナルカ韓主席ノ招聘ニヨリ目下當地ニアリ）本月十四日本官ヲ來訪シ時局ニ關シ左ノ如ク内話セリ

一、閻錫山離晋問題

中央及張學良側ハ飽迄モ閻ノ離晋實行ヲ計劃シ過日ノ北平會議ニ於テモ種々討議セラレ當時韓復榘モ中央及東北側ニ對スル立場上閻ノ離晋ヲ主張シ其結果三案ヲ決定シ

之ニ基キ閣ニ勧告スルコトトナリシカ實際上ヨリ觀察ス

ルニ山西將領ノ内部ハ相當復雜ニシテ一致スルコト困難ナルモ右將領等ハ閣ニ養成セラレ又ハ拔擢セラレ恩義ヲ

有スルモノ不尠且閣ノ山西省内ニ於ケル資產（約二三千萬元アリ）巨額ナルヨリ閣ハ同方面ニ於テ根強キ潛勢力

ヲ有シ且ツ其ノ歸晋ニヨリ閣ヲ中心トシテ團結セン形勢モアルカ如キヲ以テ山西將領多數ノ眞意ハ閣ノ希望ニヨリ閣ノ離晋ヲ欲セス而シテ前主席商震ハ過般石家庄ニ進

兵シテ石友三ノ背後ヲ衝キ石沒落ノ主因ヲ作リシカ之ニ

對シ山西將領中ニハ喜ハサルモノ多ク商ハ中央ヨリ賞勳セラレシモ其地位ヲ保持シ難ク辭任ノ止ムナキニ至リ徐

永昌主席トナレリ徐ハ就任當初ヨリ閣ノ希望ニ從ヒ離晋ヲ欲セサリシカ北平會議ニテ閣ヲ離晋セシムルコトニ決

議セル結果致方ナク代表ヲ派遣シ決議實行ヲ圖ルヘク閣ニ離晋ヲ勸告中ナルモ元ヨリ實行不可能ナルハ徐ノ承知

スル所ニシテ閣ノ離晋必要ナキヲ中央及張學良側ニ諒解ヲ取付ケサル限り此ノ際同人カ山西ニ歸ルトモ主席ノ地位ヲ付徐ハ當分歸晋シ得サルヘシ（此ノ點姚以价ノ所說ト

ニ付徐ハ當分歸晋シ得サルヘシ（此ノ點姚以价ノ所說ト

位ヲ維持スルコト困難ナルノミナラス身邊ノ危険モアル

ハ専ラ韓軍ニテ治安維持ニ當ル予定ニシテ韓ハ過日收客

セル石軍約一箇旅ヲ編入シ展書堂旅ヲ師ニ編成シ現在五箇師ヲ以テ山東治安維持ニ當ルコトトナレリ

四、東北側ノ態度

現在中央ハ共產軍討伐、長江ノ水災等ニヨリ士氣及財政上ニ多大ノ影響ヲ蒙リ且ツ兩廣軍ノ北上ニヨリ形勢漸次緊迫シ來レルニ付中央ハ北方大局ヲ東北側ニ委ネ河南ニ劉峙軍等ヲ留メ（王均軍モ依然徐州方面ニ駐屯ス）之力監視ニ當ラシメ專ラ力ヲ兩廣軍ノ壓迫ニ注カシ計劃ニテ張學良トノ連絡ヲ一層密接ニシ居リ東北側ハ依然中央擁護ヲ標榜シ反蔣派ニヨル華北ノ動亂計劃ヲ壓迫シ時局切抜ケニ努メ居ルモ右ハ自己ヲ捨テテ迄モ中央ニ從フモノトハ認メ難ク廣東政府ヨリハ陳伴孚等ヲ奉天ニ派遣シテ連絡ヲ執レルニ一對シ東北側モ之ニ對シ權文幹ヲ廣東ニ派遣シ居ル事情等ヲ綜合スルニ東北側ハ自己ニ不利ナル影響ナキ限り廣東政府ノ申出ニハ或程度迄考慮ニ入レ可然聯絡シ置カントノ底意アルモノト推察セラル

五、要スルニ中央ハ湖南方面ニ進出セル兩廣軍ヲ徹底的ニ壓倒セシ計劃ニテ着々軍隊ノ移動ヲ行ヒ兩廣軍ハ之ニ對馬軍移駐後山東ハ膠東ノ劉珍年ハ現狀ノ儘トシ其他地方勸告セルモノト考ヘラル

略ホ同シ本月一日附機密第三八五號拙信參照）

又傳作儀ハ東北側ニ接近シ居ルヨリ山西將領ヨリハ軟派ト見ラレ現ニ北平ニアルモ閣ノ離晋問題ニ付其必要ナキコト解決セサル限り緩遠ニ歸リ山西側ト連絡ヲ執ルコト困難ナル實情ナルニ付同人モ或ハ當分歸綏シ得サルヘク

結局實力ヲ以テ追ヒ出ササル限り閣ノ離晋ハ現在ノ處實現至難ナリ尙ホ閣カ再ヒ反蔣行動ヲ開始スルヤ否ヤハ中央ト兩廣トノ關係ノ推移ニ俟ツノ外ナカルヘシ

二、馮玉祥出洋問題

馮玉祥ノ出洋ニ關シテハ北平會議ニ於テ協議セラレシカ韓復渠等ヨリ馮ハ閣ト事情ヲ異ニシ居ルヲ以テ兩名ヲ同

一二スルヲ要セスト主張シ其結果馮ノ出洋問題ハ有耶無耶ニ葬リ去ラレタリ現在馮ハ四箇旅ヲ有シ内一箇旅ハ或

地點迄進出セルカ如キモ他ハ何等移動セス又宋哲元ハ天津ニテ馮ニ出洋方ヲ慾憇シツツアル說傳ハルモ馮ニ對シ

反感ヲ有シ居ルニアラスシテ從來ノ關係ヲ持續シ居ルモノト認メラル

三、馬鴻達河南移駐問題

過般石友三ノ解決ニヨリ北方時局大体平靜ニ歸セシモ南

從來韓、馬、石ノ三者ハ略ホ一体ヲ成シ中間勢力ト見做サレシカ石ハ過日解決セラレ更ニ今回馬ハ河南ニ移駐スルコトナリタルハ韓ニ於テ忍ヒ難キ所アリシナランモ中央ノ命令ト且ハ四圍ノ事情上韓ハ不得已移動方ヲ馬ニ置セラルヘシ

ハ専ラ韓軍ニテ治安維持ニ當ル予定ニシテ韓ハ過日收客セル石軍約一箇旅ヲ編入シ展書堂旅ヲ師ニ編成シ現在五箇師ヲ以テ山東治安維持ニ當ルコトトナレリ

シ餘り深入リセス北方反蔣各將領ノ呼應ヲ待チ居ルカ如キ形勢ナル處反蔣派ニハ種種ナル計畫アルハ事實ナルモ果シテ北方反蔣派力團結シテ兩廣軍ニ策應シ得ヘキヤ否ヤハ豫斷シ難ク時局ハ結局中央軍兩廣軍ノ衝突ノ結果ニヨリ東北側ヲ初メ山西、西北兩軍並ニ韓ノ態度モ大体判明スルニ至ルヘシ云々

右御参考迄ニ報告ス

本信寫送付先

公使	北平	青島	奉天	天津	上海
漢口	廣東	南京	芝罘	鄭州	

884 昭和6年9月18日 在中國重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）

蔣主席演説等の日本新聞報道を根拠に国民政

府を攻撃することの不可について

上 海 9月18日前發

本 省 9月18日前着

貴電第三五七號ニ關シ

第九六〇號

蔣主席ノ演説トシテ日本ニ新聞報道セラレ居ル實情ハ往電第九三八號同九三九號南京領事發大臣宛第五四一號ノ通ニ有之蔣主席演説ナルモノハ外部ニ出テタルモノニ非ス而シテ民國側ニ於テモ右ヲ正式ニ否定セル有様ナリ又事情ヲ釋明スル爲外交部長ハ南京發往電第五四二號及上海總領事發往電第四八六號ノ通會見談ヲ發表シ居ル狀態ナリ當方ノ意嚮ハ宋子文ニハ充分強ク反映セシメアリ蔣主席ニハ十四日會見ノ際夫レトナク注意ヲ爲シタル譯ナリ

從テ此點蔣主席ノ演説等日本新聞報道ヲ基トシテ國民政府ニ注意スルノ論據ナク且右報道ニ付逆振ヲ受ク可キニ付其儘トスヘシ但シ御來示ノ我方ノ公正ナル立場ハ今後共國民政府ニ徹底セシムルノ手段ヲ講スヘキハ勿論ナリ

支、奉天、南京ヘ轉電セリ

885 昭和6年9月23日 在廣東須磨總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

三井との武器購入契約取消しの旨陳友仁の内
話について

往電第四四二號ニ關シ

廿三日本官陳友仁ト會見ノ際陳ハ曩ニ蔣介石ノ記念週ニ於ケル廣言ニ對シ幣原外相ハ日本ハ廣東側ニ對シ絕對ニ武器ヲ供給セサル旨言明セラレタル今トナリテハ到底實現不可能ト思考セラルニ付此際当地政府ハ三井トノ購入契約ヲ取消シ右契約ノ賣買證ノ條項モ水ニ流シ、始メヨリ本契約無カリシ事トスルニ決定セリト内話シタルヲ以テ此旨三井側ニ申聞ケ置キタリ

886 昭和6年9月24日 在廣東須磨總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

満州事變勃発による南京・廣東政府の和平な

ど廣東側動靜について

廣 東 9月23日後發
本 省 9月23日後着

第四四二號

887 昭和6年9月27日 在廣東須磨總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

文書ヲ返還シ解約ノ手續ヲ済マセタル趣内話セリ 右不取

廣 東 9月27日後發
本 省 9月27日後着

第四四三號

屢次ノ拙電等ニ依リ既ニ御承知置ノ次第ナルモ過去數日廣東政府各要人ト隔意ナキ會談ヲ遂ケ之ヨリ得タル印象等ヲ綜合シ南京廣東和平問題ト當政府ノ消長殊ニ我方ニ對スル關係ニ付何等御参考迄取纏メ旁左ニ電報ス

一、滿洲問題ノ勃發ニ依リ大體廣東政府ノ主張ニ合スル和

平運動力殆ト成立ノ瀬戸際ニ於テ一頓座ヲ來スニ至リ殊ニ蔣介石ニ對シ一致對外ノ口實ヲ與ヘ一方國難ヲ前

話について

武器購入契約解約手続済みとの三井山崎の内

廣 東 9月24日後發
本 省 9月24日後着

第四五二號

ニシテ武力ニ依ル蔣下野ノ手段モ取り難ク況ソヤ北方將領ヲ煽動シテ張學良ヲ脅カスノ苦肉ノ策ハモノニ爲ラス剩ヘ政府成立以來ノ大政策ノ眼目タリソ日本ハ今ヤ國民憤懣ノ的トナリ廣東トシテハ痛シ痒シノ破目トナリタル次第ハ汪精衛等モ本官ニ對シ卒直ニ露シ居ル處ニシテ自然羅文幹ノ見ルカ如ク廣東側モ相當ノ覺醒ヲ以テ和平ノ達成ヲ計ルモノト見ルコト自然ナリ

二、蔣介石モ總司令ノ職ハ斷然擲タストスルモ之ニ相當ノ讓歩ヲ爲スノ用意アルヘキハ今次和平代表ニ陳銘樞ヲ加ヘ居ル點ニ見テモ察セラルヘク從テ廿八日以降香港ニ於テ行ハルヘキ雙方代表者ノ商議ニ依リ時局或ハ急轉直下ノ變化ヲ來スヘキヤニモ觀測セラル

三、然ルニ茲ニ注意ヲ要スヘキハ廣東政府部内ノ結束ニシテ汪精衛ハ其主張タル武力解決其他小銀貨鑄造停止等ノ小問題ニ至ル迄陳古派ノ讓歩ニ依リ一應形付ケタル爲（脱）從前ノ如ク所期ノ目的ニ精進シツツアル理合ナルモ何シロ其主張シタル日華親善政策ノ遂行ニ重大ナル頓座ヲ來シ居ル一方元々古、陳派ハ左シテ大亞細亞主義等ニ熱モナク濟棠ノ如キハ兩廣少クトモ廣東ニ

四、汪精衛ハ飽迄蔣介石カ全官職ヨリ去ルヘキヲ斷乎トンテ主張スヘキハ汪力胡漢民ト犬猿タダナラサル關係ニアルヨリ自然想像シ得ヘキ所ニシテ形勢前述ノ如ク胡陳派ノ主張勝ヲ制スルニ至ランカ豫テノ觀察ノ如ク汪陳友仁ハ場合ニ依リテハ廣西派ト共ニ一時舞臺ヲ去ルコトトナルヘシ只孫科ハ今迄ノ所汪ト歩調ヲ共ニシ殊ニ日華關係ニ付テハ立役者ナリシカ故ニ胡陳派ト行動ヲ共ニスルカ如キコト萬ナカルヘシトハ一應肯定セラ

ルモ胡陳派ハ必死トナリテ孫ヲ勧誘スヘク且先般一時汪力離廣シタル際ノ孫ノ態度ニモ微シ或ハ胡陳派ニ引摺ラルニアラスヤトモ觀測セラル

五、何レニスルモ結果ノ如何ハ勿論香港ニ於ケル商議ノ經過ニ徵スルノ外ナク此ノ間幾多ノ掛引アリ中々妥結點ニハ至ラサルヘキモ學良カ蔣介石ニ持込ミ滿洲事件解決ヲ控ヘ居ル此ノ際日本ニ對シ強ク主張ヲナスコト一般國民ノ意思ニ投スル次第ナルカ故ニ和平運動ノ推移カ我方ニ及ホス影響實ニ鮮カラサルモノアリト存セラル

當方面ノ我方ニ對スル態度ハ既電ノ通り今尙控目ニシテ現ニ陳友仁ノ發表セル「ステートメント」モ極メテ穩健ニシテ各新聞紙等モ其案外物足ラサルニ慊焉タラサルモノノ如ク其他各要人モ本官等ニ對シ表面ハ兎モ角事實上極メテ慇懃ニシテ曩ニハ武器供給ノ不履行顧問派遣問題ノ默殺等ニテ大イニ激昂シタル孫科ノ如キモ

ニ夜綺麗ニ之ヲ水ニ流シ大イニ氣向キツツアリ殊ニ最近香港ニ於ケル中國人ノ暴行ニ刺戟セラレタル當方

於ケル實權ヲ許サルルニ於テハ或ハ蔣介石ノ總司令職保持ヲ認メテ一致對外ノ主張ヲ爲スコトモアルヘク殊ニ古應芬ノ如キハ當政府成立當初ニ當リ本官ニ對シ四監察委員ノ目睹スル處ハ

大義名分ニシテ必スシモ蔣個人ヲ排セントスルモノニアラス其ノ周圍ノ宋、孔等ノ小物ニシテ除去セラレ獨裁政治ノ實薄ラクニ至ラハ吾人ノ主張一應徹底スル次第ナリト明言シタルコトモアリ（既電）旁滿洲事件ニ關スル國民的憤慨ニ投スル爲或ハ汪陳友仁孫科等ノ仕組ミタル大亞細亞主義ノ主張ヲ棄テ俄然南京派ノ和議ニ呼應スルコトナキヲ保セス

五、就テハ當政府從來ノ親日氣分ハ事態今日ノ如キニ至リテモ變ラサル程度ノ相當根強キ主張ニシテ御世辭一通ノモノニ非サルハ既ニ報告ノ通ナルノミナラス往電第四四四號ノ解決試案ハ假ニ理想案ニ過キストスルモ兔モ角滿洲問題ノ解決ハ「ステイタスクオ」ヲ破壊シ近代政治家的見地ヨリ殊ニ日華兩國ノ大局ヨリ新ナル解決ヲ來スヲ要スト主張シ居ル次第ナレハ既ニ御詮議中トハ存スルモ前記解決試案ニ對シ至急何分ノ御趣旨ヲ御回示相成幾分ナリトモ我方ニ有利ニ和平問題ノ解決決

ヲ導カシムル様致シタシ

公使ヨリ上海、漢口へ轉報ヲ請フ

公使、北平、哈爾賓、奉天、天津、濟南、青島、南京へ轉

電シ香港へ暗送セリ

留セシメ居ル力當分何處ニモ行カサル筈ナリ云々ト内話セリ

公使ヨリ上海ニ轉報相成リ度シ

在支公使へ轉電セリ

北平、青島、奉天、天津、廣東、南京、芝罘、坊子、關東

長官へ暗送セリ

888 昭和6年9月29日 在濟南西田總領事より 币原外務大臣宛(電報)

韓主席が石友三は濰縣に滯留せしめおり当分

何処にも行かざる筈なりと内話について

濟南 9月29日後発
本省 9月29日後着

第二〇一號(極秘)

本月十八日附機密第四二〇號拙信ニ關シ

昨二十八日本官韓主席ニ會見ノ際韓ハ石友三ノ身上ニ言及シ石ト自分トハ公的ニハ兎ニ角私交上ノ情誼ニ依リ同人ノ失敗ヲ見殺シニスル事ヲ得サルヨリ一時大連方面ニ隠逃セシメントセシモ同方面ニ對シテハ貴方ノ御意向モアリ又日本ニ直行セシムルモ如何ト考ヘラレ其後中央ノ態度ハ飽迄

石ノ出國ヲ追及スル程ニアラサルヨリ客月來石ヲ濰縣ニ滯

889 昭和6年10月5日 在奉天林總領事より 币原外務大臣宛

全滿日本商工會議所連合会の満鐵および日本

人商工会建直し建議案可決について

付記 十月三日付

「遼省通貨問題解決私見(邦人權益ノ實質的擁護策私見)」

機密第七八八號

昭和6年十月五日

在奉天

外務大臣男爵 币原喜重郎殿

總領事 林久治郎〔印〕

(10月12日接受)

滿鐵及日本人商工界ノ建直シニ關スル件

客月二十八日當地ニ開催セン全滿日本商工會議所聯合會ハ時局ニ關シ閣下並ニ關係ノ向ヘ電請セル處アリタルハ既ニ御承知ノ通ナル處同聯合會ハ右ト同時ニ滿鐵及滿洲商工界建直シ建議案ヲ可決シ閣下並ニ關係筋ニ請願セル趣ナルカラ請願ノ内容及討議ノ模様ヲ見ルニ(一)滿鐵ノ貨客運貨及撫順炭價ノ低減ハ聯合會ニ於テ討議ノ委員中ヨリ滿鐵ハ中國側トノ競争上自ラ進シテ之力研究實行ヲ圖ルヘク又既ニ其一部ハ實行シ居ルモ右ハ滿鐵本位ナル嫌アリ現ニ四洮線ヨリノ出廻リ貨物及營口經由輸移入品ニ對シ特別割引行ハレ居ル如キモ之ノ特惠ヲ受クルモノハ殆ト中國人ノミニシキ恨アリ此點ヲ考慮シ居レリヤトノ質問アリ發議者ヨリ右ハ充分考慮ニ入レ實行運動ニ着手スル意向ナリトノ釋明アリシテ大ニ注意ニ値スヘキモノナルカ如シ(二)滿鐵一般株主ニ對スル配當引下ケ及政府持株ニ對スル配當ヲ一時中止スル件ハ發案者側ハ之ニ依リ前項鐵道運貨及炭價ノ引下ヲ行

フ趣旨ナリシト說明シタルニ對シ委員中ニハ廣ク一般產業助成金ニモ利用スヘントノ修正動議アリタル處發案者側ヨリハ政府配當金等ノ滿蒙ニ於ケル產業助成金ニ充當スヘントノ議論ハ久シク唱ヘラレタル所ナルカ漫然タル抽象論ヲナスハ之力實現ヲ期スル所以ニ非サルカ故ニ對案ヲ示シタルニ過キス補助金等ヲ除外セル趣旨ニ非スト釋明アリ改動議者モ右釋明ニ満足シ動議ヲ撤回セリ(三)滿鐵内部ノ緊縮ハ別ニ異論ヲ見ス遂ニ本件ノ提案ハ其儘本案ノ可決ヲ見タル次第ナル力卑見ニ依ルニ滿洲ハ日本ノ延長ノ如クナラシムル方針ノ許ニ邦人ノ利益増進ヲ謀ルコト必要ナルモ滿洲カ中國ノ一部ニシテ中國人ニハ殆ト無制限ニ移住及營業力自由ニ行ハルト共ニ其移住者ハ活動力ノ旺盛ニシテ艱難辛苦ニ耐ユル体质ヲ有シ極メテ低キ生活ヲナシ得ル民族ナルニ反シ滿洲ニ於ケル日本人ノ生活ハ日本内地ニ於ケルヨリモ極メテ高級ナルカ爲ニ中國人トノ競争ハ益々困難ニシテ双方實力ノ相違ハ人口增加率ニモ比例シ年と共に其距リヲ加ヘ居ル實情ナル鑑ミ在滿邦人ハ其生活ヲ抑制スルニ努メ中國人トノ生活程度ノ差異ヲ接近セシメ競争力ヲ養成スルコト肝要ナルト共ニ邦人ノ事業ヲ指導シ且其助成ノ爲

更ニ一段ノ考慮ヲ加フルノ要アルヘク本件請願要綱ハ前顯
卑見ニ合致シ極メテ機宜ヲ得タルモノト思料セラルニ付
本省ニ於テモ本件趣旨實現方充分ノ御配慮ヲ煩シ度右申進
ス

(欄外記入)

林總領事モ今意見ナル趣ナリ

(付記)

遼省通貨問題解決策私見 (昭和六、一〇、三)

(邦人權益ノ實質的擁護策私見)

(一)遼省通貨ノ危機

關東州及滿鐵附屬地ヲ除ク南滿一帶ノ通貨タル奉天票ハ大正十三年以來其ノ不換紙幣タルニ因ヲ發シテ累年低落ニ低落ヲ重ね來レルモ政權ノ威力ト價格釣上策トニ依リ通貨タル實ヲ失フニ至ラサリシカ張作霖没後ニ於テハ落勢愈急ヲ示シ動モスレハ通貨ノ職能ヲ失セムトシ一昨年以來遂ニ現大洋票ナル硬貨ト同様ノ通用力アル新紙幣ノ發行ヲ見ルニ至リ茲ニ前述ノ奉天票ハ早晚之レカ整理ヲ要スル運命ニ陷

ラサルヲ得サルニ至レリ然ル處此矢先滿洲事變突發シ政權覆滅セルヲ以テ茲ニ前述奉天票ハ理論上形勢急轉シテ信認流通ノ基礎ヲ一舉ニ喪失シ前顯現大洋票トテモ其ノ大部分カ政權財政機關ノ發行ニ係ル關係上當然兌換不能ヲ豫想サレ之亦奉天票同様通貨資格ヲ失ヒ流通ニ支障ヲ生スルト共ニ非常時通貨タル銀元等カ之等ニ代リテ流通ヲ見ルヘキ次第ナルカ右ニ關シ奉天ヨリハ物價ノ暴騰セルコト及中交兩銀行紙幣ト官銀號邊業銀行紙幣トカ無差別ニ流通シ居ルコトヲ報告シ來レルニ止マリ右物價ノ建貨幣並前記四行紙幣ノ現大洋又ハ金票ニ對スル比價、硬貨出現ノ有無等ニ關シ報告ナキヲ以テ現在トシテハ單ニ右四種紙幣カ受授サレ居レル事實ヲ窺知シ得ルニ過キス從テ奉天票及現大洋票ハ現在如何ナル情勢ニ在ルヤ將又如何ナル貨幣カ如何ナル流通ヲ爲シ居ルヤ實情目下全然不明ナル次第ナリ

乍併今日之等紙幣カ依然流通シ居レリトスルモ一切ノ經濟機關活動ヲ停止シ居レルヲ以テ其ノ流通受授ノ限度ハ食糧品購入交通費支辨等要スルニ極メテ僅少ナル數額ニ過キサルヘク從テ其ノ受授價格ハ硬貨ヲ除キテハ使用者ノ裁量認定ニ出ツルモノニシテ右價格ヲ以テ之等紙幣ノ經濟界及一

シテ活動シ居レルハ邦人ニシテ邦人ハ金票ヲ使用シ居レルコト、危機襲來ハ經濟機關特ニ錢商及取引所ノ營業休止ニ依リ喰止メ居レルコト、奉天華民ハ未タ自己存否ヲ專念シ金錢顧慮ノ時期ニ達セサルコト及最後ニ遼省幣制金融統制機關タル官銀號カ死活ノ岐路ニ立テルコト等ヲ以テ之ニ應セムトス

(二)我方ハ遼省通貨金融問題ニ關シ責任者トナル虞アリ我軍ハ奉天附屬地外占據ト同時ニ官銀號邊業銀行、中國銀行及交通銀行ノ保管ヲ開始セルカ最近中交兩銀行ノ保管ヲ解除シ他二銀行ハ依然トシテ保管ヲ繼續シ居リ而シテ右金融機關ニ對スル措置ニ關シテハ軍側ニ於テ何等其ノ理由根據等ヲ聲明シ居ラサル爲其ノ趣旨頗ル不明ナルカ右ニ對シ充分ノ用意ヲ爲シ置カサレハ一朝金融動亂勃發シ中外ヨリ事情説明、權利確認等ノ要請アランカ我國ハ相當窮境ニ立ツコトナキヲ保セス右ハ本項說述事項ト關係薄キヲ以テ之ヲ省說スルモ前記保管繼續二銀行特ニ官銀號ノ保管繼續ハ其ノ理由ノ何タルヲ問ハス同號カ奉天政權ノ財政機關タル以外満洲幣制守護機關、滿洲金融統制機關、滿洲預金機關タルノ性質職能ヲ有スルカ故ニ右ノ保管繼續即

参考、前述奉天通貨破綻論ニ對シ或ハ現在流通ノ事實及危機襲來ノ兆ナキコト等ヲ以テ駁論ヲ生セムモ右ニ對シテハ前述ノ現時流通額ノ僅少ナルヘキコト、主ト

チ業務停止ハ幣制、金融、預金ノ運用停止ニ外ナラスシテ更ニ右ノ結果ハ幣制停止ニ在リテハ發行遮斷、兌換停止、發行券價格動搖、取引、物價、計算等ノ基準動搖等ヲ又金融停止ニ在リテハ金利統制機能停止、諸銀行其ノ他關係先トノ連絡切斷、資金供給停止、同號管理企業動搖等ヲ更ニ預金運用停止ニ在リテハ預金銀行及一般預金者ニ對スル預金ノ預入又ハ引出停止等ヲ伴ヒ而シテ之等ノ諸影響ハ滿洲其ノ他各地社會各層ニ及フヘキヲ以テ一步措置ヲ誤ラハ由々數事態ヲ招來スヘシ今日奉天等各地ハ未タ混亂狀態ニ在リ且關係華民ハ時局ノ重大ニシテ輕舉ヲ許サルコトヲ知レルニ依リ未タ何等本問題ニ觸ルモノナキ様子ナルモ憂フル所ハ奉天ニ有力ナル政權確立セサルカ又ハ右確立スルモ通貨問題ノ處置宜シキヲ得サルカ又ハ我軍保管永續スルモ又ハ右ノ場合官銀號ニ代ル銀行出現セサルカ其ノ場合ノ如何ヲ問ハス要スルニ右ノ通貨基礎不安ニ陷ルニ於テハ前述諸影響ハ茲ニ夫々混合集結シテ豫測スヘカラサル禍害ヲ現出スヘキ危險襲來スルノ虞アルコトナリ不幸ニシテ右事態具現スルニ於テハ我方ハ如何ナル辯疎ヲ試ムトモ將又保管開始當時眞ニ已ムヲ得サル事情アリタリトスルモ國際的口、奉天票ニヨリテ官業ヲ興セリ

打通、奉海、奉吉線等ハ其ノ顯著ナルモノナルカ其ノ他道路築設物等詳査セハ實ニ多大ナルヘン此見解ニ對シテハ色々議論アラムモ奉天省歲入ハ普通四千萬元ト認メラレ又之等鐵道等ノ建設ニ當リ特ニ外資吸收ノ事實ナキ點ニ顧ミ誤ナシト存ス（本件ハ我方ニ對シ條約違反問題並満鐵營業壓迫問題ヲ發生セリ）

ハ、奉天票ニ依リテ官商企業簇生セリ

政權内高官者ハ其ノ地位ヲ利用シ腹心ノ政商ヲシテ満洲各地ニ軍糧被服等各般ノ軍需品商社工場、特產物賣買、油房、製粉、倉庫其ノ他諸般ノ企業ヲ興セリ（本件ハ我方ニ對引、我方取引所華人取引人ノ同所出入、錢鈔及特產ノ

シテ更ニ右ノ結果ハ幣制停止ニ在リテハ發行遮斷、兌換停止、發行券價格動搖、取引、物價、計算等ノ基準動搖等ヲ又金融停止ニ在リテハ金利統制機能停止、諸銀行其ノ他關係先トノ連絡切斷、資金供給停止、同號管理企業動搖等ヲ更ニ預金運用停止ニ在リテハ預金銀行及一般預金者ニ對スル預金ノ預入又ハ引出停止等ヲ伴ヒ而シテ之等ノ諸影響ハ滿洲其ノ他各地社會各層ニ及フヘキヲ以テ一步措置ヲ誤ラハ由々數事態ヲ招來スヘシ今日奉天等各地ハ未タ混亂狀態ニ在リ且關係華民ハ時局ノ重大ニシテ輕舉ヲ許サルコトヲ知レルニ依リ未タ何等本問題ニ觸ルモノナキ様子ナルモ憂フル所ハ奉天ニ有力ナル政權確立セサルカ又ハ右確立スルモ通貨問題ノ處置宜シキヲ得サルカ又ハ我軍保管永續スルモ又ハ右ノ場合官銀號ニ代ル銀行出現セサルカ其ノ場合ノ如何ヲ問ハス要スルニ右ノ通貨基礎不安ニ陷ルニ於テハ前述諸影響ハ茲ニ夫々混合集結シテ豫測スヘカラサル禍害ヲ現出スヘキ危險襲來スルノ虞アルコトナリ不幸ニシテ右事態具現スルニ於テハ我方ハ如何ナル辯疎ヲ試ムトモ將又保管開始當時眞ニ已ムヲ得サル事情アリタリトスルモ國際的口、奉天票ニヨリテ官業ヲ興セリ

打通、奉海、奉吉線等ハ其ノ顯著ナルモノナルカ其ノ他道路築設物等詳査セハ實ニ多大ナルヘン此見解ニ對シテハ色々議論アラムモ奉天省歲入ハ普通四千萬元ト認メラレ又之等鐵道等ノ建設ニ當リ特ニ外資吸收ノ事實ナキ點ニ顧ミ誤ナシト存ス（本件ハ我方ニ對シ條約違反問題並満鐵營業壓迫問題ヲ發生セリ）

ハ、奉天票ニ依リテ官商企業簇生セリ

政權内高官者ハ其ノ地位ヲ利用シ腹心ノ政商ヲシテ満洲各地ニ軍糧被服等各般ノ軍需品商社工場、特產物賣買、油房、製粉、倉庫其ノ他諸般ノ企業ヲ興セリ（本件ハ我方ニ對引、我方取引所華人取引人ノ同所出入、錢鈔及特產ノ

二ハ本件責任ヲ負ハサラムトスルモ能ハサル羽目ニ陥ルヘシ

（帝國權益ノ實質的崩壊挽回ノ好機）

遼省通貨力大正十三年來低落ノ一途ヲ辿リ遂ニ之ヲ調整スヘキ新貨幣（現大洋票）ヲ必要トスルニ至リ而カモ此間六億元ノ發行額ヲ有スル舊通貨ノ處理策ヲ講スル所ナク徒ニ幣制ヲ紊亂セル次第ハ既述ノ通ナル所更ニ注意スヘキハ右通貨發行機關タル官銀號ハ右幣價低落以來右通貨力政權ノ威力ニ依リ低落ニ頓着ナク單ニ通貨タル實質ヲ失ハサルヲ奇貨トシ茲ニ金融力ヲ着々増大（紙幣濫發）シテ資本上ヨリ在滿邦人企業貿易ノ驅逐ヲ圖レルコトナリ右ハ一面ニ於テ通貨低落ノ一大原因ヲ組成セルモノナルモ之等經濟論議ハ別トシ右ノ如ク通貨ト通貨發行機關トハ其ノ本來ノ職能ヲ株守セスシテ一方幣制ヲ紊亂シ他方我方權益ヲ條約ノ裡面ヨリ崩壞ヲ圖レルコトハ此際大ニ考慮ヲ要スル次第ナリ（華民モ深刻ナル損害ヲ蒙リタルコト勿論ナリ）右ニ關シ便宜上之ヲ奉天票ノ禍害トシテ説述セハ左ノ通ナリ

イ、奉天政權ハ奉天票ヲ財源トセリ

方企業貿易ニ重大ナル損害ヲ與ヘ將來ノ發展ヲ期スルヲ得サラシメタリ即チ結果ヨリ見レハ通商條約精神ヲ無視セルコトトナル

二、發行銀行タル官銀號邊業銀行ハ企業ヲ兼營セリ

周知ノ特產物ノ一手買占一手輸出等ハ特ニ顯著ナル事例ニシテ之力爲ニ大連邦人油房業ハ原料高原料入手難ニ陥リ數年來休止ノ悲運ニ陥リ又滿洲邦人ノ最大ノ企業タル特產物商ノ活動ヲ封壓セリ（本件モ前項末尾ト同様ノ影響又ハ問題ヲ生シタリ）

（註特ニ説明ノ要ナカルヘキモハ、二、ノ二項力苦モナク遂行サレ且成果ヲ得タル所以ハ奉天票ハ政權者ヨリ見レハ殆ト「コスト」ナキ俗ニ云ヘハ「タダ」ノ資金ニシテ隨時發行使用スルコトヲ得ルニ依リ如何ナル高價ノモノト雖モ入手シ得（買占買賣自由）ルト同時ニ如何ニ金融梗塞ノ際ト雖モ融通自在ナリシニ基ク次第ナリ）

ホ、政權者ハ奉天票釣上ノ爲邦人商社ノ營業ニ損失ヲ與ヘタリ

奉天票相場激落スルトキハ金票賣買、金票手持、金票建取引、我方取引所華人取引人ノ同所出入、錢鈔及特產ノ

先物取引ヲ禁止シ違反者ノ銃殺等ヲ以テ禁令ノ徹底ヲ期

シ其ノ結果邦人商社ハ舊諸般ノ損害ヲ被リ營業不安ニ陥
リタル事實枚舉ニ遑アラス（特ニ華商側ハ禍害更ニ深刻
ニシテ倒産者巨多ニ上レリ）本件ノ誘致セル影響及問題

亦前項ノ通

ヘ、州外關東廳取引所ニ於テ常ニ相場ヲ不自然ニ操縱シ屢
立會ヲ停止セシメタリ

申迄モナク政權者及關係者ハ自身ニ於テ奉天票ノ真價ヲ
知リ居リ又海外支拂若ハ外貨建支拂ニハ金票鈔票等ヲ要
スルカ故ニ常ニ之ヲ金票又ハ鈔票（正金銀券）ニ引換フ
ルコトヲ要スルト共ニ自國民及政權財政ノ利益ヲ維持ス
ルカ爲奉天票相場釣上ノ爲同票ヲ回収スルコトヲ要ス右
ノ場合當然爲替機關ヲ要スル次第ニシテ當初我方取引所
及中國取引所ヲ利用セリ然ルニ自國側取引所ニ於テ動モ
スレハ奉天票不信認相場ヲ顯出スルカ故ニ閉鎖ヲ命シ爾
來前記爲替行爲ニ付テハ全然我方取引所ヲ利用スルコト
トナレリ茲ニハ詳説ヲ略スルモ右ノ結果ハ「ヘッディン
グ」ノ如キ弊害ヲ滋生セリ（本件ノ結果ハ通貨ノ不安定
ヲ來シ從テ各方面ニ亘リ廣汎ニシテ鮮少ナラサル損害ヲ

（與ヘタリ）

ト、軍事行動頻發トナリ財界動搖セリ

奉天票材源化ニ依リ省庫富裕トナリ政權ノ基礎愈固ク作
霖學良ヲシテ或ハ大元帥或ハ副總司令ノ地位ヲ獲得セシ
メ此間關内出兵關内占領ヲ行フ等軍事行動頻繁トナリ又
其ノ結果財政膨脹シ奉天票相場ヲ通シテ滿洲財界ヲ動搖

セシメタリ

チ、奉天票ノ動搖ハ我方企業貿易ヲ不振ナラシメタリ
右ハ既述各項ニ依リ明カナルカ茲ニ特ニ一言スル所以ハ
奉天票相場時々ノ激變ハ其ノ都度貿易商工業等ニ對シ共
ニ代金取立不能、注文ノ取消、注文品受渡不能、倉庫倉
敷料等諸拂及金利加増等各般ノ時々ノ取引ニ支障損害ヲ
與ヘ貿易企業等ヲ屢不安ナラシメ不測ノ損害ヲ與ヘタリ
奉天票ノ禍害ヲ說ケハ實ニ底止スル所ヲ知ラサル次第ナル
カ以上ニ依リテ我方國威、資本力、企業、貿易等力如何ナ
ル地位ニ導カレタルヤ容易ニ察知セラル次第ナリ而シテ
我方トシテ特ニ重視スヘキハ本件問題ハ條約上抗議ノ根據
薄弱ニシテ外交手段ヲ以テ之ヲ匡正スルコト難ク而カモ既
存既得ノ權益ハ刻々其ノ實ヲ失ヒ行ク（マ）ニアリ尤モ今日

ニ於テハ現大洋票ナルモノヲ流通セシムルコトトナリ此間
往昔ト趣ヲ異ニスルニ至リ大体事態改善サレ茲ニ我方資本
ノ活動ハ一道ノ光明ヲ認メ得ルコトトナリタリ併シ之逆無
條件ニ樂觀スルコト能ハサルハ論ヲ俟タス

奉天票ノ禍害斯ノ如シ

事情右ノ通ナルヲ以テ當時滿洲邦人財界ハ屢對策ヲ講シ關

係當局ニ對シ諸般ノ幣制改革案邦人金融案等ヲ建議請願セ
シカ乍然之等諸案^{（舊邦）}ノ改革ノ必要ニ關スル論述ニ關スル限
リ昭々タル現實ノ弊害ニ顧ミ何等異存ナカリシ所ナルモ之
等對案ノ示ス具体的の方策ハ其ノ最大限度ノモノト雖モ何レ
モ有限發行（用語適切ナラサルモ準備不足ノ場合ハ填補ヲ
ニシテ到底政權側ノ無限發行ニ對抗スルコト難ク從テ何等
我方力政權側金融力又ハ資力ヲ調整スヘキ見込立タサル爲
根本ニ於テ案ニ缺陷ヲ有シ居リ旁諸般ノ事情ニ依リ採擇ニ
至ラサリシモ今日其ノ當時ニ於ケル事情ヲ回想スルトキハ

之等關係者ハ何レモ他日滿洲幣制改革ノ素志貫徹ヲ期シ居

恐ク近ク滿洲幣制問題解決要望興ルヘシ

以上ノ事情ニ依レハ帝國トシテ遼省幣制問題ヲ以テ單ナル
中國國內問題トシテ認メ去ルコトハ折角滿蒙權益擁護ヲ圖
ル上ニ於テ遺憾尠カラサル次第ナルカ去迎本問題ヲ正面ヨ
リ之ヲ中國側ニ提起スルハ帝國從來ノ内政不干涉聲明モア
リ困難ナルヲ以テ我方之ニ手ヲ觸ルル場合ハ此間其ノ處置
方ニ付愼重講究ヲ要スルモノアリ

乍併之ハ尙充分考覈ヲ要スルモ幸ニシテ我方ハ之等問題ノ
中核ヲナス官銀號ヲ保管シ居リ且前述ノ如ク右ノ保管ニハ
將來不測ノ問題ヲ勃發スル危險ヲ藏シ居ル關係上可成速ニ
之力處置ヲ付クノ要アルニ付此際多少ノ犠牲ハ之ヲ忍ヒテ
帝國ノ最モ希望スル所ニ從ヒ官銀號將來ノ幣制ノ素地ヲ造
リ一刻モ早ク之ヲ適當ナル理由口實（格別困難ナラサルヘ
シ）ノ下ニ中國側機關ニ保管轉換スルハ一策ニアラスヤト
思考ス之レ遼寧通貨改革又ハ帝國權益確保ノ好機ト稱スル
所以ナリ

（四）將來ニ於ケル適切且自然ナル遼省幣制
附、幣制改革ノ爲ノ措置

遼省現有通貨ハ奉天票約六億元現大洋票約四十萬元（奉天
報告）ナリト推定セラレ居レリ而シテ之等通貨ハ云フ迄モ

五 將來ノ兌換停止ヲ防止スル爲此際奉天ニ日華金融委員會ヲ設ケ官銀號ノ準備及發行ヲ監督統理セシムルコト

六、官銀號ノ發行關係以外ノ資產ハ可成之ヲ處分シテ現銀ニ代へ現銀ノ增加ヲ圖ルコト

七、遼省課稅ハ一切現銀建現銀取立トシ之ヲ官銀號ニ預入スルコト

幣制確立ノ素地ヲ造ラムトスルヤト云フニ之ハ充分専門家ヲシテ講究セシメ決定スルノ要アルモ左記各項ハ之ヲ其ノ骨子タラシメムト欲スル次第ナリ

一、地方維持會ヲシテ市面安定ノ爲官銀號及邊業銀行ノ現大洋票兌換ヲ布告セシムルコト（本項ニ付テハ別添調書ヲ參照セラレタシ）

二、右ト同時ニ軍ニ於テ右兩行ノ地方維持會移管ノ旨ヲ明カニスルコト

三、官銀號ノ資產勘定ノ處分ニ關シテハ一切ノ責ヲ地方維持會ニ負ハシムルコト

四、預金等ノ拂出ハ地方維持會ノ裁量ニ一任スルコト

ナク前者ハ制限兌換ノ銀元後者ハ無限兌換ノ銀元ニシテ基礎貨幣タル硬貨ノ銀圓（俗ニハ銀元又ハ現大洋ト稱ス）ニ對シ奉天票ハ主トシテ政權ニ對スル信認ノ程度ニ依リ比價ヲ立テ（相場ハ我方取引所ヲ中心トシ一般日華錢商ニ於リ卽チ遼省通貨ハ結局銀圓ヲ「スタンダード」トシテ流通スル貨幣ナリ故ニ適正ナル理由ナク此傳統ヲ無視シテ茲ニ新ニ銀圓又ハ右以外ノ「スタンダード」又ハ貨幣ヲ流通セシムルハ先ツ華民ニトリ迷惑至極ナリ茲ニ於テ最モ自然ナル「スタンダード」貨幣ハ銀圓ナリトス

次ニ滿洲在住華民ハ數千萬ト稱セラルルモ其ノ大部分ハ農民ニシテ他ハ商人ナル力之等農民ハ本位ノ何タルト貨幣ノ何タルトハ恐ク痛切ナル問題ニハアラサルヘキモ之ニ反シ商人トシテハ其ノ資本系統ニ於テ其ノ取引關係ニ於テ其ノ金融關係ニ於テ中國本部ト最モ密接廣汎ナル連絡繫續アルヘキニ付本部各省ト同様ノ「スタンダード」及貨幣ヲ使用セシムルコト必要ナリ茲ニ於テ最モ適切ナル「スタンダード」及貨幣ハ銀圓ナリトス

附、遼寧省幣制改革ノ爲目下取ルヘキ措置

時ニ同様ノ幣制ヲ實行セシム本件ニ關シテハ更ニ本位確定
ヲ期スル爲造幣廠ノ設置問題アルモ茲ニハ之ヲ略ス

等ニ依リ所詮實行不能ナルヘシ故ニ遼寧省幣制ハ銀圓本位ヲ最適當トス而シテ右ニ對シ紙幣發行ヲ禁スルハ事實困難ナルニ付無限兌換券ノ發行ヲ認メ其ノ他三省ニ對シテモ同

トナル(ニ) 奧北ニ對シテノ法制上帝國ト同様ノ紀律取締
ヲナスコトヲ得ス(ホ)、滿洲及民國本部ヨリ金ヲ吸收セラ
ル(ヘ)、右回収ノ爲ニ特殊ノ方法ヲ講セサルヘカラス

本件ハ前述ノ理由ノミヲ以テシテモ充分ナルヘシ尤モ本件ニ關シテハ從來ヨリ金本位實施論（支那自身ノ金本位採用ハ所詮不能）アリ乍併右ハ

（1）、實情ニ適合セス（2）、金票增發（數千萬ノ人口增加ト同様ナル故）ニ對スル金準備ノ增加（）、内地滿洲間金利統一困難ナル爲資金移動頻繁ニ行ハレ双方共金融不安定

通シ我方意思ヲ申入ルルニ便ナリ

註二、政權側ノ金融力ハ國民政府ハ有限ナルモ東北側ハ無限ナリ此點ニ於テ我國資本力ハ國民政府治下ニ

ハ其ノ勢威ヲ發揮シ得ルモ東北ニ於テハ之ヲ發揮スルコト困難ナリ國民政府金融力ヲ有限ナリトス

ル理由ハ民國本部ハ現銀本位ニシテ從テ現銀ヲ調達セサレハ何事モ爲シ得ス而シテ現銀調達方法ハ

課稅力公債力徵發ナリ之等ニハ夫々限度アリ之

レ有限ナリト云フ所以ナリ之ニ反シ東北側ハ從來

不換紙幣ノ奉天票又ハ之ニ類似ノ紙幣本位ニシテ之等紙幣ハ政權ニ於テ自由ニ發行シ自由ニ流通價格ヲ操縱シ歲入不足ナルトキハ即チ此通貨發行ニ依リ均衡ヲ圖ルコトヲ得東北側ニ於テハ從來公債ノ發行極メテ少シ又不當課稅事件ノ如キモ他省ニ比シ頗ル少キハ此爲ナリ

編注一 「セ」の箇所に「ヘ」との書き込み訂正あり。

編注二 「舊」を書き込み削除あり。

編注三 「案」の後に「ハ」との書き込みあり。

編注四 「銀」の箇所に「金」との書き込み訂正あり。
編注五 「通」の後に「使用」との書き込みあり。

890 昭和6年10月22日 在ハルビン大橋總領事より 币原外務大臣宛

中ソ交渉における中東鐵道管理問題等に関する張壽增中國側専門委員の談話について

普通第一一八二號

昭和六年十月廿二日

在哈爾賓

外務大臣男爵 币原 喜重郎殿 總領事 大橋 忠一〔印〕

莫斯科ニ於ケル「ソ」支會議ニ關スル件

本件ニ關シテハ曩ニ屢報ノ次第アル處今般莫斯科ヨリ歸來セル同會議支那側専門委員張壽增ハ本月二十一日往訪セル當地漢字紙記者ニ對シ次要領ノ同會議談ヲナセル趣ナリ

一、東支鐵道問題

東支管理問題ハ最近既ニ一段落ヲ告ケ先々成功ト云フ可ク買收問題ハ協定文ノ解釋上彼我間不一致ノ點アリ

テ接近シ得ス買收大綱等モ未確定ニテ價格等ニ關シテモ貨幣等ノ専門的談判ハ未確定ナリ會議ハ相當永引クモノト思ハルモ大綱カ確定セハ一切ノ専門技術方面ハ之ト同時ニ解決スルコトトナルベシ

二、通商問題

「ソ」聯ノ貿易ハ國營ナルカ我國ニ於テ將來國營ノ原則ヲ採用スルコトノ是否ハ尙確定セス「ソ」ノ「ダン

ピング」ニ關シテハ通商條約未訂立ナル今日蘇聯側ニ是ヲ爲ス何等ノ根據ヲ有スルモノニ非ス「ソ」聯方面ニテハ「ハバロフスク」協定ニ「ダリバンク」「ソ」

聯石油「シンジケート」ノ如キ「ソ」聯國營機關ハ民右何等御参考迄ニ報告申進ス

本信寫送附先
在露大使 在中華民國公使 北平首席
奉天 南京各總領事領事

891 昭和6年10月22日 中谷閔東序警務局長より 满洲事變による東北マツチ專売制効力喪失に

條有ルニ依ル由ナルモ右ハ固ヨリ「ダンピング」ヲ確定的ニ准許シタモノニ非サルハ勿論ナリ

三、復交問題

「ソ」聯ハ革命以來十四年英國先ツ承認シ次テ佛獨支日等ノ各國亦承認セルカ其ノ主義ハ勿論支那トハ相容ルルモノニ非サルモ國交上ハ何等ノ支障ナク兩國ノ政治上亦全然無關係ナリ國交ハ世界ノ大勢ニ依テ定ムル

拓務次官殿

關機高支第一一九〇九號ノ二 (10月27日接受)
昭和六年十月二十二日

關東廳警務局長

外務次官殿

東北燐寸聯合會代表會開催

東北燐寸聯合會ハ今回ノ事變ニヨリ本年四月東北政府ノ燐寸専賣令モ其ノ効力ヲ失ヒ隨テ専賣制度實施上ニ缺陷ヲ生スルニ至リタルト且ツ聯合會ノ會長金哲忱力事件突發ト同時ニ奉天ヨリ逃走シ事實上専賣モ聯合會モ瓦解ノ状態ニ陥リタルヲ以テ之カ對策トシテ差當リ東北火柴聯合維持會ヲ組織スヘク七日午前十時ヨリ八島通寶山燐寸工場ニ於テ聯合會ヲ開催セルカ該會議ニ瑞典系日清、吉林兩燐寸工場專務取締役久保田彌兵衛出席シ之ニ加入ヲ申出タルヲ以テ一應會議ニ參加ヲ容認シ議事ヲ進メタルカ其ノ出席者ハ瑞典側久保田彌兵衛、社員稻次義一、同劉緝堂、寶山燐寸前田伊織、長春洋火工廠佐藤精一、吉林象志燐寸孫子俊、吉林金華燐寸孫君實、營口牲々燐寸、孫荆堂、營口關東燐寸泰懋斋、阿什河明遠燐寸楊聘三、呼蘭振興燐寸史緩明、奉天惠臨燐寸金聖符、黑龍江魯昌燐寸、譚興武、安東丹華燐寸吳玉衡、吉林泰豐燐寸宋心斋等燐寸會社代表十四名ニシテ、孫子俊ヲ議長ニ推舉シ議事ニ入り劈頭瑞典側ヨリ生産比率問題ヲ提議シ瑞典側ハ從來ノ生産比率ハ不公平ナリトテ

(從來支那側各工場ノ生産高五十五万六千五百十箱日本側(瑞典ヲ含ム)十六万六千九百四十箱、合計七十二万三千四百五十箱ナリ)十二万箱ノ生産比率權ヲ要求シタルヲ以テ一應瑞典側ト邦人工場主側ト別室ニ於テ懇談シタルモ纏ラス更ニ議場ニ諮詢リタルモ瑞典側ノ要求通り十二万箱ノ生産權ヲ附與スルコトトスレハ邦人側(寶山、長春)ノ生産カ四万六千箱ニ減少スルトテ邦人側前田、佐藤等極力是ニ反對シ日支全生產高ヲ百万箱トシ支那側七十万箱、日本側三十万箱トシ内瑞典側十六万箱、邦人側十四万箱トスル折衷案ヲ提議シタルモ、日、支、瑞、各議論百出シテ容易ニ決スルニ至ラス遂ニ午后十時未決ノ儘解散シ翌八日再會討議ノ結果漸ク各代表ノ意見一致シ結局支那側七十万箱、瑞典側十六万箱、邦人側十四万箱ニ生産割當協定成立シ其後引續東北火柴聯合維持會並ニ東北火柴公賣處ノ組織ニ就いて十日迄連日會議ヲ重ね各代表協調審議ノ結果維持會及公賣處ノ根本組織ヲ決定シ且瑞典側モ本會ニ加入スル事トナリ茲ニ昭和二年以來紛糾ヲ重ね來リタル東北省燐寸問題モ圓滿解決セリ、本會議ニ於ケル決議狀況並ニ東北火柴聯合維持會章程左ノ如シ

記

吉林衆志燐寸公司代表孫子俊議長司會ノ下ニ各議案左ノ通り決議セリ

一、今回ノ事變ニ依リ東北燐寸聯合同業會主席金哲忱北平ニ至リ専賣制度停止サレ公務進行不能トナリタルカ今後ノ處置如何

本案ニ對シテハ至急新ニ東北燐寸聯合維持會ヲ組織スルコトニ可決ス

二、東北燐寸總經理處ヲ如何ニスヘキカ
本案ハ總經理處ヲ廢シ新ニ東北火柴總公賣處ヲ設置スルコトニ可決

本件ハ當分ノ間經理處ニ於テ事務ヲ續行スルコトニ可決

職權執行ノ可否ニ關スル件

四、東北燐寸事業ノ永遠安全ヲ期スル爲メ生産比率ハ中國側十分ノ七、日本側ヲ十分ノ三(瑞典側ヲ含ム)トスルコトノ可否

原案通可決

五、滿鐵附屬地内ハ東三省外ヨリ輸入サルル關係上万一千

賣實行不能ノ場合ハ外貨ノタメ抵制サレ公賣處ノ買入價格ヨリ安價ニ販賣シ之ニ對抗スルコトアルヘン、因テ生シタル損害ハ會員全部ニ於テ分擔スルコトノ可否
本件此ノ場合公賣處ニ於テ日本官憲ニ交渉シ保護ヲ求メ可成外貨ノ侵入防止ニ努ムルコトシ尙損害ハ會員ニテ按分比例ニ依リ分擔スルコトニ可決

六、公賣總局ノ各工場ヨリ買入レル燐寸ノ價格決定ノ件
本件一箱ヲ舊定價ニ三十錢宛值上スルコト別紙賣上價格表ノ通可決ス

七、新定比例
各工場ノ新定比例別紙ノ如ク決定

八、東北火柴聯合維持會ニ加入セル各工場ハ燐寸ノ生産比率及定價ヲ嚴守シ完全ニ公賣總局ニ賣渡シ各自ニ賣却セサル事

右原案通可決

九、舊經理處ノ整理ハ舊經理處協理經理監查ニ於テ之ヲ行フ如何

右原案通可決

右別紙ノ通ニ決定

一、東北火柴聯合維持會章程
別紙譯文ノ通決定

二、東北火柴聯合維持會役員選舉ノ件

投票ノ結果左者當選就任決定

正會長 佐藤精一（長春燐寸工廠）
副會長 孫 荆 堂（牲々燐寸工場）
“ 孫 玉 衍（金華燐寸工場）
監察 吳 玉 衍（丹華燐寸工場）
久保田彌兵衛（日清燐寸工場）

茲ニ於テ新會長佐藤精一議長トナリ議事ヲ進ム
一、安全燐寸ニ關スル件

安全燐寸ハ第六條ノ規定ニヨリ硫化燐々寸ノ比例ニ基キ
其ノ生産額ノ十分ノ一ヲ製造スルコトヲ得、十分ノ一以
上ノ製造ハ硫化燐々寸ノ製造ヲ減少シテ安全燐寸ニ代ル
コトニ決定

二、安全燐寸ノ價格

一箱二百四十包、一包一千本以内トシ定價銀大洋十六元、
其他ノ大包ハ一包三千本以内トシテ銀大洋十七元五角ト

ス

以上定價ヨリ高價ナルモノハ公賣處ヨリ其價格ニ應シ生
産者ニ割戻シスル事ニ決定ス

三、日清、吉林兩燐寸會社カ四月以前ニ賣却シ或ハ奥地ニ
輸送セル二千箱ノ燐寸ニ對スル處分方法

右ハ印花ヲ貼付シ任意販賣セシムルコトニ決定

892 昭和6年10月27日 勞原外務大臣より
在漢口坂根總領事宛（電報）

江西、湖南両地方の軍隊配置狀況乃至共產黨
活躍の模様等情況查報方訓令

第一〇九號（暗）
本省 10月27日後5時45分發

最近中央直屬軍ノ江西、湖南引揚ケニ伴ヒ同地方共產軍ノ
抬頭懸念セラレ殊ニ長江筋大水災後ノ地方疲弊ハ共匪等活
躍ノ好箇ノ舞台タルヤニ想像セラルル處右形勢ハ中國今後
ノ政情判断上特ニ注意ヲ要スヘキモノト存セラル就テハ最
近貴地方ノ軍隊配置狀況（中央軍引揚ノ模様モ含ム）共匪
活躍ノ模様乃至一般經濟的社會的狀態等ニ付相当纏マリタ

ル情報取急キ御供給相成様致度

訓令トシテ長沙、沙市、宜昌、重慶へ轉電アリ度
尚訓令トシテ支ヨリ九江ニ轉電セシメタリ

参考トシテ支、上海、南京、廣東、福州、廈門、汕頭、蕪
湖、濟南、北平ニ轉電セリ

其ノ狀況左ノ如シ

座談會ノ狀況

二十九分長春着東支列車ニテ再ヒ來長直チニ長谷部第三旅
團長ノ案内ニテ南嶺及寛城子戰跡ヲ視察シ現場ニテ長谷部
旅團長ヨリ彼我戰況ヲ聽取シ大和ホテルニ投宿午后八時ヨ
リ十一時三十分迄大和ホテルニ於テ同地有力者ト満蒙時局
問題其他ニ關シ種々意見ヲ交シタルカ時局緊急ノ折柄トテ
其問答モ極メテ緊張セリ

昭和6年10月31日 中谷關東府警務局長より
永井外務次官他宛

貴族院中国視察團と長春有力者との時局に關
する意見交換について

關機高第一〇三九二號ノ二

昭和六年十月三十一日

關東廳警務局長

拓務次官殿

內閣書記官長殿

外務次官殿

內務省警保局長殿

貴族院議員ト長春有力者ノ座談會

貴族院議員第二班滿鮮旅行團一行ハ本月二十一日午后三時

時局前平時ニ於ケル排日ノ狀況ヲ承リ度シ

一、特産商石崎廣次郎

我々特産商ハ從來其ノ取引ニ於テ常ニ支那官民ヨリ種々ノ壓迫ト差別的待遇ヲ受ケタルカ當地ニ於テ商取引其他ノ場合邦商トシテモ華商ト同一ノ利益權利ヲ得タイト希望シテ居ル處テ其ノ實例ヲ舉クレハ華商ハ勿論殊ニ官商筋ハ支那官憲ノ保護ヲ受クルノミナラス不換紙幣ヲ濫發シテ之ニ依テ特產ノ買占ヲ爲シ、邦商ヲ壓倒シ又邦商ニ對シテハ不當差別的多額ノ出產稅ヲ賦課シ且ツ華商ハ居乍ラニシテ奉天或ハ哈爾賓、吉林其ノ他奥地ニ對シ自由ニ電活^(甚)通信ヲ爲シ得ルニ反シ邦商ハ城内又ハ電活局^(甚)ニ行カサレハ奥地トノ通信出來ス凡有點ニ於テ邦商ハ壓迫差別ヲ受ケ現在ノ不振ヲ來セリ

一、奥平取引所長

支那電信電話ノ過去現在ニ就テ説明セリ

一、八田議員

我等一行ハ南嶺及寃城子ノ戰跡ヲ旅團長ノ案内ニテ親シク見學シテ感慨無量實ニ大ナル刺戟ヲ受ケタリ即チ我軍ノ妥當機敏ナル行動ニ對シテハ唯々感謝ノ一語アルノミ、從來排日問題ニ就テ二箇ノ觀察力アリ

一、西本國際支店長

私ハ平常勞働者階級其他一般支那人ト接觸シ居レル力只今ノニツノ觀察ノ何レモ相當理由アルモノト思料スルカ由來支那國民性タル利己主義ノ國民トシテ觀ル時ニハ排日ヲ別段恐ルニ足ラストスルモ支那人一般教育ノ普及ニ伴ヒ青少年ノ國家意識ハ年々熾烈トナリツツアルヲ以テ是等青少年力成年ニ達シタル時ハ相當恐ルヘキモノト信ス

一、栗原正金支店長

現在ノ排日ハ主ニ年令三十才以下ニ者ニ於テ行ハレ四十才以上ノ者ニシテ眞ニ排日思想ヲ抱持スルモノ甚少シ

一、赤池議員

自分ハ支那ノ排日ヲ觀ル時ニ南支方面ノ排日ハ相當根底アリテ將來相當恐ルヘキモノト思料スルモ滿洲ニ於ケル排日ハ餘り懼レルニ足サルモノト思フ

一、赤池議員

支那民族ノ概況殊ニ漢民族ト滿洲族ノ歴史的關係ヲ詳述シ排日運動ノ勃發ト沿革ヲ論シ最後ニ現在支那ノ排

一、奥平取引所長

日本語ヲ特ニ教持シツツアリ
滿蒙ハ人種及歴史ヨリ見テ支那即チ漢民族トハ全然區別シ得ラレ滿洲ハ寧ロ朝鮮トノ關係密接ニシテ又漢民族ニ於テモ近世迄滿蒙ハ支那ノ領土ナリトノ觀念ハ極メテ薄弱ナリキ、故ニ種々ノ點ヨリ考察シテ滿蒙ニ對シテハ此際確固タル我權益ヲ主張確立スルノ要アリ、ソレニ就テハ排日ノ現在及將來ニ對シテ研究觀察ノ要アリ

一、樺岡地方事務所長

滿鐵ノ支那人子弟ノ教育ハ最初期ニ於テ同化主義ヲ採リタルモ數年前ヨリ此レヲ放棄シ教科書等モ支那人ニ適應スル教育方針ニ變更シ學生將來就職上ニ必要ナル

其ノ一ハ支那ノ排日ナルモノハ支那政治家軍閥等力自已ノ地位ヲ擁護スル方便ニシテ眞ノ排日ニ非ラス、唯表面的ノモノナリト云フ觀察ト他ハ最近支那ニ於ケル排日ハ國民一般ノ愛國的新興思想ニシテ將來恐ルヘキ重大問題ナリト觀察スルモノアリ、何レカ正シキヤ多年支那ニ在留スル諸士ノ實際經驗サレタル觀察如何排日一部學生並ニ政治家ノ爲ニセントスルモノニシテ恐ルヘキモノニ非ラスト觀測スルモノ多シ、

今回來滿視察ニ當リ特ニ此ノ點ヲ探究シ歸國ノ上國民ノ輿論ヲ正シク導キ度イト存スル故ニ特ニ此點承リ度イ

日本ノ教育ヲ受ケタルモノニ多キハ誠ニ考慮スヘキコトナリ

一、中山三井物産主任

滿洲ノ支那人ハ南方人ニ比シ質朴溫順ニシテ滿鐵ノ文
化施設ニ對シテ感謝シツツアリ

滿洲ノ排日ヲ根絶セシムルニハ再ヒ張學良ノ滿洲入ヲ
拒絶シ以テ南方ト滿蒙ヲ完全ニ隔離スルニアリ

一、赤池議員

當地方ニ於ケル支那學生ノ排日狀況如何

一、田代領事

當長春ニ於ケル支那學生ノ排日實況ヲ説明

一、中山三井主任

滿洲ニ於ケル支那學生ノ排日モ南支ト東北省トノ政權
ヲ隔離セハ格別問題ナント思フ

一、中村議員

自分ハ御維新前ニ生レテ維新當時ハ子供乍ラ當時ノ狀
況ヲ見聞シタルカ維新ノ大業ハ殆ント十七八才以上三
十才迄ノ青年ガ中堅トナリテ成就シタモノテ支那學生
ノ排日ハ決シテ馬鹿ニ出來ヌト思フ

此ノ學生等力成シタル將來ニ於テハ現在思想ノ中心
ナキ支那モ愛國犠牲的精神性大部ノ民衆ニ涵養サレ重大

ナ時期カ來ルト思フ、

御維新當時四十才以上ノ者ハ大部分カ天子様、徳川様
何レノ天下トナリテモト云フ思想テアツタ様ニ記憶ス

ルヲ以テ此ノ青年學生ノ思想ノ將來等ヲ閑視スルコト
ハ出來ヌト思フ

一、赤池議員

當地方支那兵ノ排日思想如何

一、長谷部旅團長

支那兵卒間ノ排日思想ハ格別ナイカ指揮スル將校ニハ
相當濃厚ナルモノアリト前提シ、蔣介石國民軍ヲ指揮
シ北伐シ中國統一迄ノ經過ト國民思想統一ニ不平等條
約撤廢排日ヲスローガントシテ軍民ノ意氣ヲ振作シ目
的ヲ達シタルコト及ソ聯邦ノ軍隊ノ組織主義宣傳ノ方
法等ヲ引例詳述シ更ニ支那ノ排日トシテ主張ノ主ナル
モノハ商租權問題テアル

邦人力如何ニ努力シテモ本問題カ解決セヌ以上邦人ノ
發展ハ望マレス、然ニ支那ハ商租問題ニ就テハ土地盜
賣令等ノ國內法ヲ定メ我權益ヲ阻止シ居ルコトハ排日
ヲ法規ニ制定シ居ルト同様ナリ

一、赤池議員

最近内地ニ於テモ黨部ト國民政府ノ關係ヲ問題トシテ
研究中ナリ今後日支事變ノ解決ニハ本問題ノ研究ハ最
モ緊要事ナリト思フ

一、山崎議員

國民政府ト國民黨トハ不可分ノモノニ付黨部ノ排日侮
日行爲タルヤ勿論國民政府ノ責任ナリ
支那ハ總テ排日ニ對スル責任ヲ黨ト政府カ互ニ同避ス
ル傾向アルハ考慮スヘキコトト思フ

一、奥平取引所長

内地ヨリ「今回ノ時局カ永引テハ經濟的打擊アルモノ
ト思フ、在滿同胞ニ覺悟アリヤ」ト質問シ來レルカ在
滿同胞ハ小ナル犠牲ハ覺悟シ居レリ
トシテ如何ニ宣傳シ來レルヤ

一、赤池議員

在滿同胞ノ意見ハ東北ヨリ學良ヲ驅逐シ進ソテ國民政
府ヲ倒セト云フ意見ニ聞ヘルカ是レニ對スル在滿邦人
トシテ如何ニ宣傳シ來レルヤ

一、中山三井特產主任

全滿青年聯盟其他團體ニ於テ内地遊說其他商工會議所

ハ常ニ内地ノ團体ニ情報シ輿論ノ喚起ニ努メ居レリ

一、土岐議員

錦州事件ノ折北京ニイタカ或ル重要地位ニアル邦人力
我軍ノ行動ニ對シ多少批難シ居タルカ又國際聯盟モ之

レヲ重大視シツツアリ

然ルニ來滿視察後初メテ軍ノ行動カ止ムヲ得サル軍事
行動ナリシコトカ判然シタ
國際聯盟等カ誤解シタル原因ハ全ク在滿邦人ノ宣傳ノ
不充分ナル結果ト思フ

一、大河内議員

從來在滿邦人ハ勿論滿鐵等ノ母國ニ對スル宣傳方法カ
徹底ヲ缺ク爲メ貴族院方面ハ全ク滿蒙問題ノ知識不足
テアル

一、八田議員

滿洲問題カ内地テ喧シクナリ出シタノハ九月上旬頃テ
旬日ナラスシテ此ノ事件ニ遭遇シタ滿洲問題ノ認識不足
カラ國論ノ不統一モ止ナキ事テアル

一、大河内議員

支那側ノ打通線、瀋海線敷設當時滿鐵ハ何等輿論ヲ喚

起セサリシハ甚タ遺憾トスル

一、土岐議員

今後^(ニ)在満同胞ハ一層滿蒙ノ實狀ヲ宣傳ニ努メラレ度シ何ニ好轉スルカト云フ具体的的事例ヲ舉ケテ支那民衆ニ宣傳シ以テ東北ノ政權獨立思想ヲ喚起スルコト力現下ノ急務ト思フ

一、渡邊議員

滿蒙問題ノ危機急迫ナルコトニ於テハ軍部ヨリ時々聞キ居タル處ナルカ内地一部人士ハ此ノ軍部ノ主張ニ對

シ陸軍力來年ノ軍縮ニ會議ヲ有利ニ導ク爲メニセントスル宣傳ト云爲スルモノアリシカ今回ノ視察ニテ軍部ノ主張力正當ナリシヲ充分承知シタリ、

特ニ在滿邦人ノ滿蒙宣傳ニ努力サレ^(ン)コトヲ切望ス

一、長谷部旅團長

目下國際聯盟ニ於テ問題ノ焦點トナリ居ル解決前ニ我軍撤兵ハ我當局トシテモ絕對反對ヲ支持スルコトト信

ス濟南事件、露支事件ヲ引例シテ説明シ更ニ戰法上ヨ

リ満鐵沿線一帶ヲ完全ニ守備スルニハ吉林鄭家屯新民屯ノ駐兵ハ絶對必要ナリ

軍部ニ於テハ百三十萬圓ノ特別軍費豫算内ニ於テ任務ヲ遂行スヘク部下將卒ニ對シテモ極度ニ經費節約セシ

メ困苦缺乏ニ堪ヘ茲一二年ハ現豫算ニテ駐屯スル覺悟ヲ以テ任務ニ當リ居ル次第ナレハ議員諸公ニ於カレテモ歸國ノ上満蒙對策ニ就テノ國論ノ統一ニ努力サレ^(ン)コトヲ願フモノテアル

一、渡邊議員

我々ハ團結シテ終始輿論ノ一致ニ努力スルコトヲ誓フ

一、赤池議員

滿鐵ハ國際鐵道テアルカ滿鐵ニハ他ノ國際鐵道ニ得ラレヌ守備兵駐屯ノ特種權益ヲ獲得シ居ルヲ以テ米國ノ如キハ之ヲ羨望シ居ル處ニシテ常ニ野心憑々トシテ手ヲ換ヘ品ヲ換ヘテ滿蒙ヨリ日本ノ權益ヲ驅逐セントシツツアリ、今回ノ事件ニ對シテモ米國ハ國際聯盟會議ニ出席シ干渉ノ機會ヲ窺ヒツツアリ、殊ニ米國ノ常套手段タル日本民ニ對シ滿蒙問題ニ干スル逆宣傳ヲ試ミル時來ルヘシ、歐州大戰當時獨逸ヲ敗戦ニ導キタル

時局情報

ハ露國共產黨ノ宣傳ト米國力獨逸國民ニ訴フトシテ「戰鬪行爲ハ一部政治家ト軍閥ノ意志ニシテ國民ノ總意ニアラサルヘシ」トノ宣傳ニ民衆カ戰意ヲ失ヒタルモノナリ故ニ米國ノ逆宣傳ハ早晚來ルヘシ、此時機ニ於テハ國民思想ト輿論ヲ完全統一シ吾人ハ是力防遏ニ努ムル覺悟ナルモ特ニ在滿邦人ハ全國民ノ輿論指導的立場ヲ以テ充分宣傳ニ盡力サレ^(ン)コトヲ切望ス

以 上

昭和6年11月6日 在上海村井總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

四全大会の各別開催および上海銀行同業公会

による和平統一促進に関する宣言発表について

別 電 十一月六日發在上海村井總領事より幣原外

務大臣宛第七七八号

上海銀行同業公会の宣言要旨

上 海 11月6日後發

本 省 11月7日前着

(一) 和平統一ヲ促進セラレタシ
(二) 和議成立後軍政費豫算審議ノ爲直ニ財政委員ヲ招集シ全國經濟會議決議ノ通リ軍政費八月千九百餘萬元限度トセラレタシ
(三) 右金額ハ毎月ノ收入ヲ以テ支辨シ不足額ヲ千二百萬

元以内ニ止ムル様セラレタシ

(四)政府力公債發行ノ際ハ財政委員及基金保管委員ヲシテ全部管理セシメ公債市價ノ安定ヲ計ル様致シタン
別電ト共ニ公使ヘ轉電シ、北平、南京、奉天、天津、青島、濟南、漢口、福州、廣東へ轉電セリ
別電ト共ニ廣東ヨリ香港へ轉報アリタシ

(別電)

上 海 11月6日後発
本 省 11月7日前着

第七七八號

上海銀行同業公會宣言要旨

國民政府成立以來五年間全國民ハ建設ヲ期待シタルニ兵禍匪禍尙熄マス黨國ノ完成ナラサルニ外患來リ國民ハ異常ナル困難ニ遭ヘリ我等金融業者ハ國民ト共ニ國民政府ヲ支援シ來リタルモ事茲ニ至リ慚愧ニ堪エサルモノアリ黨國ノ領袖ハ民意ニ從ヒ統一ヲ計ランカ爲ニ雙方代表カ會議ヲ開ケタルカ英國首相ノ態度ニ倣ヒ雙方互讓ノ精神ニ依リ即時合作セラレントヲ望ム萬一右不可能ナラハ雙方ニ於テ公

平ナル第三者ヲ選ヒ其調停ニ俟ツコトセラレタシ訓政時期ノ政權ハ領袖諸公ノ手ニ在ルモ之カ諸公ノ手ニ委ネタルモノハ即チ國民全體ナリ依テ國民中ヨリ公正ナル人物ヲ選ヒ又ハ法定團體ヲ指定シテ調停者ト爲シ解決ヲ計ルヘキナリ然ラスシテ統一絶望ナルニ於テハ今後社會ノ經済能力ハ政府ノ需要ニ應スルコトヲ得サルニ至ルヘキコトヲ恐ル云々

895 昭和6年11月9日 在中國重光公使より
幣原外務大臣宛(電報)

第四期中央執行委員会第一回會議を南京、廣東
兩政府合同で開催することに意見一致について

上 海 11月9日後発
本 省 11月10日前着

第一二四二號

九日許卓然ノ林出ニ語ル所ニ依レハ和平統一豫備會議ハ去ル七日殆ト決裂セントセンモ同日深更ニ及ヒ張繼カ南京ヨリ電話ヲ以テ南京側ノ態度ヲ示シ第四回全國代表大會ニ關シ南京廣東兩政府ニ於テ第一第二第三ノ全國代表大會ノ何レカニ出席セル代表百十二名ヲ同時ニ共同ニテ推舉シ別ニ

兩政府ニ於テ各自二十四名ノ代表ヲ擧ケ合計百六十名ノ代表ヲ南京ニ集メ第四回全國代表大會ヲ開キ右大會ニ於テ制度ノ改革及政府ノ改造等ヲ議セシムルコトニ双方ノ意見一致シ廣東代表ノ一部歸廣スルコトナリタルカ右大會ハ多分十二月初頃開會ノ運ニ至ルヘシトノコトナリ

北平、奉天、哈爾賓、天津、漢口、濟南、青島、福州、廣東、香港、南京へ轉電シ上海へ轉報セリ

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿
軍部ノ在滿邦人經濟振興計畫ニ關スル件

奉天駐屯關東軍參謀長ハ客月二十七日滿鐵沿線各地商工會議所書記長ヲ電招シ駒井財務顧問外三名ノ參謀等ヲ加ヘ今回ノ事變ヲ機トシ在滿邦人ノ經濟振興策ニ關シ意見ノ交換ヲ爲シタルカ其ノ席上ニ於テ駒井顧問ハ軍部ニ於テハ今回ノ事變ヲ機會ニ我滿蒙ニ對スル諸懸案ノ徹底的解決ヲ期スルト共ニ從來滿洲ニ於ケル邦人ノ商工業發展力兔角阻害サレツツアリシ根本理由及之ニ對スル將來ノ對策ニ付適確ナル調査ヲ遂ケ之カ實行ニ着手スルニハ此機ヲ措キテハ永久ニ期待シ難キ處ニシテ軍部ハ幸ニ對滿方針遂行ニ付キ外務當局ト意見ノ一致ヲ見且滿鐵側トモ了解スル處アリタルヲ以テ此際各地會議所ノ專門的智識ヲ借リテ對策ヲ樹立シ早速實行ニ着手シ度キ旨ヲ述ヘ差當リ

内部的ノ事項トシテ

一、東拓其他ノ特殊會社力有スル固定貸ノ取立猶豫ヲ爲

二、金利ノ引下ヲ行フコト

サシムルコト

稿)

機密公第五三六號
昭和六年十一月十二日

(11月20日接受)

在長春

閔東軍による東北在留日本人經濟振興計畫の
作成について
付記 十一月二十八日清水(董三)嘱託稿
「滿洲政權獨立ト我國經濟トノ關係(未定)

領事 田代 重徳〔印〕

四、地賣撫順炭價ノ大低減ヲ爲スコト

外部的ノ事項トシテ

一、輸出貿易振興策

二、在滿邦商ノ對支取引振興ト日本ノ對滿貿易増進策

三、右二項ヲ具體化スル爲メ母國ヘ宣傳隊ヲ派遣シ相互

商工業者ト提携スルニ付其ノ方法

等ニ關スル意見ノ交換ヲ爲サンメタル後軍部カ滿蒙開發經濟政策要綱ヲ立案スルニ付キ

一、左ノ各目ニ亘ル經濟政策實施ノ基準トナルヘキ資料如何

(イ) 鐵道、水道、自動車、航空、車馬等

(ロ) 郵便、電信、電話、放送、無電等

(ハ) 財政

(二) 通貨、商業

(ホ) 機械工業、製鐵、セメント窯業等

(ヘ) 化學工業、油脂工業等

(ト) 食料品工業、織維工業、綿糸布工業

(チ) 製麻工業、製絲工業等

(リ) 鑄業

(付記)

満洲政權獨立ト我國經濟トノ關係（未定稿）

（昭和六、一一、二八、清水囑託稿）

茲ニ所謂滿洲政權ノ獨立トハ滿洲ノ地域ヲ支那ヨリ引離シ我國ノ傀儡トシテ動ク政權ヲ樹立スルコトニシテ軍事ノ如

本日別紙ノ通り答申書ノ作製ヲ見タルヲ以テ書記長ヲシテ該書面ヲ明日ノ會合ニ携行提出セシムルコトトナレリ
右御参考迄ニ報告申進ス

本信寫送先 在華公使 奉天 吉林 安東 牛莊

(ヌ) 農業、牧畜、林業、水產業

(ル) 土地問題

二、即時實行ヲ要スル應急政策及永遠ノ根本政策如何

三、帝國ノ直接施設ヲ要スル政策及東北四省新中央政權ヲシテ施設セシムル事ヲ要スル政策如何

ヲ諮詢事項トシテ提出シ之ニ關スル意見ヲ各地毎ニ取纏メ文書トシテ明十二日持寄リ更ニ會合討究スルコトトナリタ

ルカ當地會議所ニ於テハ本月四日議員會ヲ開催シ右諮詢事

項ニ付意見ノ開陳ヲ爲サシメ會頭ノ手ニテ之力推敲ノ結果

本日別紙ノ通り答申書ノ作製ヲ見タルヲ以テ書記長ヲシテ

該書面ヲ明日ノ會合ニ携行提出セシムルコトトナレリ

一、移民問題

是レハ寧口朝鮮統治上重大ナル意義ヲ有シ内地ノ經濟

問題トシテハ大ナル價值ナカルベシ、乃チ商租權ヲ解

決スルモ内地人ガ個々ニ多數移住スルコトハ不可能ナ

ルベシ農業ニ於テハ農場ヲ中心トシテ集團的生活ヲナ

スヲ要シ其ノ場合ト雖モ内地人ハ大體經營者、監督者

樹立ヲ考フルコトハ無意味ナリト言ハザルベカラズ

滿洲獨立ノ意味ガ前顯ノ如キモノナリトノ假定ノ下ニ我國

トノ經濟關係ヲ述ブレバ左ノ如シ

一、移民問題

是レハ寧口朝鮮統治上重大ナル意義ヲ有シ内地ノ經濟

問題トシテハ大ナル價值ナカルベシ、乃チ商租權ヲ解

決スルモ内地人ガ個々ニ多數移住スルコトハ不可能ナ

ルベシ農業ニ於テハ農場ヲ中心トシテ集團的生活ヲナ

スヲ要シ其ノ場合ト雖モ内地人ハ大體經營者、監督者

樹立ヲ考フルコトハ無意味ナリト言ハザルベカラズ

滿洲獨立ノ意味ガ前顯ノ如キモノナリトノ假定ノ下ニ我國

トノ經濟關係ヲ述ブレバ左ノ如シ

一、移民問題

是レハ寧口朝鮮統治上重大ナル意義ヲ有シ内地ノ經濟

問題トシテハ大ナル價值ナカルベシ、乃チ商租權ヲ解

決スルモ内地人ガ個々ニ多數移住スルコトハ不可能ナ

ルベシ農業ニ於テハ農場ヲ中心トシテ集團的生活ヲナ

スヲ要シ其ノ場合ト雖モ内地人ハ大體經營者、監督者

樹立ヲ考フルコトハ無意味ナリト言ハザルベカラズ

滿洲獨立ノ意味ガ前顯ノ如キモノナリトノ假定ノ下ニ我國

トノ經濟關係ヲ述ブレバ左ノ如シ

一、移民問題

是レハ寧口朝鮮統治上重大ナル意義ヲ有シ内地ノ經濟

問題トシテハ大ナル價值ナカルベシ、乃チ商租權ヲ解

決スルモ内地人ガ個々ニ多數移住スルコトハ不可能ナ

ルベシ農業ニ於テハ農場ヲ中心トシテ集團的生活ヲナ

スヲ要シ其ノ場合ト雖モ内地人ハ大體經營者、監督者

樹立ヲ考フルコトハ無意味ナリト言ハザルベカラズ

滿洲獨立ノ意味ガ前顯ノ如キモノナリトノ假定ノ下ニ我國

トノ經濟關係ヲ述ブレバ左ノ如シ

一、移民問題

是レハ寧口朝鮮統治上重大ナル意義ヲ有シ内地ノ經濟

問題トシテハ大ナル價值ナカルベシ、乃チ商租權ヲ解

決スルモ内地人ガ個々ニ多數移住スルコトハ不可能ナ

ルベシ農業ニ於テハ農場ヲ中心トシテ集團的生活ヲナ

スヲ要シ其ノ場合ト雖モ内地人ハ大體經營者、監督者

樹立ヲ考フルコトハ無意味ナリト言ハザルベカラズ

滿洲獨立ノ意味ガ前顯ノ如キモノナリトノ假定ノ下ニ我國

トノ經濟關係ヲ述ブレバ左ノ如シ

一、移民問題

是レハ寧口朝鮮統治上重大ナル意義ヲ有シ内地ノ經濟

問題トシテハ大ナル價值ナカルベシ、乃チ商租權ヲ解

決スルモ内地人ガ個々ニ多數移住スルコトハ不可能ナ

ルベシ農業ニ於テハ農場ヲ中心トシテ集團的生活ヲナ

スヲ要シ其ノ場合ト雖モ内地人ハ大體經營者、監督者

樹立ヲ考フルコトハ無意味ナリト言ハザルベカラズ

滿洲獨立ノ意味ガ前顯ノ如キモノナリトノ假定ノ下ニ我國

トノ經濟關係ヲ述ブレバ左ノ如シ

一、移民問題

是レハ寧口朝鮮統治上重大ナル意義ヲ有シ内地ノ經濟

問題トシテハ大ナル價值ナカルベシ、乃チ商租權ヲ解

決スルモ内地人ガ個々ニ多數移住スルコトハ不可能ナ

ルベシ農業ニ於テハ農場ヲ中心トシテ集團的生活ヲナ

スヲ要シ其ノ場合ト雖モ内地人ハ大體經營者、監督者

樹立ヲ考フルコトハ無意味ナリト言ハザルベカラズ

滿洲獨立ノ意味ガ前顯ノ如キモノナリトノ假定ノ下ニ我國

トノ經濟關係ヲ述ブレバ左ノ如シ

一、移民問題

是レハ寧口朝鮮統治上重大ナル意義ヲ有シ内地ノ經濟

問題トシテハ大ナル價值ナカルベシ、乃チ商租權ヲ解

決スルモ内地人ガ個々ニ多數移住スルコトハ不可能ナ

ルベシ農業ニ於テハ農場ヲ中心トシテ集團的生活ヲナ

スヲ要シ其ノ場合ト雖モ内地人ハ大體經營者、監督者

樹立ヲ考フルコトハ無意味ナリト言ハザルベカラズ

滿洲獨立ノ意味ガ前顯ノ如キモノナリトノ假定ノ下ニ我國

トノ經濟關係ヲ述ブレバ左ノ如シ

一、移民問題

是レハ寧口朝鮮統治上重大ナル意義ヲ有シ内地ノ經濟

問題トシテハ大ナル價值ナカルベシ、乃チ商租權ヲ解

決スルモ内地人ガ個々ニ多數移住スルコトハ不可能ナ

ルベシ農業ニ於テハ農場ヲ中心トシテ集團的生活ヲナ

スヲ要シ其ノ場合ト雖モ内地人ハ大體經營者、監督者

樹立ヲ考フルコトハ無意味ナリト言ハザルベカラズ

滿洲獨立ノ意味ガ前顯ノ如キモノナリトノ假定ノ下ニ我國

トノ經濟關係ヲ述ブレバ左ノ如シ

一、移民問題

是レハ寧口朝鮮統治上重大ナル意義ヲ有シ内地ノ經濟

問題トシテハ大ナル價值ナカルベシ、乃チ商租權ヲ解

決スルモ内地人ガ個々ニ多數移住スルコトハ不可能ナ

ルベシ農業ニ於テハ農場ヲ中心トシテ集團的生活ヲナ

スヲ要シ其ノ場合ト雖モ内地人ハ大體經營者、監督者

樹立ヲ考フルコトハ無意味ナリト言ハザルベカラズ

滿洲獨立ノ意味ガ前顯ノ如キモノナリトノ假定ノ下ニ我國

トノ經濟關係ヲ述ブレバ左ノ如シ

一、移民問題

是レハ寧口朝鮮統治上重大ナル意義ヲ有シ内地ノ經濟

問題トシテハ大ナル價值ナカルベシ、乃チ商租權ヲ解

決スルモ内地人ガ個々ニ多數移住スルコトハ不可能ナ

ルベシ農業ニ於テハ農場ヲ中心トシテ集團的生活ヲナ

スヲ要シ其ノ場合ト雖モ内地人ハ大體經營者、監督者

樹立ヲ考フルコトハ無意味ナリト言ハザルベカラズ

滿洲獨立ノ意味ガ前顯ノ如キモノナリトノ假定ノ下ニ我國

トノ經濟關係ヲ述ブレバ左ノ如シ

一、移民問題

是レハ寧口朝鮮統治上重大ナル意義ヲ有シ内地ノ經濟

問題トシテハ大ナル價值ナカルベシ、乃チ商租權ヲ解

決スルモ内地人ガ個々ニ多數移住スルコトハ不可能ナ

ルベシ農業ニ於テハ農場ヲ中心トシテ集團的生活ヲナ

スヲ要シ其ノ場合ト雖モ内地人ハ大體經營者、監督者

樹立ヲ考フルコトハ無意味ナリト言ハザルベカラズ

滿洲獨立ノ意味ガ前顯ノ如キモノナリトノ假定ノ下ニ我國

トノ經濟關係ヲ述ブレバ左ノ如シ

一、移民問題

是レハ寧口朝鮮統治上重大ナル意義ヲ有シ内地ノ經濟

問題トシテハ大ナル價值ナカルベシ、乃チ商租權ヲ解

決スルモ内地人ガ個々ニ多數移住スルコトハ不可能ナ

ルベシ農業ニ於テハ農場ヲ中心トシテ集團的生活ヲナ

スヲ要シ其ノ場合ト雖モ内地人ハ大體經營者、監督者

樹立ヲ考フルコトハ無意味ナリト言ハザルベカラズ

滿洲獨立ノ意味ガ前顯ノ如キモノナリトノ假定ノ下ニ我國

トノ經濟關係ヲ述ブレバ左ノ如シ

一、移民問題

是レハ寧口朝鮮統治上重大ナル意義ヲ有シ内地ノ經濟

問題トシテハ大ナル價值ナカルベシ、乃チ商租權ヲ解

決スルモ内地人ガ個々ニ多數移住スルコトハ不可能ナ

ルベシ農業ニ於テハ農場ヲ中心トシテ集團的生活ヲナ

スヲ要シ其ノ場合ト雖モ内地人ハ大體經營者、監督者

樹立ヲ考フルコトハ無意味ナリト言ハザルベカラズ

滿洲獨立ノ意味ガ前顯ノ如キモノナリトノ假定ノ下ニ我國

トノ經濟關係ヲ述ブレバ左ノ如シ

一、移民問題

是レハ寧口朝鮮統治上重大ナル意義ヲ有シ内地ノ經濟

問題トシテハ大ナル價值ナカルベシ、乃チ商租權ヲ解

決スルモ内地人ガ個々ニ多數移住スルコトハ不可能ナ

ルベシ農業ニ於テハ農場ヲ中心トシテ集團的生活ヲナ

スヲ要シ其ノ場合ト雖モ内地人ハ大體經營者、監督者

樹立ヲ考フルコトハ無意味ナリト言ハザルベカラズ

滿洲獨立ノ意味ガ前顯ノ如キモノナリトノ假定ノ下ニ我國

トノ經濟關係ヲ述ブレバ左ノ如シ

一、移民問題

是レハ寧口朝鮮統治上重大ナル意義ヲ有シ内地ノ經濟

問題トシテハ大ナル價值ナカルベシ、乃チ商租權ヲ解

決スルモ内地人ガ個々ニ多數移住スルコトハ不可能ナ

ルベシ農業ニ於テハ農場ヲ中心トシテ集團的生活ヲナ

スヲ要シ其ノ場合ト雖モ内地人ハ大體經營者、監督者

樹立ヲ考フルコトハ無意味ナリト言ハザルベカラズ

滿洲獨立ノ意味ガ前顯ノ如キモノナリトノ假定ノ下ニ我國

トノ經濟關係ヲ述ブレバ左ノ如シ

一、移民問題

是レハ寧口朝鮮統治上重大ナル意義ヲ有シ内地ノ經濟

問題トシテハ大ナル價值ナカルベシ、乃チ商租權ヲ解

決スルモ内地人ガ個々ニ多數移住スルコトハ不可能ナ

ルベシ農業ニ於テハ農場ヲ中心トシテ集團的生活ヲナ

限ニ我商工業者ヲシテ進出セシマルコト能ハザルベシ
殊ニ小資本ノ商工業ハ寧ロ支那人トノ競争ニ打勝チ難
ク日本ノ商人ガ支那人間ニ喰入ルニハ相當ノ努力ヲ要
スベシ

二、滿洲ニ於ケル邦人ノ企業問題

小資本ノ企業ハ前述ノ如ク支那人ニ奪ハルヲ以テ邦
人ノ企業ハ相當大資本ヲ擁スル大規模ノ農業、工業、
林業、礦山業等ナラザルベカラズ此ノ場合第一ハ資金
ノ問題第二ハ内地ニ於ケル企業トノ利害問題ヲ研究セ
ザルベカラズ先づ最初ニ起リ得ベキ企業ハ紡織、製粉、
燐寸、煙草、セメント、煉瓦等ノ製造工業及ビ電氣、
瓦斯ノ如キ事業ナルベシ油坊工業ノ如キハ世界ノ需要
ヲ充スニ足ル狀態ニアリテ之力發展ハ今後ノ世界的經
濟ノ恢復ニ待タザルベカラズ、何レニスルモ滿鐵等ガ
中心トナリテ經營スベキ事業大部分ヲ占ムルモノノ如
シ

三、通商問題

滿洲獨立ノ場合我國トノ通商ハ最モ有望ナルベシ尤モ
ソレニハ排日運動ノ根絶ヲ要シ邦貨ニ對スル不當課稅

四、資源問題

滿洲ニ於ケル石炭、鐵、木材等ノ資源ハ差當リ之ヲ内
故ニ差當リノ對策ハ此ノ通商貿易ノ發展ヲ基調トシテ
考案セラレザルベカラズ即チ幣制ノ統一、金融機關ノ
整理、支那人生活ノ安定、治安ノ維持ノ如キハスベテ
此ノ一點ヨリ出發スルモノナリ

ツアリ滿洲ノ貿易ガ常ニ輸出超過ナル點ヨリ見ルモ滿
洲ノ富ハ逐次積蓄セラルベキ筈ナリ若シ從來軍費戰費
ニ消費セラレタル多額ノ苛稅ガ廢止セラルトセバ農
民ノ生活ノ程度ハ急激ニ向上シ購買力ヲ增進スベシ而
シテ支那農民ノ必需品ハ綿織物、麥粉、煙草、石油、
砂糖、雜貨、海產物、食料品、藥品、紙ノ如キ日常品
ニシテ我國ノ生產ニ係ルモノ最モ多シ
若シ獨立政權ト我國ノ間ニ特惠稅率ノ如キヲ訂結セバ
一層妙ナルベシ

ツアリ滿洲ノ貿易ガ常ニ輸出超過ナル點ヨリ見ルモ滿
洲ノ富ハ逐次積蓄セラルベキ筈ナリ若シ從來軍費戰費
ニ消費セラレタル多額ノ苛稅ガ廢止セラルトセバ農
民ノ生活ノ程度ハ急激ニ向上シ購買力ヲ増進スベシ而
シテ支那農民ノ必需品ハ綿織物、麥粉、煙草、石油、
砂糖、雜貨、海產物、食料品、藥品、紙ノ如キ日常品
ニシテ我國ノ生產ニ係ルモノ最モ多シ
若シ獨立政權ト我國ノ間ニ特惠稅率ノ如キヲ訂結セバ
一層妙ナルベシ

故ニ差當リノ對策ハ此ノ通商貿易ノ發展ヲ基調トシテ
考案セラレザルベカラズ即チ幣制ノ統一、金融機關ノ
整理、支那人生活ノ安定、治安ノ維持ノ如キハスベテ
此ノ一點ヨリ出發スルモノナリ

地ニ必要ト云フニ非ス石炭ノ如キハ寧ロ内地當業者ガ

滿洲炭ノ輸入制限ヲ要望シツツアルガ如キ狀態ナリ木
材ノ如キモ暫ク内地ニ之ヲ要セズ鐵ノ如キモ滿洲ノ鐵
鑛ハ決シテ良質ト云フベカラズ然レトモ世界ノ大勢ガ

各國家各民族每ニ自給自足ノ經濟ヲ確立セントスル傾
向ニアルニ鑑ミ殊ニ一朝有事ノ際^(註)是等資源ヲ確保シ置

クコトハ國家生存上最モ必要アルコロナリ故ニ差當
リ不必要ナリトノ理由ニテ之ヲ放置スルハ國家將來ノ

爲メ取ラザルトコロ滿洲資源ヲ何時ニテモ我國自由ニ
利用シ得ル丈ケノ仕掛ヲナシ置クコトハ今後ノ國策上
絕對ニ必要ナリ

五、鐵道問題

鐵道問題ノ内第一、既成線ノ管理ハ滿蒙物資ノ移動ヲ

我國ニ有利ナル如ク調整スル爲メ必要ナリ第二、新線
ノ布設ハ沿線ノ開發ニ依ル企業ノ勃興、貿易ノ增進、

資源ノ開發等ヲ目的トスルコト勿論ナレドモ寧ロ我國
防ノ充實、我勢力ノ擴張ノ意味ヲ以テ之ヲ遂行スベキ
ナリ故ニ新設鐵道ガ經濟的ニ幾干ノ利益ヲ擧ゲ得ベキ
ヤ差當リハ大ナル期待ヲ持ツベカラズ寧ロ將來ノ爲メ

ヲ廢シ金融交通等ノ商業補助機關ノ整備ヲ條件トスル
コト勿論ナリ

大體滿洲ハ農業ヲ以テ立チ三千萬人口ノ九割ハ農民ニ
シテ其ノ農產物ノ剩餘ヲ輸出シテ生活必需品ヲ求メツ

ツアリ滿洲ノ貿易ガ常ニ輸出超過ナル點ヨリ見ルモ滿

洲ノ富ハ逐次積蓄セラルベキ筈ナリ若シ從來軍費戰費
ニ消費セラレタル多額ノ苛稅ガ廢止セラルトセバ農

民ノ生活ノ程度ハ急激ニ向上シ購買力ヲ増進スベシ而

シテ支那農民ノ必需品ハ綿織物、麥粉、煙草、石油、

砂糖、雜貨、海產物、食料品、藥品、紙ノ如キ日常品
ニシテ我國ノ生產ニ係ルモノ最モ多シ

若シ獨立政權ト我國ノ間ニ特惠稅率ノ如キヲ訂結セバ
一層妙ナルベシ

ツアリ滿洲ノ貿易ガ常ニ輸出超過ナル點ヨリ見ルモ滿

洲ノ富ハ逐次積蓄セラルベキ筈ナリ若シ從來軍費戰費
ニ消費セラレタル多額ノ苛稅ガ廢止セラルトセバ農

民ノ生活ノ程度ハ急激ニ向上シ購買力ヲ増進スベシ而

シテ支那農民ノ必需品ハ綿織物、麥粉、煙草、石油、

砂糖、雜貨、海產物、食料品、藥品、紙ノ如キ日常品
ニシテ我國ノ生產ニ係ルモノ最モ多シ

若シ獨立政權ト我國ノ間ニ特惠稅率ノ如キヲ訂結セバ
一層妙ナルベシ

四、資源問題

滿洲ニ於ケル石炭、鐵、木材等ノ資源ハ差當リ之ヲ内
故ニ差當リノ對策ハ此ノ通商貿易ノ發展ヲ基調トシテ
考案セラレザルベカラズ即チ幣制ノ統一、金融機關ノ
整理、支那人生活ノ安定、治安ノ維持ノ如キハスベテ
此ノ一點ヨリ出發スルモノナリ

四、資源問題

滿洲ニ於ケル石炭、鐵、木材等ノ資源ハ差當リ之ヲ内
故ニ差當リノ對策ハ此ノ通商貿易ノ發展ヲ基調トシテ
考案セラレザルベカラズ即チ幣制ノ統一、金融機關ノ
整理、支那人生活ノ安定、治安ノ維持ノ如キハスベテ
此ノ一點ヨリ出發スルモノナリ

四、資源問題

滿洲問題に關する政府基本大綱並び連盟理事會
会對策への芳沢代表宛訓令に対する意見具申

別電 十一月十七日發在中國重光公使より幣原外務大臣宛第一二九五号

最近の中国政局一般について

上海 11月17日後發 本省 11月18日前着

⁽¹⁾合第一二九四號（至急極秘）
本使發聯盟宛電報第八號

大臣發聯盟宛電報第一九四號ニ關シ

一、民國政府ハ直接交渉ヲ絶對ニ排除シ一重ニ第三者ノ助
力ヲ當テニシ宣傳戰ニ依リ居ル次第ナルカ若シ直接交
渉ニ入ルトシテモ例へハ條約問題ニ付テハ國民黨ノ終

(4) 本支後筋題記電報

始反對セル一九一五年條約承認問題ノ難關アリ（第五項）又排日防止ニ付テハ何等保障無キ文書上ノ取極丈ケニテハ無意味ニシテ（第三項）且又日本人ノ満洲ニ於ケル活動範圍ニ於テハ結局支那人同様ノ取扱ヲ受クル事ヲ要スヘク（第四項）右大綱五項ノ嚴肅ナル受諾及徹底セル實行ハ民國政府トシテハ其ノ存立ノ基礎ノ變化ヲ前提トスルモノナルニ付甚タ困難ナルヘシ蓋シ民國政府ハ黨國組織ノ下ニ對外的ニハ條約ノ否認利權ノ回収ヲ主義トシテ行ヒ其ノ目的ヲ達成スル爲ニハ排外排貨ヲ公然行フ事ハ孫文ノ「ドクトリン」以來ノ國是及黨策トモ云フヘキモノナレハナリ

本使發聯盟宛電報

第八號ノ二（至急、極秘）

併シ右大綱ヲ承認セシムルコトハ我方トシテハ絶對必要ニ迫ラレ居ルニ付右基本條約ノ成立ハ今後幾多ノ曲折ト長キ時間トヲ要スルコトヲ豫期セサルヘカラス即チ我方五項ノ主張ハ基礎的ニシテ且「エレメンタリー」ノモノニ相違ナキモ民國ノ現狀ニ於テハ右ノ基礎的前提條件ノ實現ヲ求ムルコトハ實ニ容易ノコトニ非サル

從テ我方ニ於テハ地方警察力ノ成立又ハ充實ヲ待テ始メテ同時ニ撤兵シ得ヘキ次第ナリ治安維持ト言フ方面ヨリ見テ假令五大綱ノ其成立ヲ見タリトスルモ又五大綱ノ交渉トハ引放シテ之ヲ行フトスルモ滿洲問題ノ解決ハ前途遠キ様思ハル

本使發聯盟宛電報

從テ我方ニ於テハ地方警察力ノ成立又ハ充實ヲ待テ始
メテ同時ニ撤兵シ得ヘキ次第ナリ治安維持ト言フ方面
ヨリ見テ假令五大綱ノ其成立ヲ見タリスルモ又五大
綱ノ交渉トハ引放シテ之ヲ行フトスルモ滿洲問題ノ解
決ハ前途遠キ様思ハル

第八號ノ五（至急）

(イ) 第五項三關シ條約上ノ權利ヲ尊重セシムルノ點ハ之ヲ常ニ廣義ニ解シ條約慣行上ノ權益ヲ含マシムルコト必要ニシテ然ラサレハ日本側モ之迄相當條約ノ文字ヲ逸脱セル嫌アル行動ヲ執リ居リシコト鮮カラス
本使發聯盟事務局長宛電報

第八號ノ五（至急）

(イ) 第五項三關シ條約上ノ權利ヲ尊重セシムルノ點ハ之ヲ常ニ廣義ニ解シ條約慣行上ノ權益ヲ含マシムルコト必要ニシテ然ラサレハ日本側モ之迄相當條約ノ文字ヲ逸脱セル嫌アル行動ヲ執リ居リシコト鮮カラス
本使發聯盟事務局長宛電報

三、以上ハ現狀ヨリ實際的ニ見タル觀測ニ過キサルカ之ニ
依リテ見ルモ滿洲問題ノ取扱ハ成ルヘク結論ヲ急カス
若ハ結論ヲ窮屈ニセス聯盟トシテハ直接交渉ノ上解決
スヘキコトヲ日支兩國ニ勸告シ其結果ニ付絶ヘス報告
ヲ受ケシムル位ニ止メアツサリ手ヲ引カシムルコト出
來レハ最結構ト思ハル

八九〇年六月二日

不傳發取監察官報

始反對セル一九一五年條約承認問題ノ難關アリ（第五項）又排日防止ニ付テハ何等保障無キ文書上ノ取極丈ケニテハ無意味ニシテ（第三項）且又日本人ノ満洲ニ於ケル活動範圍ニ於テハ結局支那人同様ノ取扱ヲ受クル事ヲ要スヘク（第四項）右大綱五項ノ嚴肅ナル受諾及徹底セル實行ハ民國政府トシテハ其ノ存立ノ基礎ノ變化ヲ前提トスルモノナルニ付甚タ困難ナルヘシ蓋シ民國政府ハ黨國組織ノ下ニ對外的ニハ條約ノ否認利權ノ回収ヲ主義トシテ行ヒ其ノ目的ヲ達成スル爲ニハ排外排貨ヲ公然行フ事ハ孫文ノ「ドクトリン」以來ノ國是及黨策トモ云フヘキモノナレハナリ

⁽³⁾ 本使發聯盟宛電報第八號ノ三

二、更ニ撤兵其モノニ付テ見ルニ滿洲ニ於ケル治安維持ノ見込ナクシテハ事實不可能ナリ然ルニ我軍ハ排日ノ原動力ト見做サレタル張學良ノ軍隊ト衝突シ事實雙方共ニ敵味方ノ有様ニシテヨシンハ前記ノ基本條約成立セリトテ南京政府ノ希望ヲ容レ學良ノ舊勢力ヲ滿洲ニ入ルルコトハ再ヒ事件前ノ舊態ニ復歸シテ無意味ナルノミナラス秩序ノ維持ノ爲ニハ反對ノ結果ヲ豫想セサルヲ得ス

(一) 同電報ノ六聯盟ヨリ視察員ヲ派遣スルコトハ政府ノ
ト得策ナラン

(二) 同電報ノ六聯盟ヨリ視察員ヲ派遣スルコトハ政府ノ
ト得策ナラン

(三) 本使發聯盟宛電報第八號ノ三
且又南京廣東力滿洲ニ於ケル將來ノ努力ヲ極力内政上
ニ利用セントスル現狀ニ於テ假令承認シ居ル政府ナリ
トスルモ南京政府ノミノ意向ニ依リ廣東政府ノ意向ハ
全然無視シ又ハ滿洲住民ノ意見ヲモ顧ミサルハ内政不
干涉ノ立場ヨリ萬全ナル政策ニアラサルヘシ我方ニ領
土の野心ナキコトハ明カナルト同時ニ結局ハ滿洲將來
ノ政權ハ滿洲住民ノ意向ヲ中心トスル外ナカルヘシ
(固ヨリ滿洲政權ノ無理及復辟ノ如キハ我方ノ關涉ス
ヘキコトニアラス)

(四) 第五項ニ關シ條約上ノ權利ヲ尊重セシムルノ點ハ之
ヲ常ニ廣義ニ解シ條約慣行上ノ權益ヲ含マシムルコ
ト必要ニシテ然ラサレハ日本側モ之迄相當條約ノ文
字ヲ逸脱セル嫌アル行動ヲ執リ居リシコト鮮カラス

(五) 本使發聯盟事務局長宛電報

第八號ノ五（至急）

第四項ニ付テモ peaceful pursuits ノ提議ハ成ルヘク
廣義ニ漠然タラシメ必要ナルニ於テハ直接交渉ノ際ニ
充分意義ヲ明カニスルコト然ルヘシ

(六) 條約問題ハ滿洲關係ノモノニ限ル日本政府ノ意思ノ
如キ處大綱中第四項ハ之ヲ除キ他ハ悉ク全般的ノモ
ノニシテ特ニ排日運動ニ關スル第三項ニ於テ然リ就
テハ條約問題ニ關シテハ摘錄スヘキ條約ハ滿洲ニ關
スルモノニ限ルモ全般的ノモノヲモ含マシムルコト
然ルヘク特ニ日本力條約問題ト云フ好題目ヲ掲ケタ
ルハ民國ニ對スル列國共通ノ問題ニ立チ居ルコトヲ
示ス爲ニモ滿洲ニ關スル條約ニ限ル意味ニセサルコ
ト得ス

意見ノ通スレハ差支ナキ力如キモ他方支那ノ將來ヲ
見ルニ滿洲問題ノ如キ事態ハ支那本部ニモ共通ノ事

照。

柄ニシテ

⁽⁶⁾ 本使發聯盟宛電報（至急）

第八號ノ六

之ニ對シテハ最モ利害關係ヲ（有）スル國力其利害關係ヲ背景トシテ真剣ニ其處理ニ當ルノ外ナク列國ハ對支那ノ問題ニ付テハ固ヨリ「インディビデュアル」ノ

政策ニ出ツヘキモ其政策ハ最モ利害關係ヲ有スル日英米（及佛）ニ於テ密接ナル聯絡ヲ保チツツ遂行セラルヘキ筋合ニシテ聯盟ノ如キモノカ關係國ノ利害ヲ或ル意味ニ於テ超越シ若ハ之ト離レ主トシテ聯盟ノ權威ヲ示メス爲今回ノ如キ聯盟本位ノ策動ヲナス爲視察員ヲ派遣スルカ如キハ我對支政策ニ惡影響ヲ來スヘク思考セラル

別電ト共ニ大臣、在米大使、奉天、北平、南京へ轉電セリ別電ト共ニ聯盟ヨリ在歐各大使へ轉電アリ度シ

編注『日本外交文書 滿州事變第一卷第三冊』544文書參

（別電）

上海 11月17日後発
本省 11月18日前着

第一二九五號

本官發聯盟宛電報（十七日後）

第九號ノ一

最近ノ支那政局一般御参考迄

一、支那全般ニ亘ル現下ノ複雜ニシテ中央地方ノ統制力ノ薄弱ナルハ民國成立以來或ハ未曾有ノコトト認メラル土匪ハ全國到ル所ニ出沒シ上海郊外ニ於テスラ之ヲ見ルコトアリ内地ニ於テ外國人ノ迫害ヲ受クル者其數ヲ増加シ正規ノ軍隊ト土匪軍トノ差ハ甚タシクナク民國行政裁判ノ腐敗ハ黨部ノ跋扈ト共ニ益著シキ狀態ナリ二、蔣介石カ國民ノ主義ヲ奉シ國民軍ヲ率ヒテ北伐シ南京政府ヲ樹立シテ以來約二ヶ年ノ間ハ國民革命以來最モ希望ニ満チタル時期ニシテ國民黨ノ主義即チ偶像化セラレタル孫文ノ遺囑ニ依リ團結セル黨員ノ專制ニ依リ

強大ナル武力ヲ擁スル蔣介石ノ機略ニ依リ茲ニ曲リナリニモ支那ノ將來ニ光明ヲ見出スヘク期待セラレタリ然ルニ政府黨部ノ内部ニ於ケル穩健的實際派（蔣介石、宋子文浙江派）ト極端ナル理想派（胡漢民等廣東派）トノ分裂モ結局ハ支那人一流ノ個人的勢力爭ヒニ過キス即チ個人的ノ感情利害ヲ棄テテ國家ノ大ニ就クコトハ支那人ノ爲シ能ハサル所ニシテ

本使發聯盟宛電報
第九號ノ二

本使發聯盟宛電報第九號ノ三（至急）

換言スレハ蔣介石ノ如キ人物ヲ以テスルモ時局ヲ收拾スルニハ餘リニ支那ハ廣大ニシテ支那人ハ複雜ナル社會層ヲ有スルモノナリ國民黨ノ時代ハ既ニ去リ恰モ北方ニ於テ曾テ憲法問題ニ付本家争ヒアリタルカ如ク今後ハ國民黨内部ノ本家争ヒヲ生セントスル狀態ナリ夫レト同時ニ國民黨以前ノ者ニシテ之迄彈壓セラレタル者ノ不平又ハ活躍ハ漸次著シク現ニ南京政府ニ於テモ張學良トノ關係アル顧維鈞顏惠慶等ノ如キ時局ノ推移ト共ニ舊北京人物ノ登場ヲ見居ル狀態ナリ

三、南京政府ハ承認セラレタル中央政府トシテ長江下流ノ

湖北湖南安徽江西浙江江蘇及河南方面ニ實勢力ヲ有スルモ湖南江西ハ多クハ共匪等ニ荒サレ居リ南方及邊疆諸省ハ何等中央ト關係ナキカ又ハ敵對ノ地位ニ在リ中央政府ハ南京上海ヲ擁シ平津ヲ中心トスル張學良ノ勢力ト結ヒ他ノ諸勢力ヲ牽制シテ漸ク均勢ヲ維持スルニ過キス

他方中央政府ハ宋家ヲ中心トシ蔣介石ヲ首班トスル統制ナキ事實上ノ寡頭政治ナリ

本使發聯盟宛電報第九號ノ三（至急）

四、長江ノ水災滿洲問題ノ發生續イテ江西共匪討伐ノ失敗等ハ政局ノ前途ニ大ナル影響ヲ及ホスヘシ滿洲ノ時局ニ對シテモ廣東派ハ孫文ノ大亞細亞主義ニ依ル日支親善ノ方針ヲ楯トシ滿洲ニ自己ノ勢力ヲ入レ日本ト妥協シ滿洲問題ヲ利用シテ蔣介石ヲ壓セント計リ蔣介石ハ飽迄張學良ヲ支持シ之ヲ滿洲ニ復歸セシムルノ條件ノ下ニ張學良ヲシテ熱心ニ南京ヲ擁護セシメツツアリ（滿洲接收委員モ張學良系ノモノ多シ）

五、中央ニ對シテハ廣東派ノ蔣介石下野ヲ目標トシテ中央乗取運動アルハ勿論北方ニ於テモ元來國民黨ニ慊ラサ

ル舊北洋系軍閥ノ策動絶ヘサル状況ニシテ最多ク有利

ノ條件ヲ有シタル蒋介石モ今日トナリテハ一ノ軍事的

勢力ニ過キス武力ニ於テ或ハ將來再ヒ優勢ヲ示シ統一

的外觀ヲ現ハスコトアルモ右ハ結局一時的ノ現象ニシ

テ民國ノ統一的政治組織ハ見込ナシト言ハサルヘカラ

ス他方國民黨力實行セントシタル其主義思想及政策特

ニ之力爲ニ用ヒタル赤露式各種ノ制度方法ハ統制ナキ

狀態ニ於テ最廣ク行ハレ此點ハ支那力軍事上政治上ノ

統制ニ欠クルト相俟テ益々無責任ナル國家及社會ノ狀

況ヲ現出スルモノト思考セラル

聯盟ヨリ在歐各大使ヘ轉電アリタシ

大臣、米、奉天、北平へ轉電シ上海、南京へ轉報セリ

898 昭和 6 年 11 月 24 日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）

二十三日閉会の四全大会で于右任が大会宣言
を朗読し蔣介石が閉会の辭を述べたについて

南京 11 月 24 日後発
本省 11 月 24 日後着

第六四四號
二十五日陳中孚來訪内話スル所左ノ通

一、廣東側和平代表一行ハ當政府非常會議ヨリ蔣ノ下野ハ
統一政府組織ニ關スル絕對條件ナルヘキ旨ヲ申渡サレ
居リ、爲ニ會議ハ一時全然決裂セルニ拘ラス汪精衛ハ
當政府實力ハ殊ニ陳濟棠トノ關係兔角釋然タラサルノ
ミナラス黨部ニ對スル統制モ思フ様ニ行カス自然廣東
ニ歸來スルモ望少ナキニ見切リヲツケテ南京側ニ對シ
蔣ノ下野ナクシテ和平ヲ取纏ムルコトニ内談ヲ進メ遂
ニ和平會議決裂間際ニ談話會ノ形式ヲ以テ極メテ懶ラ
クモ此ノ經緯ヲ作成シタル實狀ナル處當地四全會議ハ早
クサル妥協案ヲ見抜キ開會以來露骨ニ改組派代表ノ排
除ヲ企圖スル運動スラアリタル程ナルモ滿洲問題ヲ控
ヘ時局（重大）ナル此際當政府ノ云ハバ内争ヲ公ニセ
モツカヌ決議等ヲ爲サシメタル次第ナリ

第七七二號

往電第七三九號ニ關シ

四全大會ハ二十三日閉會式ヲ行ヒ于右任大會宣言ヲ朗讀シ
蒋介石閉會ノ辭ヲ述ヘ國民黨及三民主義ノ萬歲ト共ニ打倒

日本帝國主義ヲ叫ヒ閉會セルカ右宣言ニ於テハ中國ノ天災
内憂ニ乘シ横暴ナル日本ハ中國領土ヲ占領シ人民ヲ慘殺シ
都市ヲ爆撃シ叛徒匪賊ト結合シテ中國ヲ亡ホサントス若シ

決死ノ精神ヲ以テ活路ヲ求メサレハ國家民族ハ永遠ニ滅亡
スヘク吾人ハ一致團結先ツ軍事、教育、財政ノ三方面ヨリ

建設シ内政ヲ刷新シテ外侮ニ當ラサルヘカラスト述ヘ又蔣
介石ノ閉會ノ辭モ要スルニ一致團結救國ノ急務ヲ強調セル

モノナルカ右ノ内日本ヲ引き合ヒニ出セル處左ノ通り

中國天災ノ折柄日本帝國主義者ハ强大ナル武力ヲ以テ我領
土ヲ侵略シ我國家ヲ蹂躪シタルカ右ハ我國家ノ絶大ナル災

禍タルト共ニ國民最大ノ恥辱ナリ吾人ニシテ尙此ノ上一致
協力外國ニ當ラサレハ党國ノ滅亡ハ眼前ニ在リ吾人ニシテ

自立自彊ノ精神ヲ以テ團結センカ十個ノ日本アリトモ我國家ヲ
動搖セシムル能ハス云々

委細取纏メ郵報

899 昭和 6 年 11 月 24 日 在奉天森島總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

在上海重光公使、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、
廣東、福州へ轉電セリ

などの動靜に關し陳中孚の内話について

廣東 11 月 25 日後発
本省 11 月 25 日後着

第一三七八號
遼寧省を奉天省と改称について

第六四四號

二十五日陳中孚來訪内話スル所左ノ通

奉天 11 月 24 日後発
本省 11 月 24 日後着

當地地方維持委員會ハ本月二十日附ヲ以テ遼寧省ヲ奉天省
ト改稱セリ
領事ニ轉電セリ
哈爾賓ヨリ滿洲里、齊々哈爾ニ轉報アリタシ

支、北平、天津、廣東、漢口、青島、濟南、南京、在滿各

昭和 6 年 11 月 25 日 在廣東須磨總領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

900 広東四全大会における中央執監委員の選挙お
よび蔣、張下野決議に対する汪、孫、陳友仁

二、然ルニ二十三日執監委員ハ新ニ選舉セラルヘキ旨並ニ
蔣、張ハ黨籍ヨリ除外セラルヘキ旨ヲ決議シ公然南京
ニ於ケル和平代表協定案ヲ否認スルニ至リタル爲代表
タル孫科、陳友仁ハ其ノ責任ヲ感シ二十五日朝極秘裡
ニ香港ニ赴キ同シク代表李文範ハ何レヘカ萎ヲ消シ
(當地河南ニ潛在中ナル由)爲ニ大會進行ノ必要上李
ノ秘書長ヲ免シ劉紀文ヲシテ之ニ當ランムルコトトナ
レルカ孫、友仁ハ赴廣シテ何等力彌縫策ヲ講セントス
ルモノノ如ク何レモ兩三日經過シ會議ノ模様モ落着ク
ニ至ラハ歸廣スルコト確カナルヘシト思ハル

三、事茲ニ到リタル原因ハ改組派ニ對スル當政府各要人ノ
反感ナルカ故ニ汪精衛ハ此ノ儘當政府トハ離ルニ至
ルヘキモ今回李宗仁白崇禧等ノ廣西派ハ從來ノ王トノ
關係ヲ離レ全然濟棠、蕭佛成、鄧澤如等ト共ニ決然倒
蔣ニ一致セルニ至リタルハ注意ヲ要スヘキ事項ニシテ
此ノ點ヨリ當政府ハ從前ヨリモ鞏固ナル團結ヲ加フル
ニ至レリト云フヘン汪ハ去リトテ南京ニモ赴カレサル
力如ク現ニ二三日來流布サレタル南京部内力汪ヲ主席
ニ推サントスト云フカ如キ報道ハ實ハ改組派力當地四

モ豫定ノ通り會議ハ進行セラル積リナリ
在支公使、奉天、南京、北平ヘ轉電シ香港へ暗送セリ

~~~~~

901 昭和6年11月30日 在ハルビン大橋總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

対外關係上弊害多いため記事の取扱方に注意  
を与えることにした旨チチハル總領事宛電報

ハルビン 11月30日前發  
本省 11月30日後着

モ豫定ノ通り會議ハ進行セラル積リナリ  
在支公使、奉天、南京、北平ヘ轉電シ香港へ暗送セリ

~~~~~

901 昭和6年11月30日 在ハルビン大橋總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

対外關係上弊害多いため記事の取扱方に注意
を与えることにした旨チチハル總領事宛電報

ハルビン 11月30日前發
本省 11月30日後着

第六九五號
本官發齊々哈爾宛電報
第二十七號

最近不用意ナル新聞報道多ク對外關係上弊害多キニ鑑ミ其

取締方ニ付廿八日關係當局者ヲ招集シ協議シタル結果今後

一週一度本官責任アル新聞通信者ヲ集メ秘密ヲ守ラシメタ

ル上時局ノ真相ヲ説明スルト同時ニ記事ノ取扱方ニ付注意

ヲ與フルコト

(2)關係當局者ニ於テ供給スヘキ情報ノ選擇ニ一層ノ注意ヲ

加フルコト

八 中国政情関係

蔣、張ハ黨籍ヨリ除外セラルヘキ旨ヲ決議シ公然南京
ニ於ケル和平代表協定案ヲ否認スルニ至リタル爲代表
タル孫科、陳友仁ハ其ノ責任ヲ感シ二十五日朝極秘裡
ニ香港ニ赴キ同シク代表李文範ハ何レヘカ萎ヲ消シ
(當地河南ニ潛在中ナル由)爲ニ大會進行ノ必要上李
ノ秘書長ヲ免シ劉紀文ヲシテ之ニ當ランムルコトトナ
レルカ孫、友仁ハ赴廣シテ何等力彌縫策ヲ講セントス
ルモノノ如ク何レモ兩三日經過シ會議ノ模様モ落着ク
ニ至ラハ歸廣スルコト確カナルヘシト思ハル

全會議ヲ自派ニ有利ニ導カソカ爲香港方面ニ於テ放チ
タル宣傳ナルカ如シ

四、一方韓復榘馮玉祥ヨリハ二十三日當地四全大會力改メ
テ倒蔣ヲ決議シタルニ對シ全幅ノ贊意ヲ表スル旨電報
越シタル次第モアリ當政府ハ目下ノ最モ重要ナル案件
タル滿洲問題ニ關シ日本トノ間ニ當政府ノ力ヲ以テ何
等カ目鼻ヲ付クル段取トモナラハ華北將領等モ當方ニ
和シ自然蔣ノ下野ヲ見ルヘシト觀測シ居リ一面倒蔣ニ
向フト同時ニ他面陳友仁ニ於テ從來行ヒ來リタル日本
トノ接觸ヲ推シ進メタキ所存ナル處ソレニツケテモ日
本側ヨリ此ノ際何等カ早目ニ確定的ノ表示ヲ得ルコト
切望ニ堪ヘサル次第ニシテ若シ其ノ以前ニ傳ヘラルル
力如ク日本軍ニ依ル錦州攻擊力不幸實現セラルルニ至
ラハ今迄曲リナリニモ押ヘ來リタル當方面ノ民衆ハ激
昂ノ絶頂ニ達シ終ニ收拾ノ途ナキニ至ルヘキヲ懸念シ
居ル次第ナリ

五、尙改組派ニ屬スル四全大會代表ハ或ハ當地ヲ去ルコト
トナルヤモ計ラレサルモ右ハ二百名足ラスナルカ故ニ
會議ノ代表ハ三分ノ二以上ナレハ右ノ如キ結果トナル

(3)新聞檢閱ヲ嚴重ニスルコトノ三項ヲ議決シタルカ近來貴
地方面ヨリ發セラルル新聞報中ニハ例ヘハ張景惠及英順ノ
政府組織カ如何ニモ我方ノ作爲ナルカ如キ印象ヲ與フル記
事多キ爲支那人ノ眼ニ張景惠ヲ賣國奴ノ如ク映ラシメ同人
ヲ苦境ニ陥ラシメツツアルニ付テハ此際貴^(牛莊)地方面ニ對シ時
局重大ノ際ナルニ顧ミ情報供給上一層注意ヲ加フル様御傳
ヘ相成度シ

大臣、奉天ヘ轉電セリ

編注 「地」の次に「各」の書き込みあり。

張宗昌暗殺説ノ件

本件ニ關シ當口警察署長ヨリ別紙寫ノ通り報告アリタリ御参考迄

本信送付先 外務大臣 奉天總領事

(別 紙)

張宗昌暗殺説

奉天居住孫泳昌ハ張宗昌カ山東時代兵站部司令トシテ最モ信用アリタルモノナルカ張宗昌カ赴津後其ノ消息沓トシテ不明ナル為旅順ナル母堂ハ心配ノ餘リ十一月十七日孫泳昌ヲシテ消息ヲ探ルヘク天津ニ赴カセタルモノナルカ十一月

二十三日今人ヨリ當地新市街居住張宗昌旧部下陸軍中將王

殿忠ニ宛タル文通ニ依レハ自分ハ張宗昌母堂ヨリノ依頼ヲ

受ケ赴津シタル際同僚カ北平ヨリ來リ語ル處ニ依レハ張宗昌ハ目下北平鐵絲胡同ニ監禁セラレ外部トノ交通ヲ一切遮断サレ居リ連絡全ク不可能ナルモ多分暗殺セラレタルモノト見受ケラルトノ情報ニ接シタル為北平行ヲ一時見合セ天津ニ滯在シ消息ヲ探ル考ナルカ到底張宗昌ノ生還ハ絶望ナリ云々ノ文通ニ接シタル王殿忠ハ痛ク歎息シ沈痛ノ面持ニ

果シテ張宗昌ノ暗殺ヲ事實トセハ全ク張學良ト張作相ノ謀計ニ陥リタルモノニシテ張宗昌カ赴津シタル動機ハ張學良カ張作相ニ東北全軍ヲ携ヘ奉天奪回ヲ計ルヘシト命シタルヲ作相ハ肯セス張宗昌ハ日本ニ好感ヲ有シ居レハ之ニ謀ラハ萬事好都合ナラント答ヘタルニ学良モ同意シ張宗昌ヲ引出シタルモノナルカ學良ノ眞意ハ東三省ニ於ケル反張學良ノ策動者ハ悉ク張宗昌ノ旧部下ニテ或ハ張宗昌カ使嗾シ居ルモノト憶測シ張宗昌ヲ殞セハ旧部下ノ策動モ終熄スルモノト考ヘ甘言ヲ以テ誘引シ斯クハ暗殺シタルモノナラント思ハル云々

以上

903 昭和6年12月3日 在広東須磨總領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)

統一政府成立後の廣東政府の動向に関する陳友仁の内話について

別電 十二月三日着在広東須磨總領事代理より幣原外務大臣宛第六七八号

統一政府組織に関する陳友仁の内話
沙面 12月3日前発
本省 12月3日後着

第六七七號(至急)
往電第六七六號ニ關シ

二日夜求メニ依リ陳友仁ニ面會シタル處左ノ通内話セリ
一、廣東政府ハ茲一週日ノ間ニ極メテ重大ナル變化ヲ來シタルガ結局當政府成立以來濟棠ガ兎角專斷ノ傾向アリ殊ニ收入ノ三分ノ二ヲ自家軍隊ノ使用ニ充ツル等私欲ニ走リ而モ自分ハ阿片ヲ吸ヒ妾ヲ畜ヘ公私共ニ甚タシク不都合ナル為財政ノ關係ヨリ昵懇ナル肅佛成鄧澤如以外ハ強キ反感ヲ懷キタリシニ困窮シテ痛ク不安ヲ感ジタル彼ハ露骨ニモ遂ニ四全大會ニ際シ和平代表ノ面目ヲ犠牲ニシテ迄汪精衛以下改組派ヲ逐出シ自己ノ地位ヲ固メントシタリ茲ニ汪精衛派並ニ一般ノ憤慨翕然トシテ起リ遂ニ孫科ガ主宰トナリテ張惠長、陳策、陳慶雲ヲ參謀トシテ余漢謀ヲ繰縦セシメ濟棠ニ鐵錐ヲ加ヘントスルニ至レルガ胡漢民ノ調停アリ旁根ガ自信ナキ濟棠ハ三十日以來急遽態度ヲ豹シ自分等ノ歸廣ヲ求

本電絕對二秘密ニ願ヒ度シ
(属性)

(別電)

廣東 発

本省 12月3日後着

統一組織方ニ關スル陳友仁ノ内話左ノ通
第六七八號(極秘)

(甲)胡漢民以外ノ一行カ八日出發ニ決定シタルハ廿九日三十日ノ兩日ニ亘リ蔣介石ヨリ切實ナル下野ノ申出アリシニ依ル處下野後ノ前後ニ關シ蔣ヨリ左ノ通り申出タリ

一、蔣ハ執監委員ノ選舉終了スルヤ直ニ下野シ同時ニ林森ヲシテ國民政府主席ヲ又陳銘樞ヲシテ行政院長ヲ夫々臨時代行セシム

二、廣東側要人入京後ハ汪精衛ヲ主席ニ孫科ヲ行政院長

トス

右ニ對シ一日香港ニ於テ會議ノ結果右蔣ノ申出ニ對シ承諾スルコトトナリ本二日歸廣後之ヲ正式ニ國務會議ニ掛ケ其決定トシテ承諾方ヲ返電シタリ

支、北平、奉天、南京へ轉電シ、香港へ暗送セリ

リト答ヘタリ

編注四 「前」の箇所に「善」との書き込み訂正あり。
編注五 「ク」の箇所に「リ」との書き込み訂正あり。

904 昭和6年12月(8)日 在奉天森島總領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)

時局に関する全満日本人連合会における討議
内容について

奉天 発
本省 12月8日後着

第一四五號

時局ニ關スル全滿日本人聯合會七日當地ニ開催満洲各地代表五十餘名出席シ

(一)満洲ニ於ケル我政治外交軍事等一切ノ全權ヲ有シ之ヲ統轄スル最高機關設置方要望ノ件

(二)満洲政策委員會ニ在満邦人ノ代表參與方要望ノ件

(三)關外ノ支那舊政權ノ掃蕩ニ關スル件ヲ可決シ

四新國家建設ニ關スル在満邦人ノ意見協定ノ件ハ委員附託トナレリ

支、北平ニ轉電セリ

(乙)右ニ關シ本官ヨリ

一、胡漢民ハ「ドロップ」セラルル理ナリヤト尋ネタルニ陳ハ漢民ハ南京ニテ拘禁ニ遭ヒテ以來官職ニ愛憎ヲ盡カシ居リ今後ハ專ラ黨ノ爲ニ政府部外ヨク奮闘スヘシト主張シ居ル爲其意ヲ汲ミタルニ過キスト答ヘ又

二、今迄二度迄モ同様下野ノ申出ニ釣ラレ結局實現セサリシ處今回ハ誠實ナル申出ト看做スヘキ根據アリヤト尋ネタルニ陳ハ今回ハ近ク會同スヘキ南京中央執監委員ニ於テ蔣ヲ如何ナル名目ヲ以テモ新政府内ノ地位ニ選ハサルヘキ諒解出來居リ且實ハ陳銘樞ハ滬寧間ニ其軍ヲ出シテ以來當方ト聯絡シ更ニ二箇師團五十九路軍ニ加ヘ同方面ニ於テ蔣ノ下野實行ヲ迫ル手筈トモナリ居リ旁財政上ノ困難益々加ハリ居ルカ故ニ今回ハ先ツ大丈夫ノ見込ナリト答ヘタリ

編注一 「困」の箇所に「?」との書き込みあり。
編注二 「豹」の次に「変」の書き込みあり。
編注三 「秘密」の箇所を「極秘」と書き込み訂正あり。

905 昭和6年12月14日 在天津桑島總領事より
犬養外務大臣宛(電報)

張学良を中心とした華北時局觀察について

天津 12月14日後発
本省 12月14日後着

第六八五號
北支時局ニ關シ御参考迄

(一)反學良各派ハ相不變策動ヲ續ケ居ルモ意見容易ニ一致セサル爲差當リ實力行動ニ出ツル模様ナキハ勿論學良辭職勸告ノ連名通電スラ發出スル程度ニ至ラス南京ノ狀勢及錦州攻撃ヲ見送リノ形ナルカ特ニ閻ト韓ハ合作見込ナク且何レモ河南ニ於ケル蔣介石ノ實力ヲ懸念シ動キ得サルカ如シ

(二)日本カ錦州ヲ攻撃スル結果ハ却テ一般民衆ノ學良ニ對スル同情ヲ高ムヘシ(往電第五九一號)從テ假令我方ノ手ニ依リ關外ヨリ東北軍ヲ驅逐スルモ學良ハ下野セサルヘキニ付寧ロ此際熱河方面ヲ攬亂セシムルコト學良切り崩シノ捷徑ナリトノ觀察有力ナリ

氣味ナリシ王樹常ノ不満ヲ緩和スル一方周龍光ヲ起用シ日本トノ聯絡ヲ密接ニシタル次第ナルカ尙王力今次我方ニ對スル讓歩ニ依リ我軍部ノ氣受左程惡シカラサル事實ト併セ考慮スルニ天津ニ於ケル日支衝突ノ危險ハ餘程緩和セサレ從テ學良ノ地位ハ多少安全ヲ加ヘタリト觀察スル向鮮カラス

(²)軍部ニ於テハ右觀察ヲ裏書スルト共ニ東北軍内部ニ於ケル兵變モ其氣運相當熟セルカ如キ觀アルニ拘ラス實際ハ兵變後ニ於ケル各自ノ立場ニ不安アル爲何レモ尻込ミシ居ルモノト見込ヲ立テ居リ寧ロ錦州攻擊ヲ機會ニ關内ニ於テモ何等カノ口實ヲ捕へ事ヲ構ヘ學良ヲ下野セシムル外ナシトノ空氣次第濃厚トナルヤニ看取セラレ往電第六八一號山海關增兵ハ之力準備ト認メラル

(五)一方學良力關外軍隊ノ自發的撤退ヲ實施スル場合ニハ學良ハ南京政府ニ對スル立場ヲ失フノミナラス一般殊ニ目下問題トナリ居ル全國學生團ノ反張運動モ高マル爲下野ノ餘儀ナキニ至ルヘントモ思料セラル處從來ノ彼ノ態度並ニ反學良派ノ無力ナル現狀ニ顧ミ或ハ飽ク迄現地位ニ踏ミ止マルヘシトノ觀察モアリ其間下級分子及黨部ノタントスルモノノ如シ

二、蔣ノ失脚及廣東派ノ中央乘出ニ依リ地位ノ動搖ヲ感知セル學良ハ南京新政府ヨリノ免職查辨令ニ接スルニ先チ近ク自發的ニ副司令ヲ辭スルト共ニ副司令部ハ裁撤シ之ニ代フルニ軍事、財政、外交ノ三委員會設置ノ意向ヲ有シ居リ

三、坊間奉天軍隊ノ兵變ヲ傳フルモノアル處裏ニ學良ハ楊宇霆事件以來師ヲ廢シ旅ヲ獨立セシメ旅長ニハ全部自己ノ腹心ヲ配シ專ラ兵變防止ニ留意シ居リ現ニ河北ニハ約廿個旅駐在シ居ルモ何レモ前記編成ニ基キ王樹常、于學忠等モ自由行動ニ出テ難ク又張作相、萬福麟ハ關内ニ殆ト自己軍隊ヲ有セス湯玉麟ハ既ニ巨額ノ蓄財ヲ爲シ此際敢テ危險ヲ冒ス勇氣ナカルヘク前記蔣トノ關係ト相俟テ學良ノ下野ハ差當リ見込薄ナルヤニ見ルモノ多シ

部外發表見合セヲ請フ

支ヨリ上海ヘ奉天ヨリ吉林ヘ夫々轉報アリタシ
支、南京、漢口、廣東、青島、濟南、天津、奉天、哈爾賓

對日挑發的態度ト之ニ對スル我軍部ノ出方トニハ鮮カラス關心ヲ要スルモノアリ目下ノ日支間ノ關係ハ一時的少康ニシテ事態確決スル迄ハ北支ノ治安ハ相當危險ヲ含ム次第ト認メラル

(第四及第五項部外極秘)

公使ヨリ上海、南京ニ轉報アリ度シ

公使、北平、青島、濟南、漢口、廣東、奉天、ニ轉電セリ

906 昭和6年12月15日 在中國矢野公使館參事官より
犬養外務大臣宛(電報)

蔣介石の下野決意は財政行詰りの結果との湯

爾和、黃濬の内話について

906 昭和6年12月15日 往電第738號ニ關シ
本省 12月16日前着

第七四八號

十五日湯爾和及黃濬力原田ニ爲セル内話

一、今回蔣介石カ下野ヲ決意セルハ全ク財政行詰ノ結果ニシテ蔣ハ一時廣東派ニ政權ヲ引渡シ長江一帶ヲ巡遊ノ上河

ヘ轉電セリ

907 昭和6年12月16日 在中國重光公使より
犬養外務大臣宛(電報)

蒋介石の下野実現および統一政府の頗触など
に関する甘介侯の内話について

上 海 12月16日後發
本省 12月16日後着

第一四〇五號

十六日甘介侯本使ヲ來訪愈陳友仁モ南京ニ赴クコトトナリタルカ其以前ニ陳氏ト會見セラル御希望アリヤト尋ネタルニ付本使ハ當方ヨリ別ニ御話スヘキコトハ無キモ陳氏ニ於テ希望セラルニ於テハ何時ニテモ會見シ差支ナシト述へ置キタリ尙其際現下ノ政局ニ付其爲セル説明ハ大体往電第一四〇三號許卓然ノ談話ト大同小異ナルカ大要左ノ通り蔣介石下野ノ通告ハ十四日陳銘樞ニ依リ上海ニ齋サレタルカ右ニ依レハ蔣介石ハ愈下野ト決シタルニ付廣東側ハ直ニ入京サレタシトノコトナリシニ依リ廣東側ハ先ツ蔣介石ノ下野實現ヲ主張シ右實現ノ翌日南京ニ赴クコトヲ約シタリ

然ルニ右下野ハ愈昨十五日實現シタルニ依リ今十六日一同南京ニ赴クヘキ筈ナルモ種々都合アリ一同ノ赴京ハ多分明十七日トナルヘキ状況ナリ二十一日以後開會セラルル第四執監會議迄ハ林森陳銘樞ニ於テ主席及院長ヲ代理シ其以後ハ汪精衛主席孫科行政院長トナリ外交部長ハ陳友仁之ニ當ルコトナルヘク財政部長ハ多分孫科兼任スヘシ其他南京

政府ノ陣容ハ大体新ナル顔觸トナル見込ナリ胡漢民ハ廣東ニ残リ後顧ノ憂ヒ無キ様ニスル豫定ナリ蔣介石ハ北上スル力又ハ河南ニ赴クカノ二途ノ一ヲ取ルヘク何レニスルモ南

京ヲ立去ラシムル意図ナルカ執監會議ノ如キ會議ニハ其委員トシテ出席セシムル筈ナリ南京政府ノ更迭ハ政治外交及特ニ財政方面ノ行詰リノ結果ナルカ其近因トモ認メラルハ最近ノ學生運動ナリ右運動ニ參加セル學生中ニハ「ファシスト」的ノ者モアリ共產主義的分子モアリ彼等ハ直接外交問題ニ付テ運動ヲ開始シタルモノナルモ何レモ皆蔣介石ノ下野ヲ主張スル點ニ於テハ大体一致シ居レリ且彼等ハ廣東側ニ左袒政府ヲ作ル機會ヲ與フルコトヲ希望シ居レリ云々奉天、北平、天津、濟南、青島、漢口、福州、廣東、南京へ轉電シ上海ヘ轉報セリ

908 昭和6年12月16日 在満州里山崎（誠一郎）領事より
モンゴル政庁および青年党などによるコロン

バイル独立運動の状況について

昭和六年十二月十六日

在満洲里領事 山崎 誠一郎

外務大臣 犬養 毅殿

呼倫貝爾獨立運動ニ關スル件

日本軍濟々哈爾入城以來本件運動再燃說熾ニ傳ヘラレタルモ事實何等進展ノ模様ナキ次第ハ本月八日附機密公第四五九號拙信ヲ以テ及報告置タルカ本件ニ關シ本月十二日海拉爾ニ於テ蒙古政廳ノ實權ヲ握レル福善（副都統貴福ノ長子）及軍事教育廳長郭文霖並ニ蒙古青年黨幹部ボルドー等ト會見シタル當地上田特務機關長ノ内話セル所大要別紙ノ通りニシテ政廳及青年黨共蒙古民族自決ヲ標榜セル點ニ於テ其目的ヲニスルモ前者ハ漸進的ニシテ先ツ政治的向上ヲ企圖セルモノノ如ク後者ハ急進的色彩ヲ有スルモ寧口從来不遇ノ地位ニ在ル彼等ノ政廳側ニ對スル不滿ノ表トモ見ルコ

トヲ得ヘク殊ニ青年黨ハ昔日ノ勢ナク又同黨ノ中心人物タル郭道甫（メルセ）カ來滿後行衛不明トナリタル程ニテ

（政廳參議放霖泰外二名ハ本月十三日海拉爾ヨリ來滿本官

ヲ來訪シ本月九日附機密公第四六〇號拙信（郭道甫ハ本月六日來滿ストアルハ本月四日ノ誤ナルカ如シ）ノ通り郭ハ

本月四日來滿同夜當地中國軍司令部ニ一泊ノ上翌五日當地蘇聯領事館訪問同夜ハ知友露人ノ宅ニ一泊シ翌六日午前十

一時頃ヨリ行衛不明トナリタリトテ問合セ來リタル事實アリ右ニ關シ巷間種々臆説アルモ一部ニ於テハ郭ハ庫倫ニ在ル妻子ノ許ニ赴キタルモノト觀測スル向アリ）同黨内部ノ結果モ兎角亂レ勝チナル實情ニシテ將來ヲ期待シ得サルモ

ノノ如ク目下ノ處大勢ハ政廳側ノ指導如何ニ依リ動クモノト觀察セラル尙ホ別紙ボルドーノ談ハ客月十三日附機密公第四三三號拙信ト重復スル點不妙サルモ聞込ノ儘何等御参考迄一括茲ニ報告申進ス

本信寫送附先

在華公使 北平大使館參事官 奉天 哈爾賓 齊々哈爾各領事官

尚右二十名ハ將來蒙古軍隊ノ幹部トスヘキモノニシテ適當ノ時機ニ於テ日本側ヨリ小銃二千挺ノ讓渡ヲ受ケ先ツ五千百ノ蒙古人軍隊ヲ組織スル計畫ナリ
因ニ現在ノ情勢ニ於テハ内蒙古ト呼倫貝爾ハ狀況ヲ異ニス

980

ルモノアルヲ以テ直チニ兩者ノ合体ヲ庶期セス又外蒙ハ種族ヲ異ニシ且目下蘇聯邦ノ勢力下ニ在ルヲ以テ之ト提携スルコトハ甚タ困難ナルヘキヲ以テ「呼倫貝爾統一以外ハ先ツ彼等ノ理想ト看テ可ナリ」

二、蒙古青年黨ノ意図（「ボルドー」ノ談）

目下黨員トシテ互ニ聯絡ヲ有スル者ハ約二、三十名ニ過キサルモ有事ノ際相呼應シ得ヘキモノハ約二百名位ノ見込ナリト前提シ班禪喇嘛ノ搆取ヲ罵リ又蒙古民族向上ノ爲メ海拉爾ニ學校、劇場、浴場等ノ文化的施設ヲナスコトノ急務ナルコトヲ力説シタル後獨立運動ニ言及シ吾人ハ蒙古人ノ蒙古建設ヲ理想トスルモノナルカ滿洲ト合体スルコトニハ絕對反対ニシテ又内蒙古トモ事情ヲ異ニスルヲ以テ呼倫貝爾單獨ニテ獨立ヲ實行スルヲ要ス固ヨリ自力ヲ以テ獨立スルコトハ到底不可能ナルヲ以テ日蘇何レカノ援助ヲ希望ス出來得レハ日本ニ賴リ度キモ苟モ我々ニ援助ヲ惜シマサル國アラハ日蘇何レタルヲ問ハス之ヲ歓迎スヘシ而シテ之カ目的達成ノ爲メ必要ナル援助トンテハ(+)獨立決行ノ爲メ指導者、資金及兵器ヲ(+)獨立後ノ經營ノ爲メ指導者ト資金ノ供給ヲ希望ス

909 昭和6年12月20日 在鄭家屯大和久領事より
機密公第三一〇號

錦州以北内蒙古王會議開催ニ關スル件

本件ニ關シ當館ヨリ洮南ニ派遣出張中ノ杉尾巡查部長報告

左記ノ通リニ付御参考迄右報告申進ス

記

昭和六年十二月二十日 在鄭家屯

外務大臣 犬養 毅殿

錦州以北内蒙古王會議開催ニ關スル件

在鄭家屯

領事 大和久 義郎

本件ニ關シ當館ヨリ洮南ニ派遣出張中ノ杉尾巡查部長報告

左記ノ通リニ付御参考迄右報告申進ス

一、開催月日及場所
十二月十二、三日泰來ニ於テ開催セラレタリ

一、會議出席者

(一) 日本側 松井退役大佐外三名
(二) 當地支那側

本信寫送付先

在中國公使 奉天、哈爾賓、吉林、滿洲里

鐵嶺、長春、齊々哈爾及關東廳

札魯特、圖什業圖、札隨克圖、郭爾羅斯、

杜爾巴圖、札賚特、伊克明安ノ各旗王

イ、外蒙側

黒龍江省各旗ヨリ一名滿洲八旗ヨリ一名

910 昭和6年12月(27)日 在廣東須磨總領事代理より

犬養外務大臣宛(電報)

統一政府組織は順調に進展および東北政局の混亂は軍閥解体に有利との唐紹儀の談話について

広 東 発

本 省 12月27日後着

第七三八號
廿五日唐紹儀ノ本官ニ對スル時局談中御参考トナルヘキ點左ノ通

一、統一政府組織問題モ幾度力難局ニ直面シ爲ニ陳濟棠李

宗仁等兩廣實力派ト其他トノ關係思ハシカラサルモノアリ

シモ最近極メテ順調ニ進展シ曲リナリニモ廣東側ヲ中心ト

スル新政府ノ成立モ目睫ノ間ニ迫リテ汪等ノ主張モ此ノ分

ニテハ實現ノ見込附キタル爲濟棠等ノ懸念モ薄ラキ實力派

モ欣然統一政府ヲ助成スルコトトナリ結局陳銘樞ノ如キ武ナリト云フ

以 上

人ニシテ且ツ有數ナル政治家ヲ中央ニ据ヘ伍朝樞ノ如キ
(同人ハ重寶ナル爲司法院長ニ所望セラレ居ルハ事實ナリ)
有能ナル廣東出身者ヲ省主席ニ据ヘ中央及廣東双方トモ自
分等同士ニ依リテ堅ムルコト政局將來ノ爲最モ安全ナリト
信シ居リ旁伍ハ是非共廣東ニ引キ戻シ度キ心組ナリ
二、張學良ハ其命數幾許モナキヲ覺リ蔣馮等ト勾結セント
計リ居ル一方所謂安福派ノ段祺瑞推戴運動モ抬頭シ之ニ韓
復集ノ思惑モ加ハリ北方政局ハ愈收拾成リ難キ形勢ナルカ
實ハ右様ノ状勢ハ學良等ノ軍閥ヲ一舉ニ「エリミネート」
セントスル自分等ノ方針實行ニハ却テ好都合ナリト存セラ
ル(尙胡漢民モ廿六日本官ニ對シ右ト同様ノ觀測ヲ述ヘタ
ル上本運動ハ五六ヶ月前ヨリ試ミラレ居ルモ蔣馮ハ安福派
ト妥協ノ氣遣ヒナケレハ北方軍閥團結モ結局物ニナラサル
ヘシト述ヘ居タリ)

公使ヨリ上海ニ轉報アリ度シ
奉天、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、南京ニ轉電
シ香港ニ暗送セリ

編注一、二 「蔣」の箇所に「閻」との書き込み訂正あり。

912 昭和6年12月29日 在濟南西田總領事より
犬養外務大臣宛(電報)
馮玉祥との会談状況等につき韓主席談話について
濟南 12月29日後発
本省 12月29日後着
第三一二號
往電第三〇九號ニ關シ
二十八日本官韓主席ニ會見ノ際韓ヨリ錦州方面ノ狀況ヲ尋
ネタルニ付我政府ノ聲明要領ヲ話シタルカ韓ハ馮玉祥トノ
會談状況ニ付馮ハ依然元氣ナル印象ヲ得タルカ如ク見受ケ
ラレタリト冒頭シ

尚馮ハ當地ニ於テモ天津ニ於ケルト同様ナル傳單ヲ配布セ
リ
公使ヨリ上海ニ轉報アリ度シ
公使、北平、青島、南京、奉天、天津、漢口、廣東ニ轉電
シ芝罘ニ暗送セリ

人ニシテ且ツ有數ナル政治家ヲ中央ニ据ヘ伍朝樞ノ如キ
(同人ハ重寶ナル爲司法院長ニ所望セラレ居ルハ事實ナリ)
有能ナル廣東出身者ヲ省主席ニ据ヘ中央及廣東双方トモ自
分等同士ニ依リテ堅ムルコト政局將來ノ爲最モ安全ナリト
信シ居リ旁伍ハ是非共廣東ニ引キ戻シ度キ心組ナリ
二、張學良ハ其命數幾許モナキヲ覺リ蔣馮等ト勾結セント
計リ居ル一方所謂安福派ノ段祺瑞推戴運動モ抬頭シ之ニ韓
復集ノ思惑モ加ハリ北方政局ハ愈收拾成リ難キ形勢ナルカ
實ハ右様ノ状勢ハ學良等ノ軍閥ヲ一舉ニ「エリミネート」
セントスル自分等ノ方針實行ニハ却テ好都合ナリト存セラ
ル(尙胡漢民モ廿六日本官ニ對シ右ト同様ノ觀測ヲ述ヘタ
ル上本運動ハ五六ヶ月前ヨリ試ミラレ居ルモ蔣馮ハ安福派
ト妥協ノ氣遣ヒナケレハ北方軍閥團結モ結局物ニナラサル
ヘシト述ヘ居タリ)

公使ヨリ上海ニ轉報アリ度シ
奉天、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、南京ニ轉電
シ香港ニ暗送セリ

編注一、二 「蔣」の箇所に「閻」との書き込み訂正あり。

奉天大西關ニアル東北火柴同業會ニ於テハ瑞典系マツチヲ
驅逐スヘク前東北政務委員會ニ對シ東北火柴專賣條例制定
方ヲ申請シ遼寧財政廳内ニ東北火柴專賣總局ナルモノヲ設
ケ本年四月ヨリ火柴專賣ヲ實施シ居タリシカ今回ノ事變ニ
依リ舊政權者驅逐セラレタル爲自然瓦解シタルヲ以テ長春
居住燐寸製造業者前田伊織、佐藤精四郎等ハ本專賣制度ヲ
引續キ實行スルニアラサレハ瑞典系燐寸ニ壓倒サルル虞ア
リトシ過般別紙ノ如キ東北火柴公賣總局暫行規則十三條ヲ
制定シ奉天、吉林兩省財政廳ニ對シ之力許可方申請シタル
東北火柴公賣總處ノ燐寸公賣暫行規則

拓務次官殿
外務次官殿
在京關東長官殿

關東廳警務局長

911 昭和6年12月28日 中谷閏東庁警務局長より
永井外務次官他宛
奉天火柴公賣処の設立について
關機高第一四八八四號ノ二 (昭和7年1月6日接受)
昭和六年十二月二十八日

編注 「印象ヲ得」の箇所に「モ多少老ヒ」との書き込み
訂正あり。

テ二十六日第一回茶話會ヲ舉行セリ顏振左ノ通

張學良、韓復榘、萬福麟、王揖唐、李石曾、徐永昌、
熊希齡、龐炳勲、張繼、方本仁、沈鴻烈、王樹常、

胡適、蔣伯誠、劉哲、湯玉麟、蔣夢麟、魯蕩平、
宋哲元、傅作義、吳鼎昌、于學忠、商震、劉鎮華、

周作民、湯爾和、趙戴文、門致中、張伯齡、張作相、

羅文幹

913 昭和6年12月31日 在中國矢野公使館參事官より
大養外務大臣外宛
國民政府が東北政務委員会の北平移転を認め
同委員会の改組を発表について
昭和6年十二月三十一日 公第一〇一〇號 (昭和7年1月20日接受)

尙東政務委員會ノ下ニ財政整理委員會、軍政整理委員會ヲ設
設クル趣ニテ

在中華民國日本公使館
大使館參事官 矢野 眞〔印〕
外務大臣 大養 豪殿
東北政務委員會ノ改組ニ關スル件

張學良側ニ於テ李石曾等活動ノ結果當地ニ一種ノ政務委員

會ヲ設置スルコトナリタルカ其ノ後東北政務委員會移轉
ノ形式ヲ採ルコトナレル次第ハ曩ニ報告ノ通ナル處十二
月十九日國民政府ハ東北政務委員會委員劉哲ノ同委員會北
平移轉方ノ申請ヲ聽許シタルヲ以テ同委員會ヲ擴張シテ委

員ヲ三十一名トスルコトトシ二十五日正式ニ發表セラレ次

(ロ) 軍事整理委員會ハ各省主席及各師長ヲ委員トシ軍事整理
計畫商議ノ管ニテ十二月二十五日張學良ハ在平各將領ト
商議ノ結果于學忠鮑文樾、秦華等ニ於テ同委員會組織章
程起草ノコトニ決定セル由右報告ス
本信寫送付先 公使

上 海 哈爾賓 奉 天 天 津

濟 南 青 島 漢 口 廣 東
南 京